

# 旭分団詰所建設工事

承認	設計	担当	縮尺	工事名称	旭分団詰所建設工事	No.
				設計年月日	図面名称 表紙	
_____	_____	_____	_____	_____	_____	A - 00

株式会社 進藤設計事務所

図面リスト

株式会社 進藤設計事務所

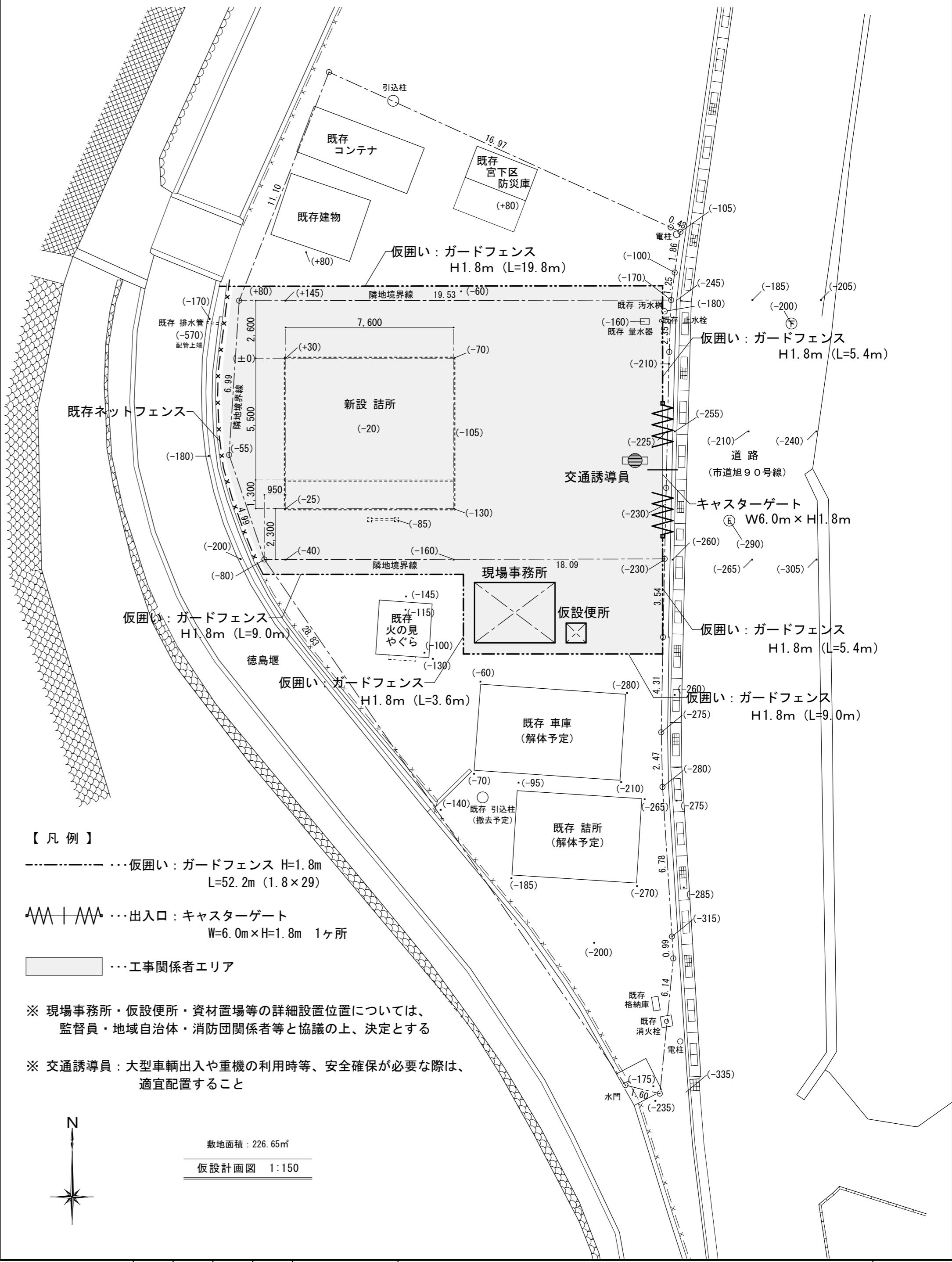
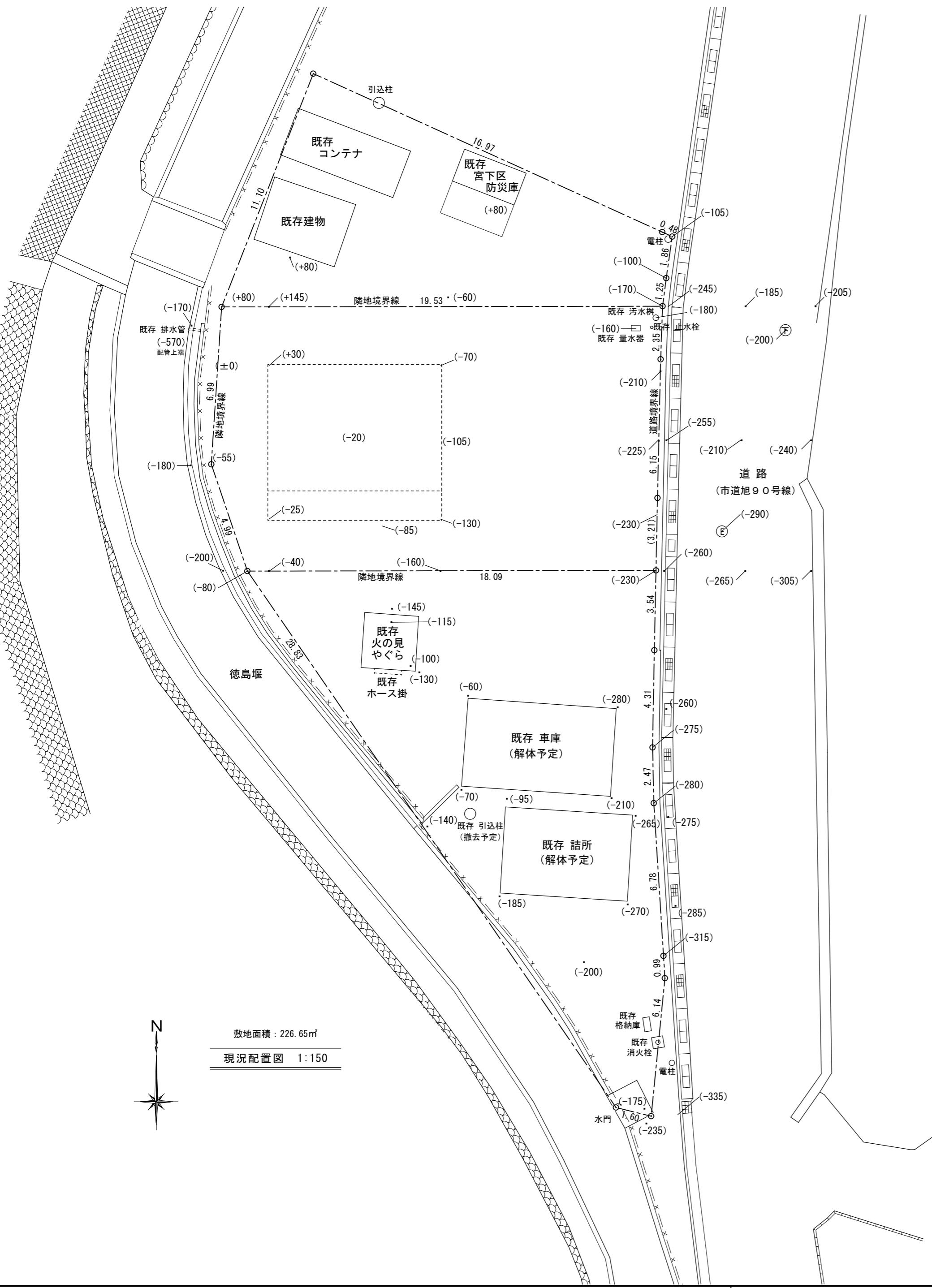
承認	設計	担当		縮尺 —	工事名称 旭分団詰所建設工事	No. A-01
				設計年月日	図面名称 図面リスト	

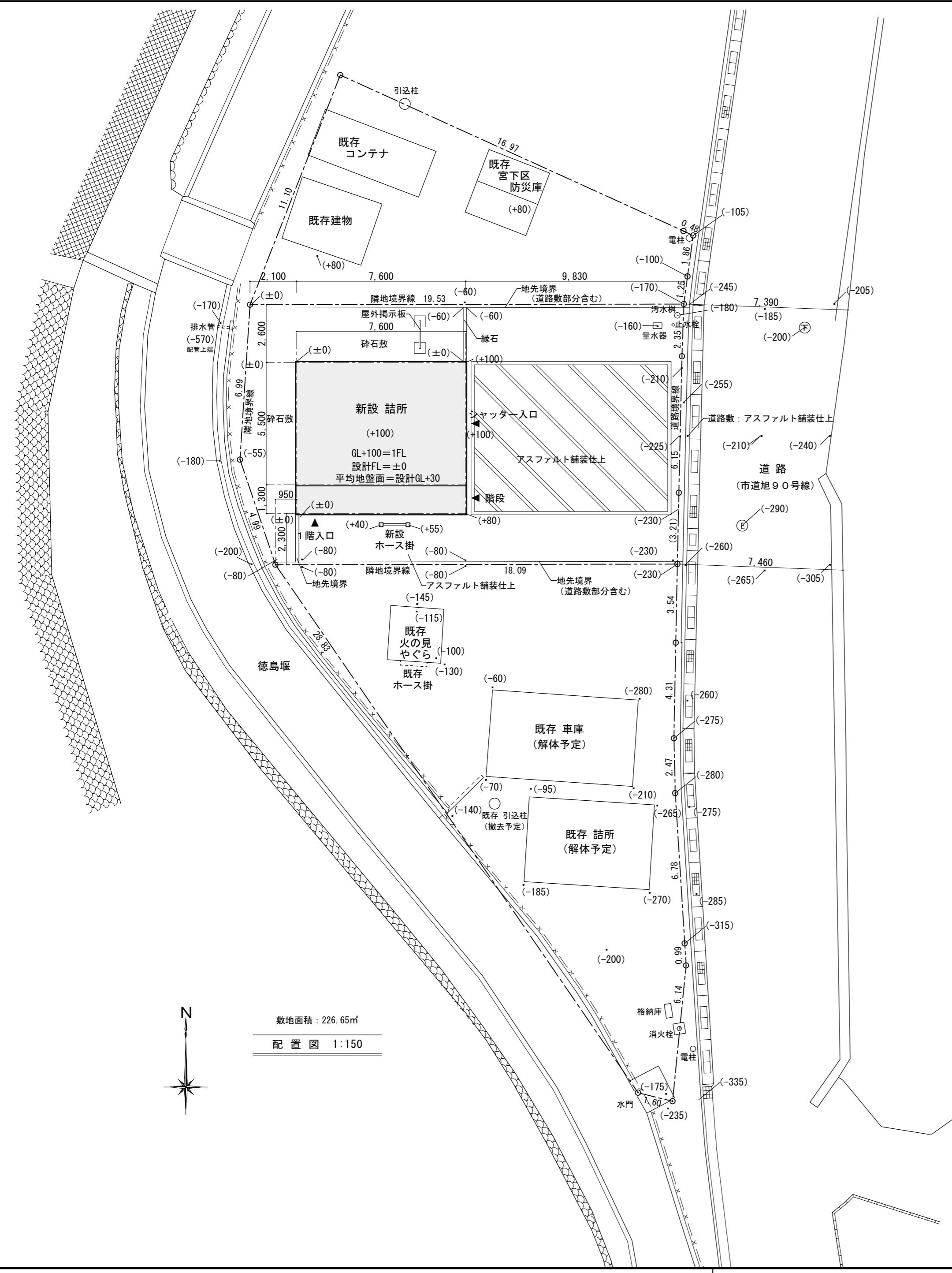
旭分団詰所建設工事 設計図		令和 年 月 (全 枚)		章	項 目	特 記 事 項		⑪ 電子納品	◎工事関係図書を電子納品すること		2 場所打ち	コンクリートの種別及び設計基準強度		(4.5.4) (表4.5.1)	
仕 様 書		一般 共通事項				① ① 適用基準等	・建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 最新版） ・工事写真の振り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部監修）					( ) 種類 ( ) N/mm <sup>2</sup> 以上		コンクリート打ち場所	
I 工事概要		敷地所在地 山梨県韮崎市旭町上條北割字宮下2920-2		② 工事実績情報の登録	※適用する (1.1.4)		鉄筋の種類 アーチストリル工法 (・安定液使用 ・無水緩衝剤)		コンクリート打ち場所		アーチストリル工法		(4.5.5)		
敷地面積		都市計画区域 区域区分非設定		③ 施工計画書	・工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し、監督職員に提出する。 ・施工計画の内容を変更する必要が生じた場合は、監督職員に報告するとともに、施工に支障がないよう適切な措置を講ずる。		鉄筋の種類 オールケーシング工法 (孔内の水張 ・行う ・行わない)		コンクリート打ち場所		オールケーシング工法 (孔内の水張)		(4.5.6)		
防火指定		その他の地域地区 指定なし		④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 ・要 不要		鉄筋の種類 壓着打工法		コンクリート打ち場所		・壁面打工法 (孔内水張)		(4.5.5)		
道路 法42条1項1号 (市道旭90号線)		敷地面積 226.65m <sup>2</sup>		⑤ 施工条件	工事着手については監督職員と協議し着手する。 (1.3.5)		鉄筋の種類 打底杭工法 (※安定液使用)		コンクリート打ち場所		・底面打工法 (※安定液使用)		(4.5.6)		
用途地域 指定なし		建坪率 70%		⑥ 発生材の処理等	※現場説明書による 構外搬出適切処理 (1.3.11)		側壁測定 行う ( ) 行わない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
容積率 200%		建築面積 51.07m <sup>2</sup>		⑦ 建築材料等	本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及び性能に関する試験データが整備されていること (1)品質及び性能に関する試験データが整備されていること (2)生産施設及び品質の管理が適切に行われていること (3)安定的な供給が可能であること (4)法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること (5)製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6)販売、保守等の営業体制が整そろっていること なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（社）が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。		側壁測定 行う ( ) 行わない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
建物の主要用途 08470 事務所(消防団詰所)		工事の種類 新築		⑧ 化学物質を放散する 建築材料等	建築材料の使用制限		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
構造・階数 鉄骨造 2階建て		柱数 1棟		⑨ 特別な材料の工法	柱に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
建築面積 51.07m <sup>2</sup>		延べ床面積 81.58m <sup>2</sup>		⑩ 技能士	適用工事種別 鉄筋工事 (鉄筋組立て作業) コンクリート工事 (型枠施工) 鉄骨工事 (吊り) フロック・ALCパネル工事 (ブロック建築 ALCPパネル施工) 防水工事 (アスファルト防水工事作業 合成ゴム系シート防水工事作業 塗膜防水工事作業) 石工事 (石材施工 (石張り施工)) タイル工事 (タイル張り) 木工事 (建築大工) 屋根及びとい工事 (建築板金 (内外装板金作業)) 金属工事 (内装仕上げ施工 (鋼製下地工事作業)) 左官工事 (左官) 建具工事 (サッシ施工 ガラス施工 自動ドア施工) カーテンウォール工事 (カーテンウォール施工 サッシ施工 ガラス施工) 塗装工事 (塗装 (建築塗装作業)) 内装工事 (プラスチック床仕上げ工事作業 ボード仕上げ工事作業 (表装 (壁装作業))) 植栽工事 (植栽)		技能検定の職種		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)
最高の高さ 11.07m		最高の軒高さ 7.12m		⑪ 電子納品	◎工事関係図書を電子納品すること		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
消防法上の有窓階・無窓階 有窓階		下水の放流形式 下水道供用開始区域		⑫ 化学物質の濃度測定	施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、ステレンの5物質について測定し、厚生労働省で定める指針値以下の濃度であることを確認し、測定結果報告書を監督に提出すること。(測定結果が指針値を超えた場合は、発生源を特定し、換気などの措置を講じた後、再度測定を行う。)		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
工事種目 図示の内容全て		II 工事範囲 ※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。 ・「3. 工事種目」のうち の工事範囲は下記表のとおりとする。 ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。		⑬ 完成図等	※作成する 提出部数 ※各2部 部 (A3版第2原図及び電子媒体 (CD-R)) ※施工計画書 提出部数 ※1部 部 ※施工図 提出部数 ※1部 部 ※保全に関する資料 提出部数 ※1部 部		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
2 仮設工事		工事範囲全て		⑭ 完成写真	下記のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。 分類・規格 摄影箇所数 提出部数 原板の大きさ (mm)		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
3 土工事				⑮ 設備工事との取合い	○カラ― ※キャビネ版 外部 ( ) 内部 (各室) ※2 ~ 6 ※100×125以上		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
4 地盤工事				⑯ 設計 G.L	・カラ―半切木製パネル 324×400 (mm) ・電子データ 外部 ( ) 内部 ( ) ※2 ※200万画素以上 ※300dpi以上		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
5 鉄筋工事				⑰ 工事写真	100×125以上の原板を使う場合は、監督職員にあらかじめた猿を出し確認を受ける。 電子データは、RGB (フルカラー) 、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出とする。 撮影業者 ※監督職員の承諾する撮影業者 (ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする)		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
6 コンクリート工事				⑱ 監督職員事務所	設備機器の位置、取扱い等の検討ができる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
7 鉄骨工事				⑲ 設備工事との取合い	現況G.Lを設計G.Lとする ○図示		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
8 コンクリートブロック・ALCパネル押出成形セメント板工事				⑳ 工事写真	・「営繕工事電子納品要領 (案) (平成14年11月改訂版)」による。		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
9 防水工事				㉑ ① 監督職員事務所	※設ける 規格 1号 2号 3号 4号 5号 ○設けない ・備品 (必要備品は適宜設置)		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
10 石工事				㉑ ② 工事用水	構内既存の施設 ○利用できる (※有償・無償) ※利用できない		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
11 タイル工事				㉑ ③ 工事用電力	構内既存の施設 ○利用できる (※有償・無償) ※利用できない		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
12 木工事				㉑ ④ 埋戻し及び盛土	種別 A種 ※B種 C種 D種 ・建設汚泥から再生した処理土 ○		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
13 屋根及びとい工事				㉑ ⑤ 建設発生土の処理	○現況説明書による ○構外搬出適切処理 構内指示の場所にたい積 構内指示の場所に敷き均し		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
14 金属工事				㉑ ⑥ 既製コンクリート杭地業	種類 (4.3.1~3) ※高強度プレストレスコンクリート杭		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
15 左官工事				㉑ ⑦ 混合材料	杭径 (mm) 杭長 (m) 及び種別 繩手数 セット数 備考		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
16 建具工事				㉑ ⑧ 無筋コンクリート	試験杭 本杭		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
17 カーテンウォール工事				㉑ ⑨ 断熱材兼用型枠	杭頭の処理 ※切断しない 先端部形状 ※開放形 ■閉く平たん形 杭の繩手 建築基準法に基づく指定又は認定を受けた繩手を使用してもよい。		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
18 塗装工事				㉑ ⑩ 地盤工事	施工法 (4.3.4~5) ・特定埋込み杭工法 工法 ブレボーリング拡大根固め工法 中堀拡大根固め工法 H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法 杭周辺充填液 使用する		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
19 内装工事				㉑ ⑪ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
20 ユニット及びその他の工事				㉑ ⑫ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
21 排水工事				㉑ ⑬ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
22 鋼装工事				㉑ ⑭ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
23 植栽及び屋上緑化工事				㉑ ⑮ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
III 建築工事仕様				㉑ ⑯ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
1. 共通仕様				㉑ ⑰ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房常務部建築課監修の「公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) (令和7年版)」による。				㉑ ⑱ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
2. 特記仕様				㉑ ⑲ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
(1)項目は、番号に ○印の付いたものを適用する。 (2)特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。				㉑ ⑳ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		
(3)特記事項に記載の ( ) 内表示番号は、標注の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4)製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また ( ) 内は製品名を示す。 (5)□印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」の特定調達品目を示す。				㉑ ㉑ 施工計画書	セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による		側壁測定 行う ( ) 行かない		セメントの種類 6章コンクリート工事のセメントの種類による				(4.5.5)		

⑦ 鉄骨工事	① 鉄骨の製作工場	製作工場の加工能力 (7.1.3)	⑧ コンクリートブロック・A-L-C バネル・押出成形セメント板工事	※空洞ブロック16・空洞ブロック16-W (8.2.2)	3 壁の石張り工法	外壁石張り (10.3.2~3) (10.5.2~3)	⑭ 金属工事	1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.1) (表14.2.1)
		監督職員の承諾する製作工場 ・建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた (株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「( )グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。		※標示表8.3.1及び下表による 適用箇所 厚さ (mm)		・外壁湿式工法(※あと施工アンカーホルダーフラッシュ工法・施工アンカーワーク法) ・乾式工法 石裏面処理 行う(・小口共) 裏打ち処理 行う ドレインパイプ ※ステンレスSUS304		種別 ・B-B-1種(無着色) ・B-B-2種(・ブラウン系・ブラック・スチールカラーリー)
② 施工管理技術者	適用する (7.1.4)	入熱、バス間温度の溶接条件 適用箇所・図示・柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件 ※図示		※標示表8.3.1及び下表による 適用箇所 厚さ (mm)		内壁石張り (10.4.2~3) (10.5.2~3) ・内壁空積工法(※あと施工アンカーホルダーフラッシュ工法・施工アンカーワーク法) ・乾式工法		2 鉄鋼の垂鉛めっき (14.2.2) (表14.2.2)
		鋼材の材質 (7.2.1) (7.2.10) (表7.2.1)		種類の記号 使用箇所 規格等		床及び階段の石張り (10.6.2~3) 床石張りの表面処理 行う 屋内のワックス掛け 行う (10.1.5)		表面処理方法 種別 施工箇所 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 ・F種
③ 鋼材	鋼材の材質 (7.2.1) (7.2.10) (表7.2.1)	種類の記号 使用箇所 規格等	③ A-L-C バネル	○外壁バネル 1180・1960 ○100 ○120 ○A種・B種 ○間仕切壁バネル ○100 ○120 ○C種・D種 ・屋根バネル 980 ○100 ○120 ○F種 ・床バネル 2350・3530 ○100・150 ○120・150		4 床及び階段の石張り (10.6.2~3) 床石張りの表面処理 行う 屋内のワックス掛け 行う (10.1.5)		3 金属成形板張り (14.6.2) (表14.2.1)
		種類の記号 使用箇所 規格等		・外壁バネル D-D-R ・T-T-R ・A種 ・B種 ・C種 耐火性能 有り( ) 無し		役物: 標準的な曲がり(小口、標準、二丁、屏風)の役物は一体成形とする タイルの見本焼き 行わない(※外壁タイル) ・行う(※外壁タイル) (11.1.4)		形狀 製法 材種 寸法(mm) 厚さ(mm) 表面処理 ・スパンダル形・押出し ■アルミニウム製 ・ロール ■B-B-1種 ・バネル形 ■B-B-2種 伸縮調整鍵子 ※設けない・設ける(施工箇所は図示)
④ スカラップ	改良型スカラップ	鋼製エンドタブ 切断する箇所( )	4 押出成形セメント板(EOP)	・JIS形高力ボルト JIS形高力ボルト 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.12.4)		11 タイル工事	1 陶磁器質タイル タイルの種類 (11.2.2) 施工箇所 形状寸法( mm) きじ 磁器 せっせつ 壁面處理 施工方法 色 再生材の色 標準 特注 適用( ) 備考 屋外階段 200×100	4 アルミニウム製 笠木 (14.7.2) (表14.2.1) (表14.7.1)
		※超音波探傷試験 完全溶込み溶接部 ・放射線試験 ・マクロ試験		・外壁バネル F-F-R ・D-D-R ・T-T-R ・A種 ・B種 ・C種 耐火性能 有り( ) 無し		2 張り付け用材料 既製調合モルタル(仕上げ表の仕様により合成樹脂を添加する) (11.2.3) 保水率 単位容積質量 接着強さ(N/mm <sup>2</sup> ) 長さ変化率 曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> ) (%) (kg/l) 標準時 温冷線返し後 (%) 70.0以上 1.80程度 0.60以上 0.40以上 0.20以下 4.0以上 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 第三種 (11.3.3)	種類 呼称肉厚(mm) 表面処理 固定間隔 備考 ・250形 1.6以上 ※B-A-1又は固定方法及び間角部及び突当たり部等の役 ・300形 1.8以上 B-B-1種 隅角部等は品質計画で ・350形 2.0以上 B-B-2種 定めたもの ・100形 ( ) ○図示	
⑤ エンドタブ	⑥ 高力ボルト	※トルシア形高力ボルト JIS形高力ボルト 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.12.4)	⑨ 防水工事	防水工事 (7.6.12) (表7.6.2)	1 アスファルト防水	2 張り付け用材料 既製調合モルタル (9.2.2~3) (表9.2.3~9) 種別 施工箇所	3 壁タイル張りの工法 内装タイル ※壁タイル接着剤張り 積上げ張り (11.3.5) (表11.3.2) 外装タイル ※密着張り マスク張り 軽表面の処理 行わない(※施工範囲) (※図示) 軽表面の処理方法 MCR工法(6章8節[型枠])又は直射工法(15.3.4[下地処理]) 下地モルタル塗り (※仕様15.3.5[工法] (4)(イ)(a)) タイルの試験張り 行わない(※外壁タイル) (11.1.4)	5 ステンレスの表面仕上げ 種類 施工箇所
		・放射線試験 ・マクロ試験		・A-1・A-2・A-3 ・AI-1・AI-2・AI-3 ・B-1・B-2 ・BI-1・BI-2 ・D-1・D-2 ・DI-1・DI-2 ・E-1・E-2		4 改質アスファルトシート防水 種別 厚さ 施工箇所	5 ステンレスの表面仕上げ 種類 施工箇所	
8 耐火被覆	種別 所要性能及び適用構造部位	・ラス張りモルタル塗り ・耐火材 乾式吹付けロックワール 半乾式吹付けロックワール ・湿式ロックワール	3 合成高分子系ルーフィングシート防水	・A種 B種 (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.1)	12 木工事	1 木材の品質 ※標仕12.2.1 市販品 ・保存処理木材を適用する箇所( )	15 左官工事	① モルタル塗り材料 吸水調整材 (15.3.2) (表15.3.2) 全国形分(%) 吸水量(g) 接着強度(N/mm <sup>2</sup> ) 界面破断率(%) 表示値±1.0以内 30分で1g以下 1.00以上 50以下
		・耐火材 乾式吹付けロックワール 半乾式吹付けロックワール ・湿式ロックワール		・耐火板張り ・耐火塗料 ・耐火材巻き付け		2 樹種 特記による( ) ・代用樹種を適用しない箇所( ) ・県産材指定箇所( )	② 床コンクリートの直し均し仕上げ 下表以外は標仕6.2.5及び標仕15.4.2による (表6.2.5) (15.4.2) 施工箇所 平たんさ(mm) 備考 ○図示 1mにつき10以下 3mにつき7以下	
⑨ アンカーボルトの保持及び埋込み工法	構造用アンカーボルト(※図示) 建方用アンカーボルト(A種・B種) (7.10.3) (表7.10.1)	・耐火板張り ・耐火塗料 ・耐火材巻き付け	4 塗膜防水	無収縮モルタルの品質及び試験方法 コングリシン Jロードによる流下時間 練混せ完了から3分以内の値は 8±2秒	13 屋根及びひび工事	3 集成材等 品名 規格・品質 芯材の種類 化粧単板の樹種 ※集成材 ※一般材 ・たも・なら・しおじ ・構造用集成材 1種 ※2種・3種 ・作作用集成材 1等・2等 ・化粧ばり造作用集成材 ※1等・2等	16 左官工事	均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 防水剤(防水モルタル塗りの混入剤) (15.3.2) 防水剤の種類 建築用モルタルに用いるセメント防水剤 混合割合 凝結時間 曲げ及び圧縮強度比 吸水比 透水比 セメント重量の5%以下 JIS R 5201の試験において 70%以上 95%以下 80%以下 始発 1時間以上 終結 10時間以内
		・耐火材 乾式吹付けロックワール 半乾式吹付けロックワール ・湿式ロックワール		・耐火材 乾式吹付けロックワール 半乾式吹付けロックワール ・湿式ロックワール		4 接着剤 接着剤に含まれる可塑剤は難揮発性のものとする。 ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レジンシノル樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤 (以下、「アリア樹脂等」という)を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 第三種		② 床コンクリートの直し均し仕上げ 下表以外は標仕6.2.5及び標仕15.4.2による (表6.2.5) (15.4.2) 施工箇所 平たんさ(mm) 備考 ○図示 1mにつき10以下 3mにつき7以下
10 柱底均しモルタル工法	A種 B種 (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2)	無収縮モルタル (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2)	5 ケイ酸質系塗被防水	混和材 セメント系膨張材(酸化カルシウム及びカルシウム・サルファ・アルミニネート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。 セメント JIS R 5210等(ボルトランドセメント)による普通または早強ボルトランドセメントとする。 砂 製造所の仕様を確認 配合比 製造所の仕様を確認	14 シーリング	5 防腐・防蟻処理 行う箇所( ) 防腐・防蟻処理 行う(※施工範囲) (※図示) 防腐・防蟻処理の種類、品質 表面處理用木材保存剤(防腐・防蟻剤)は監督職員の承諾するものとする。	17 左官工事	① モルタル塗り材料 吸水調整材 (15.3.2) (表15.3.2) 全国形分(%) 吸水量(g) 接着強度(N/mm <sup>2</sup> ) 界面破断率(%) 表示値±1.0以内 30分で1g以下 1.00以上 50以下
		無収縮モルタルの品質及び試験方法 コングリシン Jロードによる流下時間 練混せ完了から3分以内の値は 8±2秒		・S-F-1 ※1.2・1.5 ・S-F-2 ※2.0・1.5 ・S-M-1 ※1.5 ・S-M-2 ※1.5 ・S-I-F-1 ※1.2・1.5 ・S-I-F-2 ※2.0・1.5 ・S-I-M-1 ※1.5 ・S-I-M-2 ※1.5 ・S-C-1 ※		6 床板張り フローリング及び縁板張り床 (12.6.1) (表12.6.1) ※無し 下張り用床板 ○有り ※合板張り ホルムアルデヒドの放散量 ・板張り ※規制対象外 第三種 床板 ※单層フローリング ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 第三種 ・縁板 ※ひのき		② 床コンクリートの直し均し仕上げ 下表以外は標仕6.2.5及び標仕15.4.2による (表6.2.5) (15.4.2) 施工箇所 平たんさ(mm) 備考 ○図示 1mにつき10以下 3mにつき7以下
11 溶融亜鉛めっき工法	垂鉛めっきの種別 材料 適用部位	無収縮モルタルの品質及び試験方法 コングリシン Jロードによる流下時間 練混せ完了から3分以内の値は 8±2秒	6 シーリング	・Y-1 ・Y-2 脱気装置 設置材質( ) 設置数量(m <sup>2</sup> 当たり1箇所)	18 屋根及びひび工事	5 防腐・防蟻処理 行う箇所( ) 防腐・防蟻処理 行う(※施工範囲) (※図示) 防腐・防蟻処理の種類、品質 表面處理用木材保存剤(防腐・防蟻剤)は監督職員の承諾するものとする。	19 左官工事	① モルタル塗り材料 吸水調整材 (15.3.2) (表15.3.2) 全国形分(%) 吸水量(g) 接着強度(N/mm <sup>2</sup> ) 界面破断率(%) 表示値±1.0以内 30分で1g以下 1.00以上 50以下
		・Y-1 ・Y-2 付着強度 材質3日 25.0N/mm <sup>2</sup> 以上 材質28日 45.0N/mm <sup>2</sup> 以上		・Y-2工法の保護シート ※適用する・適用しない		6 床板張り フローリング及び縁板張り床 (12.6.1) (表12.6.1) ※無し 下張り用床板 ○有り ※合板張り ホルムアルデヒドの放散量 ・板張り ※規制対象外 第三種 床板 ※单層フローリング ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 第三種 ・縁板 ※ひのき		② 床コンクリートの直し均し仕上げ 下表以外は標仕6.2.5及び標仕15.4.2による (表6.2.5) (15.4.2) 施工箇所 平たんさ(mm) 備考 ○図示 1mにつき10以下 3mにつき7以下
12 溶融亜鉛めっき工法	垂鉛めっきの種別 材料 適用部位	付着強度 材質3日 25.0N/mm <sup>2</sup> 以上 材質28日 45.0N/mm <sup>2</sup> 以上	7 天然石張り	付着強度 材質3日 3.0N/mm <sup>2</sup> 以上 材質28日 0.30kg/m <sup>3</sup> 以下	13 屋根及びひび工事	7 屋根葺き 屋根葺き形式 長尺金属板の種類 厚板(mm) ・段葺き ※装装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び銅板(CGLCR-20-AZ150) ※0.4	20 左官工事	① モルタル塗り材料 吸水調整材 (15.3.2) (表15.3.2) 全国形分(%) 吸水量(g) 接着強度(N/mm <sup>2</sup> ) 界面破断率(%) 表示値±1.0以内 30分で1g以下 1.00以上 50以下
		塗被物量 0.30kg/m <sup>3</sup> 以下		塗被物量は、JIS A 1144 「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。		8 折板葺 形 式 ※重ね形・はぜ縫形・かん合形 形状(mm) 山高(88) 山ビッチ( ) 板厚(0.6~0.8) 材 料 ※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び銅板(CGLCR-20-AZ150) (規格等) 軒先戸板 深有り・無し 断熱材 ※有り(種別: ポリエチレンフォーム 厚さ: 4mm)・無し 耐火性能 ※30分耐火・無し		② モルタル塗り材料 吸水調整材 (15.3.2) (表15.3.2) 全国形分(%) 吸水量(g) 接着強度(N/mm <sup>2</sup> ) 界面破断率(%) 表示値±1.0以内 30分で1g以下 1.00以上 50以下
13 溶融亜鉛めっき工法	垂鉛めっきの種別 材料 適用部位	試験方法 1) N E C O 試験方法「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1999による。 2) 塩化物量は、JIS A 1144 「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。	9 テラゾ張り	下表以外は、標仕9.7.1による (9.7.2) (表9.7.1) 施工箇所 シーリング材の種類(記号)	14 屋根及びひび工事	9 屋根葺き 屋根葺き形式 長尺金属板の種類 厚板(mm) ・段葺き ※装装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び銅板(CGLCR-2		

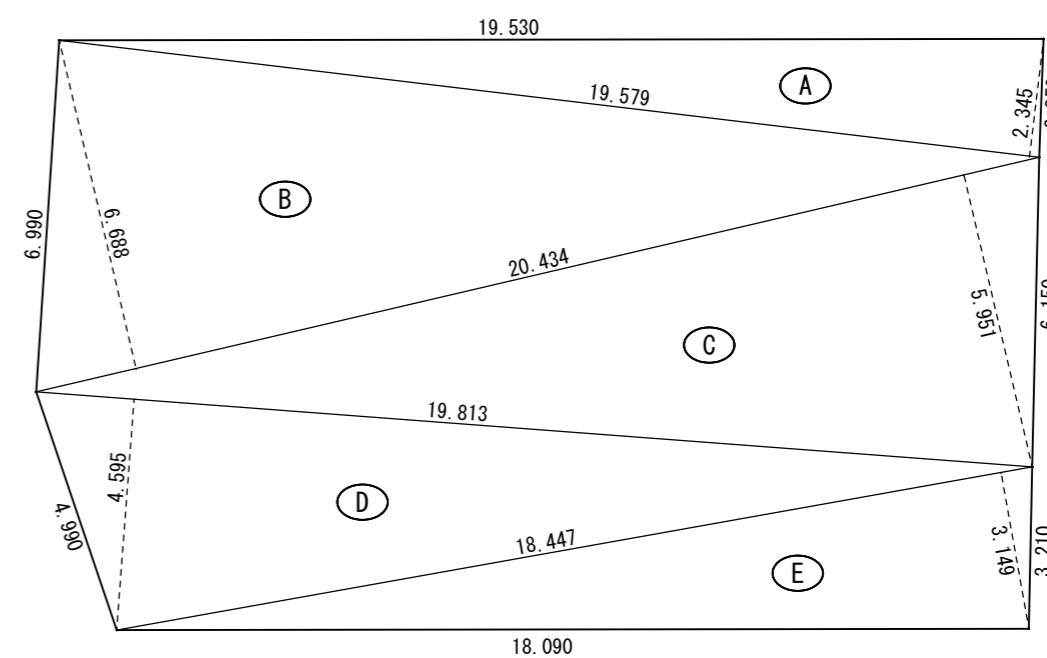
⑯ 建 具 工 事	1 見本の製作等	・特殊な建具の仮組（建具符号：） (16.1.4)		17 カ ー テ ン ワ ー ル 事	2 メタルカーテンウォール	設計図書による規定の他、特記無き事項は監督員の承認を受けて、カーテンウォールの製造所の仕様とする事が出来る。 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1)		18 塗 装 工 事	1. 材 料 ② 素地ごしらえ	屋内の壁及び天井の塗装の仕上げは、建築基準法に基づき材同等の認定のあるものとする。 (18.1.3) 各部の素地ごしらえ (18.2.1～7) (表18.2.1～7)		19 ・ タイカルベット ・ パイル形状 種類 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 備考 ※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5 粘着はく離接着剤を使用する。 ・ 第二種	
		外部に面する建具 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 組み込み (mm)	施工箇所			カーテンウォール材料の種類 種 別 規格等	(17.2.2)						
○ 湾戸	② アルミニウム製建具	○ A種 S-4	※A-3	※W-4	※70	※図示	・		木 部	※A種 (不透明塗料塗) ※B種 (透明塗料塗)			
		・ B種 S-5				※図示	・		・ A種 ・ B種 ※C種	溶接工法に応じた節の規定			
		・ C種 S-6	A-4	W-5	特記による	※図示	・		・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
		(注)形式が引き違い・片引き・上げ下げ窓で複層ガラスを使用する場合は枠の見込み100mmとする。							・ A種	※A種 (組み処理工法) ※B種 (その他)			
		断熱等級、枠・障子 :							・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
		ガ ラ ス :							・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
		表面処理 ○ B-B-1種 ・ C種 (・ブラウン系 ○ ブラック ・ステンカラー) (表14.2.1)							・ A種	※A種 (組み処理工法) ※B種 (その他)			
		屋内建具 表面処理 ※B-C-1種又はB-C-2種 (C種 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)) (表14.2.1)							・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
		防虫網	(16.2.3)						・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	3 樹脂製建具	網の種別 ※ガラス繊維入り成形樹脂製 ・合成樹脂製 ・ステンレス製 (SUS316) 形式 ※外観可動式 ・固定式							・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
		建具の性能及び構造の適用は建具表による 製造所標準仕様による (16.3.2) (表16.3.1.2)							・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
4 鋼製建具	簡易気密型ドアセットの適用は特記による 耐風圧性の適用は建具表による 特定防火設備の戸 ・適用あり (16.4.2) (表16.4.1)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
5 鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの適用は建具表による (16.5.2)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
6 ステンレス製建具	簡易気密型ドアセットの適用は建具表による 耐風圧性の適用は建具表による 表面仕上げ ※H-L程度 ・鏡面仕上げ ・曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (補強あり) 特定防火設備の戸 ・適用あり (16.6.4) (16.6.5) (表16.6.1)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
⑦ 木製建具	かまちの樹種 かまち ( ) 鏡板 ( ) (16.7.2)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
⑧ 建具用金物	ふすまの上張り (表16.7.3～10)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	※新鳥の子又はピリ紙程度 (押入等の裏面は除く) ・鳥の子 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 (16.7.2)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	※規制対象外 ・第三種								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	マスターキー ※製作する ・製作しない (16.8.4)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	建具用金物 (16.8.6) 鍵類はシリンダー箱錠 (レバーハンドル) とする (表16.8.1～5)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	なお、鍵類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける (16.8.2)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	吊金物								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	・丁番 (内部建具については、軸を鉄軸としてもよい)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	・ビボットヒンジ								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	・フローハンジ								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
9 自動ドア閉鎖装置	(16.9.2～3) (表16.9.1～5)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
10 自閉式上吊り引戸装置	開閉方法		センサの種類						・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	・スライディングドア	・マットスイッチ	・電子マットスイッチ	・スイングドア	・光線スイッチ	・音波スイッチ	・熱線スイッチ	・光電スイッチ					
11 重量シャッター	・凍結防止措置 (適用箇所は建具表による)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	品質規格	※標示表16.10.1による							・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
12 軽量シャッター	(16.11.2)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	・シャッターハードウェア	耐風圧性能 ( ) N/m							・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
13 オーバーヘッドドア	・外壁用防火シャッター 耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
⑭ ガラス	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	※建具表による	(16.14.2)							・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
ガラス留め材及び溝	ガラス留め材 (16.14.2) (表9.7.1)								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	ガラス留め材	耐風圧性能 ( ) N/m							・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
15 木製建具	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
16 木製内装	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
17 木製外装	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
18 木製内装	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
19 木製外装	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
20 木製内装	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
21 木製外装	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種	塗工法に応じた節の規定		
	耐風圧性能 ( ) N/m								・ A種	※B種			

① ユ ニ ット 及 び そ の 他 の 工 事	1 フリーアクセスフロア  施工箇所 構法 仕上り高 適用地震時水平力 耐荷重性能 表面仕上げ材 備考 ・パネル構法 · 1.0G · 3,000N · 帯電防止床タイル ・溝構法 · 0.6G · 5,000N · タイルカーペット ・パネル構法 · 1.0G · 3,000N · 帯電防止床タイル ・溝構法 · 0.6G · 5,000N · タイルカーペット ・パネル構法 · 1.0G · 3,000N · 帯電防止床タイル ・溝構法 · 0.6G · 5,000N · タイルカーペット 5,000Nについては、平成元年建設省告示第132号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。 表面仕上げ材の品質、規格等は、19章内装工事による スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様 · 図示 コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設備工事) コンセントの箇所数は図示 配線用取り出しハネル 配線取り出し開口 : ハネル1枚につき40mm×90mm程度の開口1ヶ所以上 フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※20~30% · 空調用吹き出しほねル ※なし · 有り (※固定式 · 可変式 : 施工箇所は図示)	(20.2.2)	17 ブラインドボックス 及びカーテンボックス ・市販品 (アルミニウム製 押し出し型材) 溝幅×深さ (mm) · 90×150 ※120×80 · 120×150 · 150×80 · 色彩 ※B-1 · B-2 (※ブルーン系 · ブラック · ステンカラー) ・図示	18 耐震スリット 方向 タイプ 耐火性能 防水性能 ・垂直方向 ※完全 (全貫通型) スリット · 耐火型 · 有り ・水平方向 · 耐火型 · 非耐火型 · 無し 目地 内壁 (幅×深さ) 外壁 (幅×深さ) 目地材 シーリング材 (見え掛けりのみ) シーリング材 (内外とも) 目地寸法 (mm) ※20×10 · ※20×10 ·	19 止水板 形状 · 据置式 · 壁張り式 · 差込式 寸法 製造所	20 天井点検口 材質 アルミニウム製 (※額縁タイプ · 目地タイプ)	21 床点検口 材質 アルミニウム製 (受け枠 ※アルミ製 · ステンレス製)	22 鋼製書架及び物品棚 種類 規格等 耐荷重による種類 ・鋼製書架 JIS S 1039の規格による 水平荷重Ⅰ又は水平荷重Ⅱ ・鋼製物品棚 JIS S 1040の規格による ※1種 · 2種 · 3種	23 1 樹木の植栽基盤整備 芝及び地被類 適用 有効土層の厚さ(cm) 工法 整備範囲 ※行う · 行わない ※20 ※B種 ※植栽範囲 · 図示																																																	
	2 可動間仕切  構造形式 パネル部の総厚さ (mm) 表面材種 厚さ (mm) 表面仕上げ 遮音性能 防火性能 ・スタッド式 · 6.0 ※鋼板 (※0.6 · 0.8) ※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け · あり ( ) · なし · なし ・スタッド・パネル式 · 有り (※固定式 · 可変式 : 施工箇所は図示)	(20.2.3)	20 止水板 形状 · 据置式 · 壁張り式 · 差込式 寸法 製造所	21 天井点検口 材質 アルミニウム製 (受け枠 ※アルミ製 · ステンレス製)	22 鋼製書架及び物品棚 種類 規格等 耐荷重による種類 ・鋼製書架 JIS S 1039の規格による 水平荷重Ⅰ又は水平荷重Ⅱ ・鋼製物品棚 JIS S 1040の規格による ※1種 · 2種 · 3種	23 1 樹木の植栽基盤整備 芝及び地被類 適用 有効土層の厚さ(cm) 工法 整備範囲 ※行う · 行わない ※20 ※B種 ※植栽範囲 · 図示																																																				
	3 移動間仕切  遮音性能 厚さ (mm) 表面材 表面仕上げ 操作方法 ・一般タイプ ※鋼板 · 烧付け塗装 · 手動式 · 電動式 ・遮音タイプ ※鋼板 · 烧付け塗装 · 手動式 · 電動式 (36cm以上) 表面仕上げ上の壁紙張りの品質は19章内装工事による 遮音性能はJIS A 6512の遮音試験に準拠する	(20.2.4)	24 くつつきマット 市販品 材質 塩化ビニル製 (コイル状 ステンレス製受持) · ピニル製 (ステンレス製受持) ・硬質アルミニウム製 (受持とも) · ステンレス製 (受持とも)	25 流し台ユニット 種類 寸法 (L= mm) 適用内容 規格・品質等 ○流し台 ※1050 · 1500 · 1800 トランク付き ※優良住宅部品 (セクションラッキットI型) ・コロナ台 ※600 · 700 パックガード※有り ○頸理台 ※1200 · 900 ○600 ○つり扉 ※1350 · 900 · 600	26 屋内掲示板 枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩 · 泡泡シート張り ·	27 洗面カウンター 材種 · メラミン樹脂化粧板張り (心材:集成材) · 人工大理石 奥行き (mm) · 約450 · 約600	28 防煙垂れ壁 ・固定式 材質 厚さ (mm) 高さ (mm) 備考 ※網入り磨板ガラス ※6.8 ※500 アルミ製枠付き	29 視覚障害者用床タイル (誘導用及び注意喚起用床材) 材種 厚さ (mm) 色 彩 備考 ・黒板 ※焼付け · 緑 · 黒 ※平面 · 曲面 · スクリーン付引分 ○ホワイト ※ぼうろう ※白 ※平面 · 曲面 · スクリーン付引分	30 旗竿 材質 ※アルミニウム合金製 形 式 ※テバーパー型 · 同一断面型 地上高さ (m) · 6 · 8 · 10 · 12 操作方法 ※ハンドル式 · ローブ式 固定方法 · 埋込式 · ベース式 · バンド式 製造所	31 旗竿受金物 材種 ステンレス製SUS304	32 フェンス ・ビニル被覆エキスパンション · 樹脂塗装メッシュフェンス	33 屋外掲示板 照明器具 ※有り ○無し 施錠 ※有り · 無し 製造所	34 車止め支柱 ※ステンレス製 (上下式鎖内蔵型) 径114.3mm t=2.5mm H=G L+700mm ※スプリング付 · スプリング無し	35 収納家具 材質 形状 · 寸法 ※図示 ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 · 第三種	36 エキスパンション · ジョイント金物 材質 · アルミ · ステンレス クリアランス · 50 · 100 · 150 · 耐火性能 · 有り ( ) · 無し 防水型 ※適用する · 適用しない	37 ブレキャスト コンクリート工事 コンクリートは表2.1 [コンクリートの種類]のII類に準ずる 材料は6章3節[コンクリートの材料及び調合]による	38 間知石及びコンクリート 間知ブロック積み 間知石は表面がほぼ方形に近いもので、控えは四方落としとし、控え長さは面の最小辺の1.2倍とし、材種は特記材料による コンクリート間知ブロックはJIS A 5371(ブレキャスト無筋コンクリート製品)の積み ブロックに基づき、種類及び質量区分は特記による	39 排水管 材種 管の種類 管形状 (接合方法) ※遠心力筋コンクリート管 ※外径管 (※1種 · 2種) B形 (ゴム接合) ○硬質ポリ塩化ビニル管 ※VP · VU ・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 · RS-VU [G] ・硬質ポリ塩化ビニル管 · DV	40 排水樹及びふた 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	41 排水管用材料 材種 管の種類 管形状 (接合方法) ※遠心力筋コンクリート管 ※外径管 (※1種 · 2種) B形 (ゴム接合) ○硬質ポリ塩化ビニル管 ※VP · VU ・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 · RS-VU [G] ・硬質ポリ塩化ビニル管 · DV	42 排水管 材種 管の種類 管形状 (接合方法) ※遠心力筋コンクリート管 ※外径管 (※1種 · 2種) B形 (ゴム接合) ○硬質ポリ塩化ビニル管 ※VP · VU ・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 · RS-VU [G] ・硬質ポリ塩化ビニル管 · DV	43 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	44 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	45 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	46 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	47 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	48 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	49 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	50 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	51 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	52 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	53 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	54 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	55 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	56 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	57 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	58 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	59 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	60 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	61 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	62 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	63 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	64 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	65 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	66 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	67 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	68 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	69 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	70 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	71 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	72 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	73 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	74 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	75 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	76 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	77 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	78 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋	79 植栽工事 種類 ・水封形 · 密閉形 (テーパー · バッキン式) ・簡易気密形 (パッキン式) · 中ふた付密閉 ・ボルト固定 · かさ上げ用 · U字溝用 ・溝蓋





## 案 内 図



敷地面積求積図 1:150

地名地番	番号	底辺	高さ	倍面積	面積
2920-2	A	19.579	2.345	45.912755	22.9563775
	B	20.434	6.688	136.662592	68.3312960
	C	20.434	5.951	121.602734	60.8013670
	D	19.813	4.595	91.040735	45.5203675
	E	18.447	3.149	58.089603	29.0448015
合計					226.6542095
敷地面積					226.65 m <sup>2</sup>

設計概要					
工事名称	旭分団詰所建設工事	建築面積	51.07m <sup>2</sup>	地区地域	・用途地域：指定なし（区域区分未設定都市計画区域）・防火地域：指定なし
工事場所	堺市旭町上條北割字宮下2920-2	床面積	延床面積：81.58m <sup>2</sup> （1階：39.78m <sup>2</sup> ・2階：41.80m <sup>2</sup> ）	敷地面積	226.65m <sup>2</sup>
構造規模	鉄骨造 2階建て （耐火建築物等の指定なし ⇒ その他建築物）			建蔽率	指定：70%
主要用途	消防団詰所（建築基準法：事務所）			容積率	指定：200%

外部仕上表					
屋根	重ね式折板屋根 88（ルーフデッキ）：カラーGL鋼板 t=0.6 ポリフォーム t=4.0裏打 役物：カラーGL鋼板	樋・ドレン	堅樋：硬質カラー塩ビ管（既製品）75φ×2ヶ所（屋外階段屋根部分：硬質カラー塩ビ管（既製品）75φ×1ヶ所） 軒樋：硬質カラー塩ビ製 W=200 角型（屋外階段屋根部分：硬質カラー塩ビ製 W=150 角型）落し口：自在ドレン 75φ用		
外部階段屋根	重ね式折板屋根 88（ルーフデッキ）：カラーGL鋼板 t=0.6（裏打材無し） 役物：カラーGL鋼板	建具（外部）	アルミサッシ・アルミドア シャッター：軽量手動式スチールシャッター（カラー鋼板・スラット t=0.8）		
軒天	珪酸カルシウム板 t=6.0（目透し貼、LGS下地）EP塗装	外部階段	踏面：スチール製 PL-6 加工の上、モルタル金ゴテ仕上（ワイヤーメッシュ入） 段鼻：ステンレスノンスリップ W=35（ゴム入り） 蹴上：スチール製 PL-6 加工、鍛止め処理の上、DP（3級）塗装仕上（段裏共） ササラ側沿：スチール製 PL-12 加工、鍛止め処理の上、DP（3級）塗装仕上（両面） 手摺：アルミ製カラー手摺（屋外用：既製品）42.7φ ブラケット：アルミ既製品		
外壁	一般部・階段部：ALC版 t=100（タテ貼り）防水形複層塗材E（弾性）吹付 一部（東面・北面）：ALC版（ファッショナブルパネル：タテリブ）t=120（タテ貼り）防水形複層塗材E（弾性）吹付（色塗分け） (ALC版（ファッショナブルパネル：タテリブ）t=120：庇・サイン取付部等 フラット加工)	その他	サイン（東面）：ステンレス箱文字（270×270×30：9文字）スコッチカルシート貼 ステンレスタラップ：19φ（プレート付）W300×D150（既製品）2本 ホース掛：スチール製 鍛止め処理の上、DP（1級）塗装仕上		
外巾木	コンクリート打放し補修の上、浸透性吸水防止塗装（着色塗装）	外構			
断熱材・防湿材	断熱材：天井裏：グラスウール t=100 敷込 断熱材：外壁面（2階部分：梁下まで）：硬質ウレタンフォーム吹付（ノンフロン）t=20 断熱材：土間コンクリート下：ポリスチレンフォーム板 t=25 敷込 防湿材：土間コンクリート下：防湿ポリエチレンシート t=0.15	その他			
庇	アルミ製（既製品）〔窓上部、シャッター上部〕				
笠木	大屋根部：アルミ笠木（水切付アルミデザイン笠木：ALC用既製品） 外部階段部：アルミ笠木（ALC用既製品）	外構			

特記事項					
一般事項			特記仕様		
・仕上材、造付家具材等：F☆☆☆☆仕様 ・天井裏等：F☆☆☆以上（シックハウス規制対象外は除く）			・プラインド：アルミ製 横型スラット25 ワンポール式 ・室名札：木製既製品 平付型 80×250 文字入（UV印刷）2箇所（2階：便所・湯沸室） ・室名札：アクリル（着色）既製品 平付型 60×250 文字入 1箇所（1階：便所） ・ホワイトボード：W1,200×H900（樹脂フレーム：軽量型）1箇所（2階：詰所） ・屋外用掲示板：W1,250×H1,800（アルミ既製品）透明アクリル板（引違タイプ）マグネットボード 1箇所（コンクリート基礎（二次製品）500×500×600H）		
・特記なき限りLGS壁下地：軽量スタッド W=65 ・軽量スタッドの間隔は、下地張りのある場合は450mm程度、仕上材料を直張りするか、壁紙又は塗装下地の類を直接張り付ける場合は300mm程度とする			・額縁（建具枠含む）：アルミ製（1階） ・額縁（建具枠含む）：木製 OS塗装仕上（2階） ・天井点検口：アルミ枠既製品 450角 4ヶ所取付（取付詳細位置は監督員と協議）		
同等品一覧			不燃材仕様		
・金属庇（シャッター部）：アルミ既製品（アルフィン（株）：AF79【ALC用】）W=4,000 D=500 ・金属庇（窓上部）：アルミ既製品（アルフィン（株）：AF925・AF93【ALC用】）D=250・300 ・アルミ笠木：水切付アルミデザイン笠木（（株）ツヅキ：KA-002【ALC用】） ・流し台、調理台、吊戸棚：木製キッチン（クリナップ（株）：SK） ・IHクッキングヒーター：別途 ・トイレ収納棚：既製品（TOTO：UGLD11S・UGLD04）露出タイプ			※ 消防車格納庫の内装制限箇所においては、全て準不燃材料以上とする（壁材・天井材） ・柱、梁：鉄骨 ⇒ 不燃材料（告示1400号） ・ALCパネル ⇒ 不燃材料（告示1400号） ・珪酸カルシウム板 t=6.0 (NM-9246)		

一級建築士事務所登録 梁1-041041号

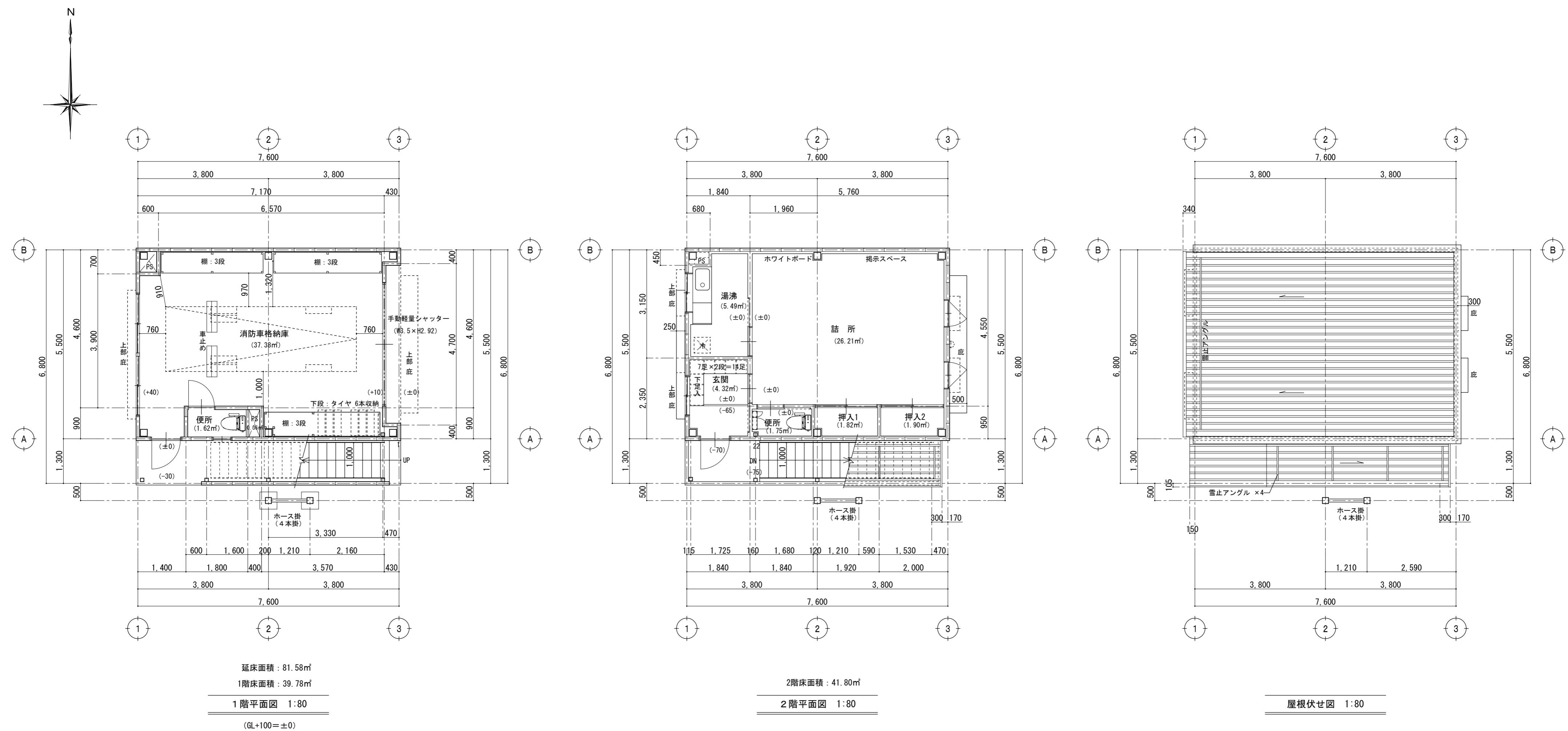
一級建築士 第190666号

秋山 昭

承認	設計	担当	縮尺	工事名称 旭分団詰所建設工事		No.
				—	設計年月日	
					図面名称 外部仕上表	A-08

一級建築士事務所登録 梨1-041041号  
一級建築士 第190666号  
秋山 昭

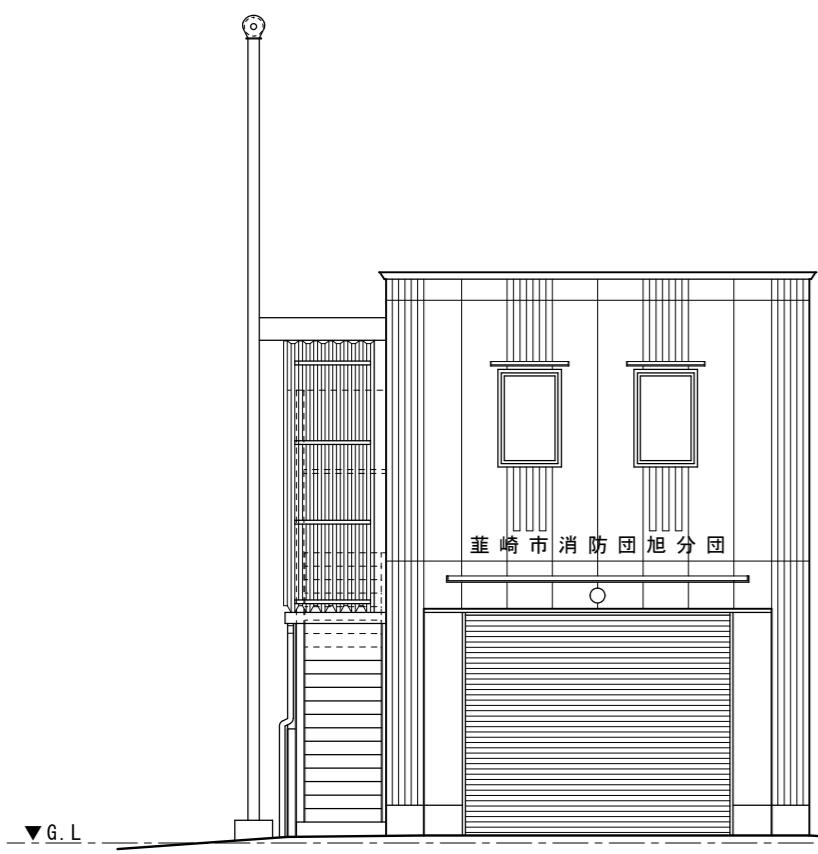
				株式会社 進藤設計事務所	承認	設計	担当		縮尺	工事名称	旭分団詰所建設工事	No.	
					—				設計年月日			A - 0 9	
					国面名称 内部仕上表								



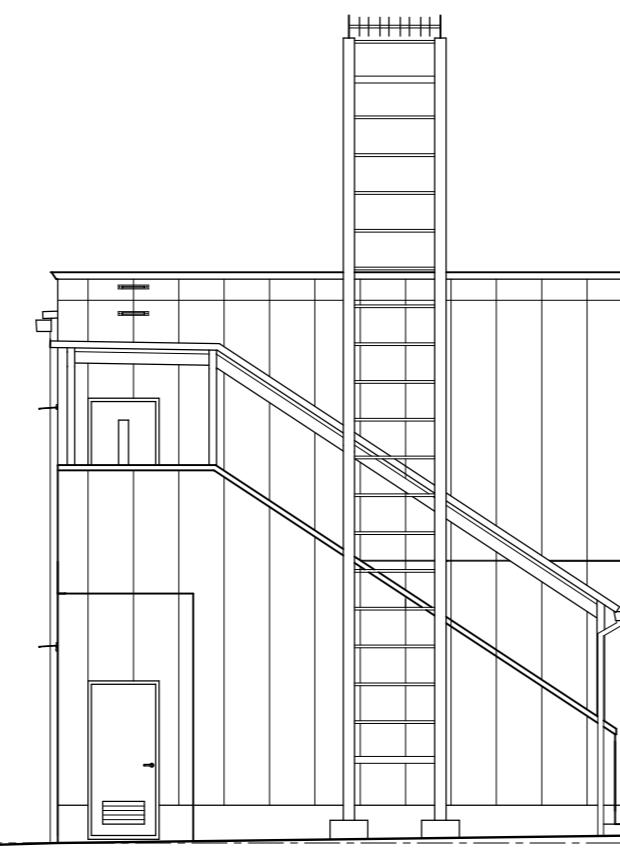
【屋外階段】  
階段の幅=1,000  
蹴上の寸法=171  
踏面の寸法=260

一級建築士事務所登録 梨1-041041号  
一級建築士 第190666号  
秋山 昭

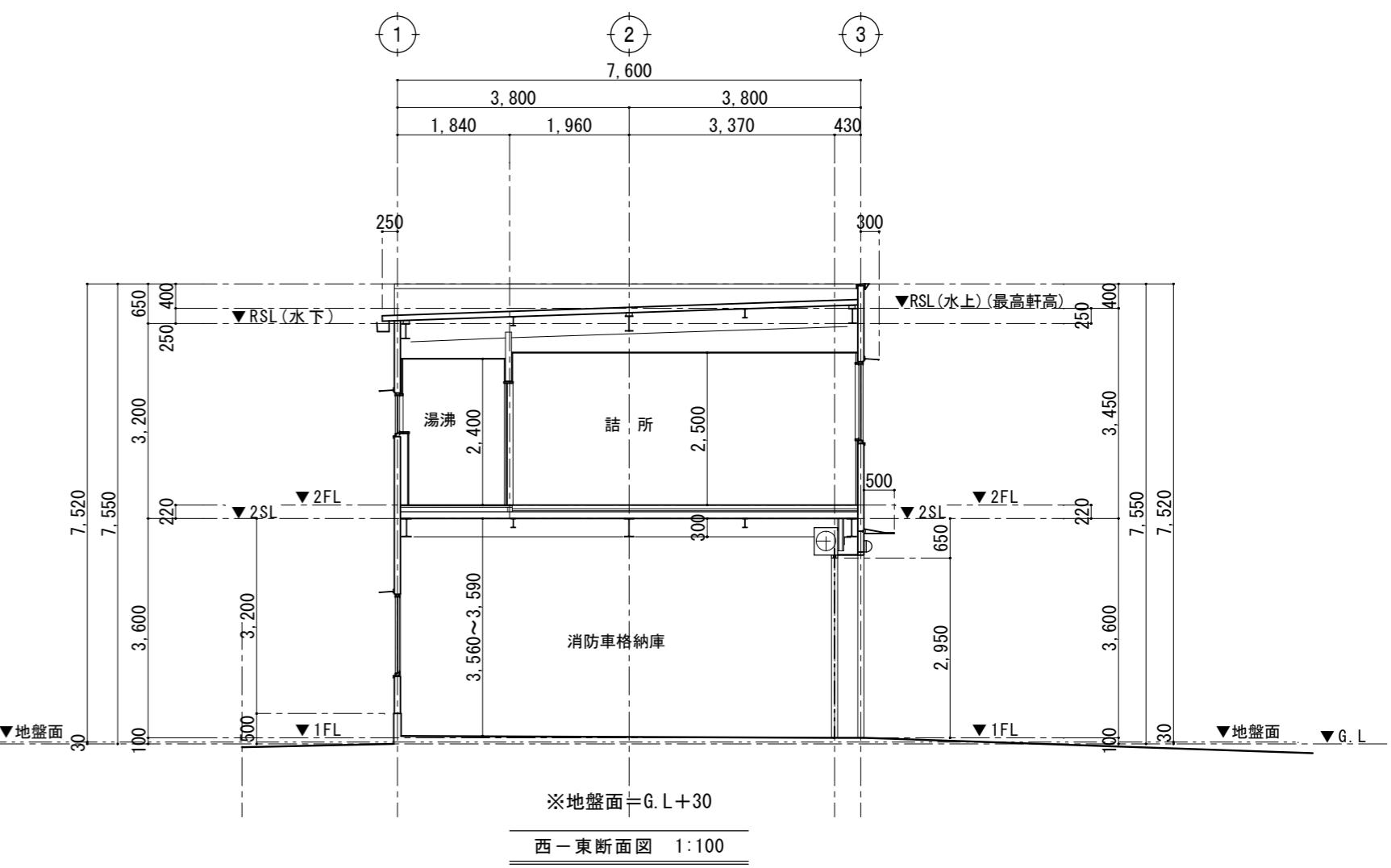
承認	設計	担当	縮尺	工事名称		No.
				A2-1:80	旭分団詰所建設工事	
			設計年月日		図面名称 1階平面図・2階平面図・屋根伏図	A-10



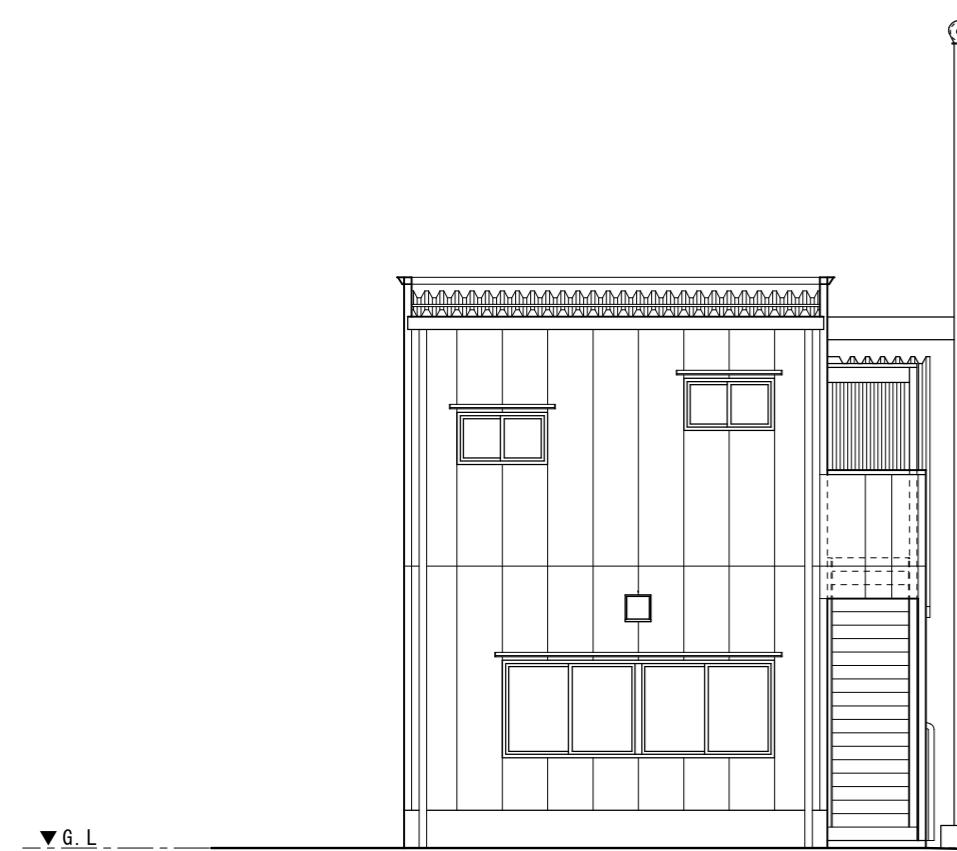
東立面図 1:100



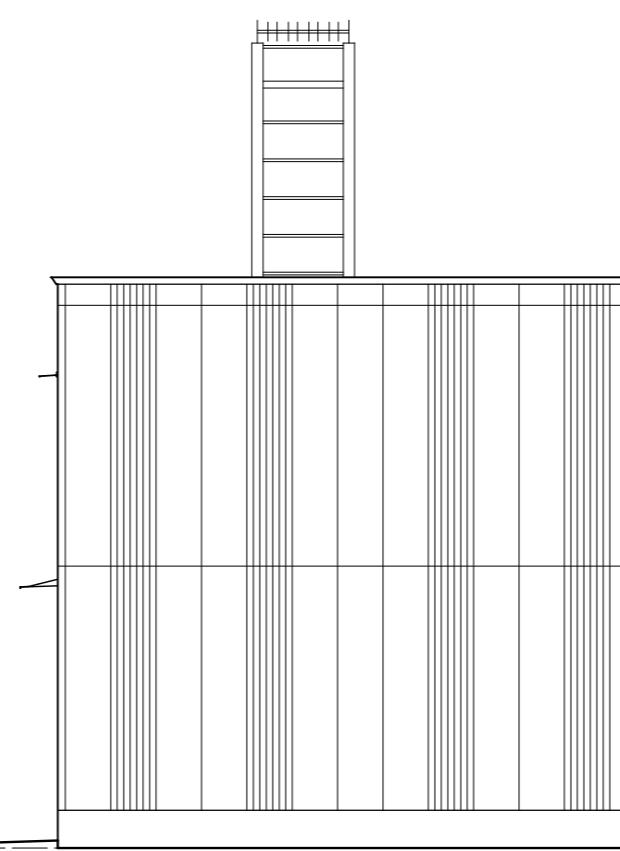
南立面図 1:100



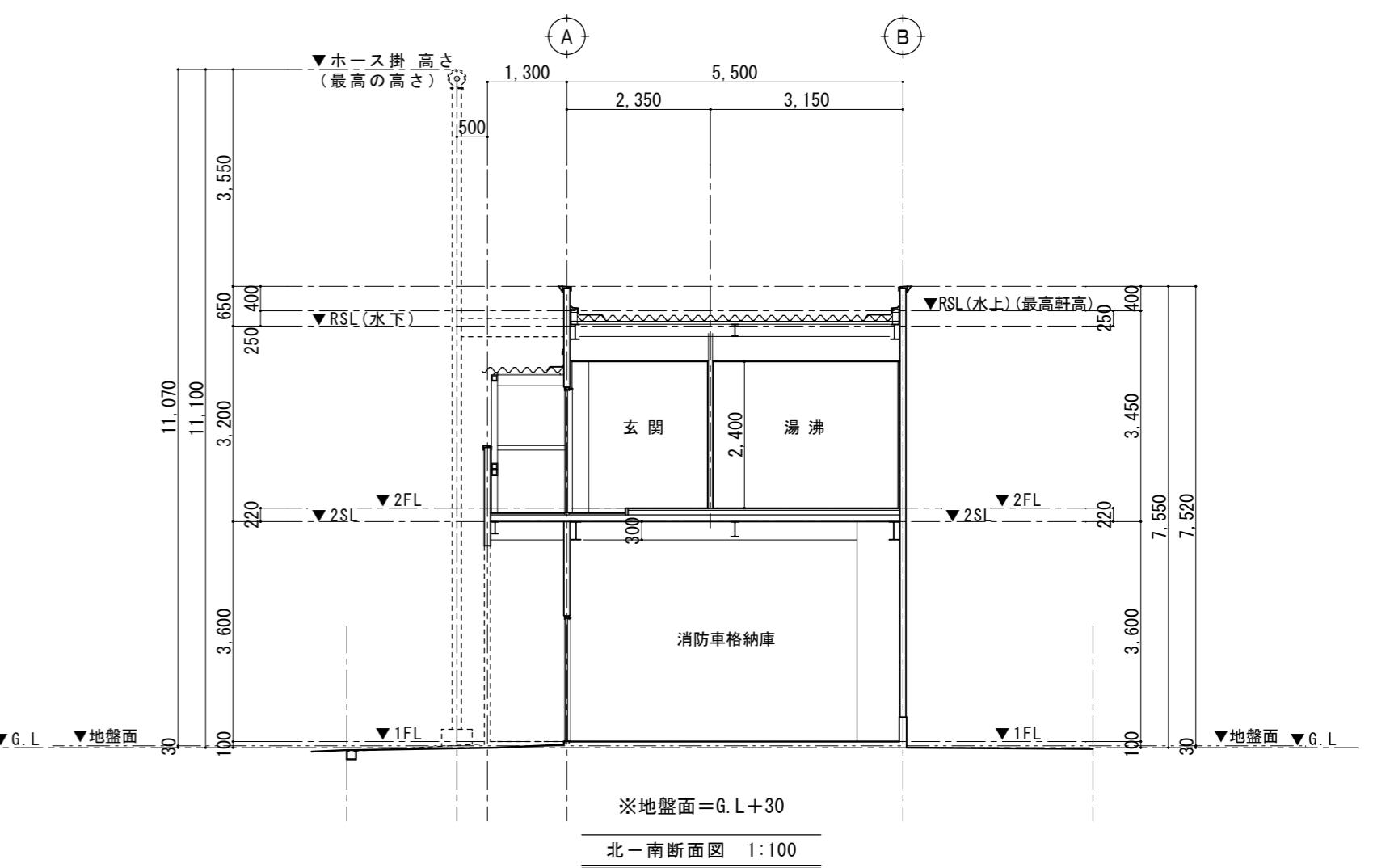
※地盤面=G.L.+30  
西-東断面図 1:100



西立面図 1:100



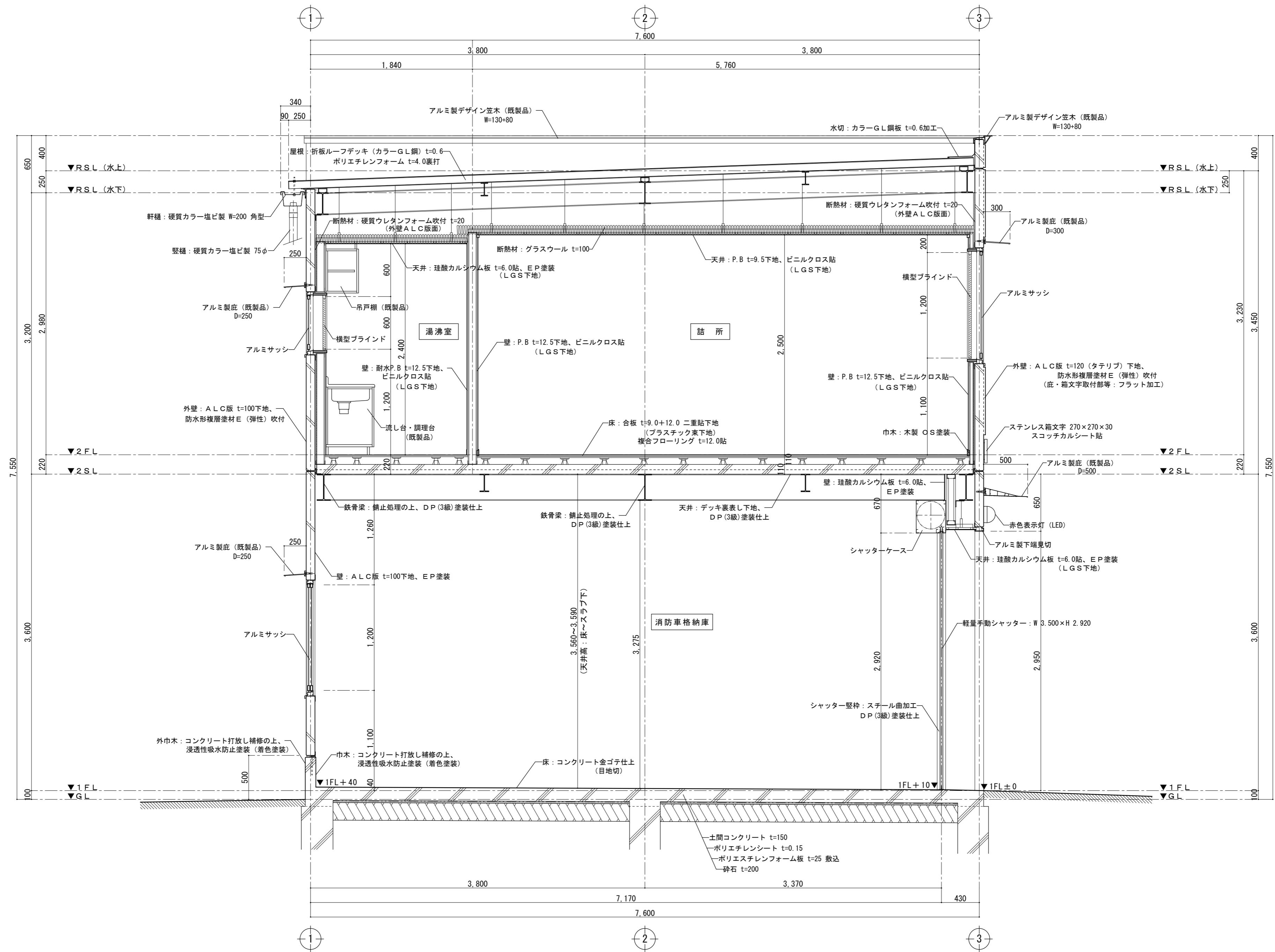
北立面図 1:100

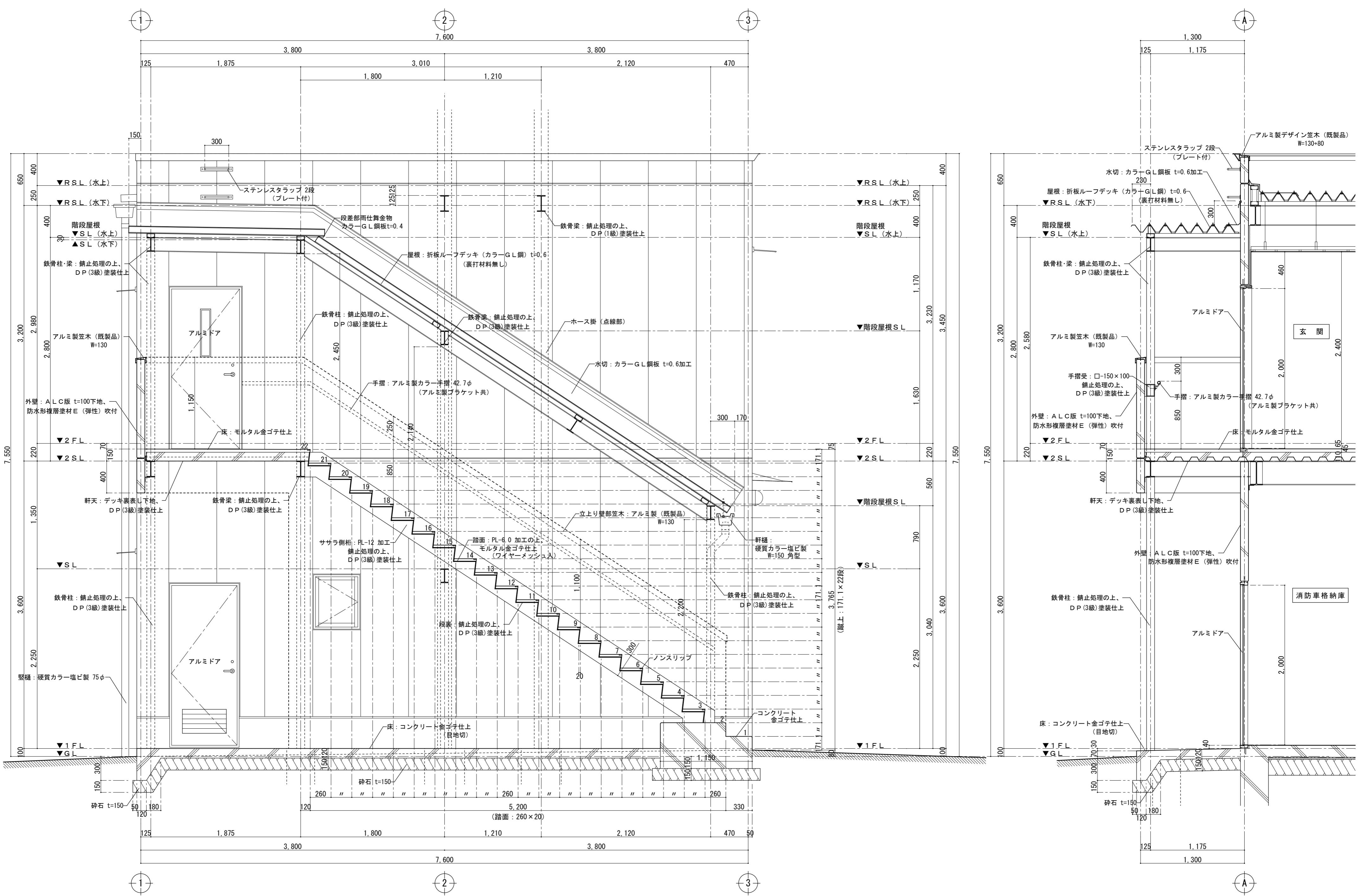


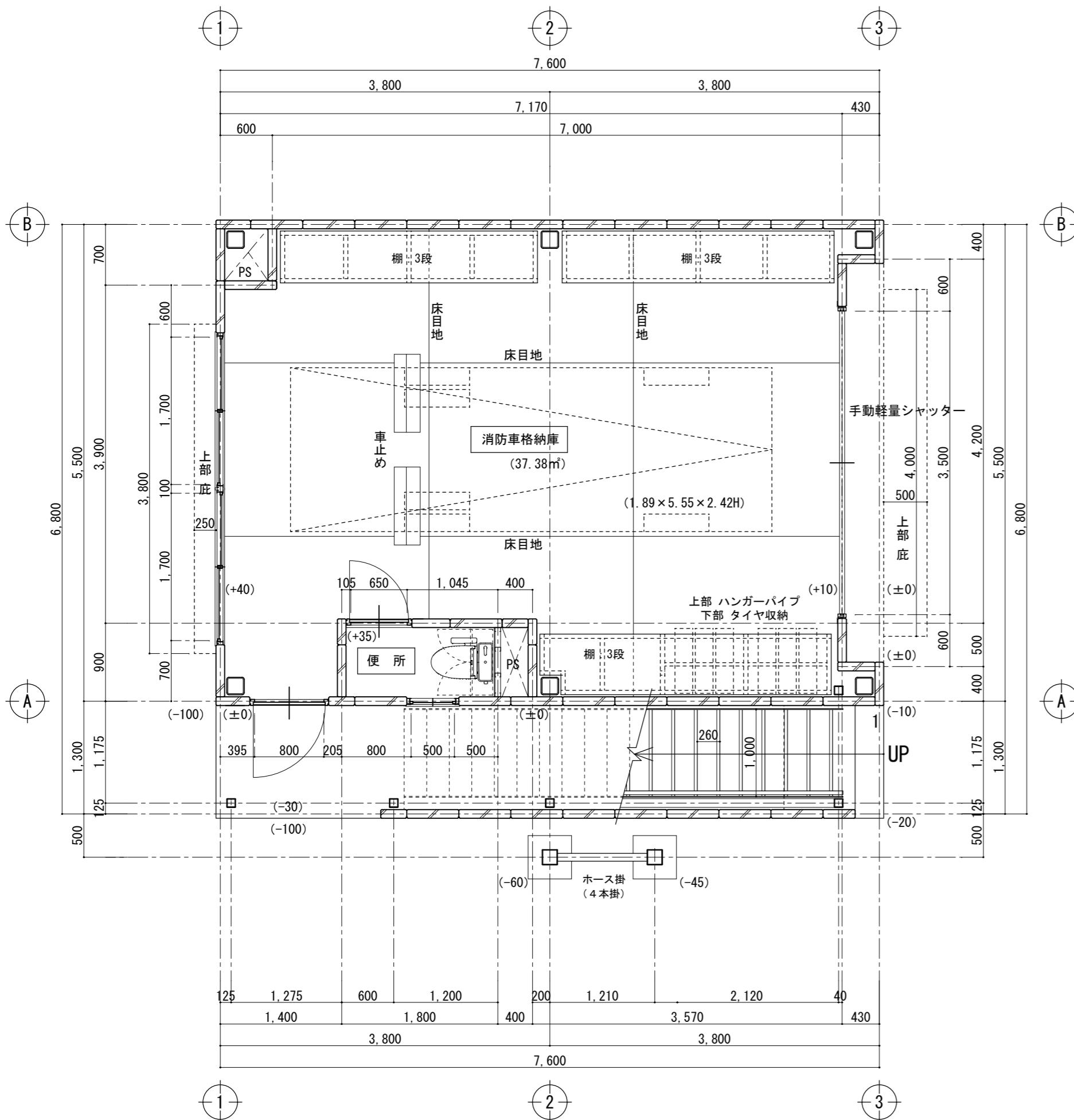
※地盤面=G.L.+30  
北-南断面図 1:100

一級建築士事務所登録 梨1-041041号  
一級建築士 第190666号  
秋山 昭

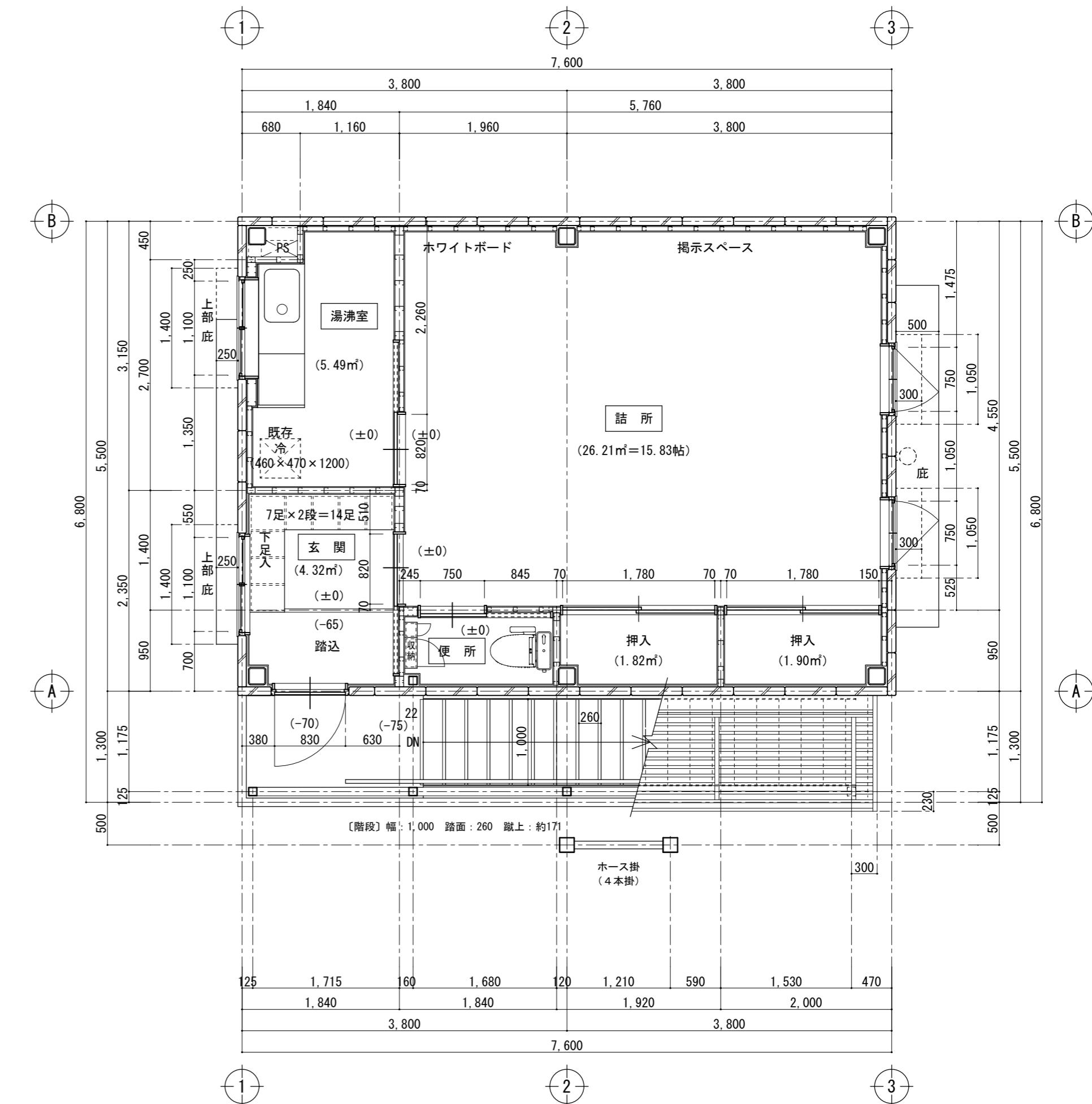
承認	設計	担当	縮尺	工事名称 旭分団詰所建設工事		No.
				A2-1:100	設計年月日	
					図面名称 立面図・断面図	A - 1 1



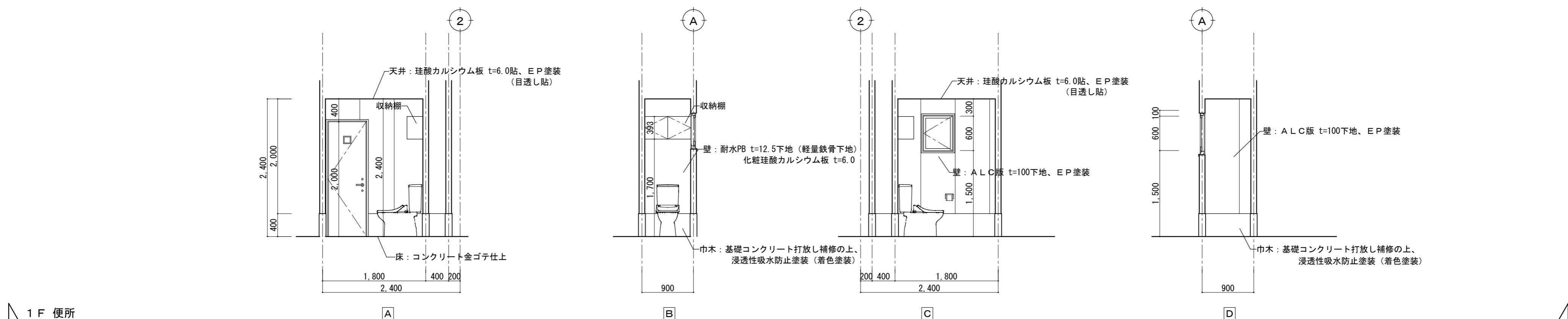
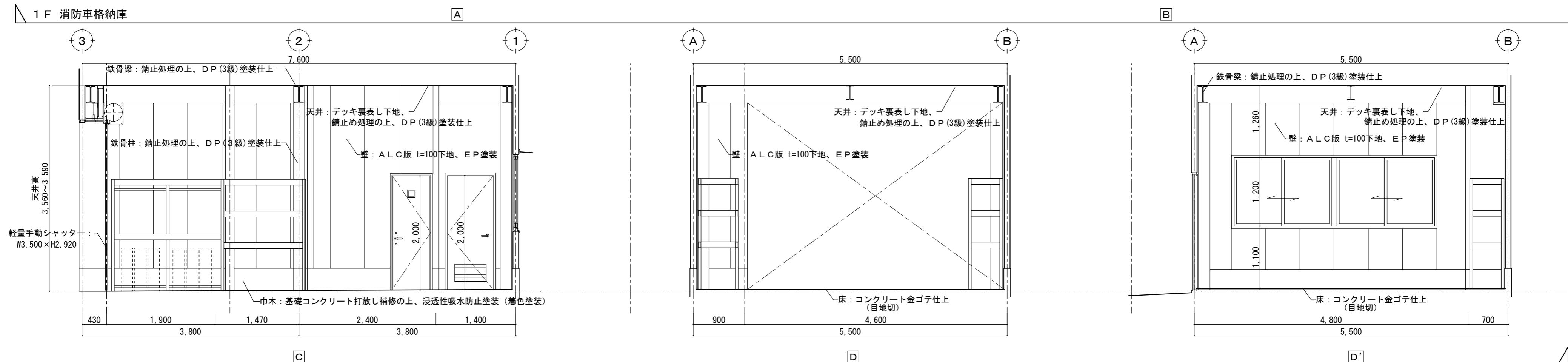
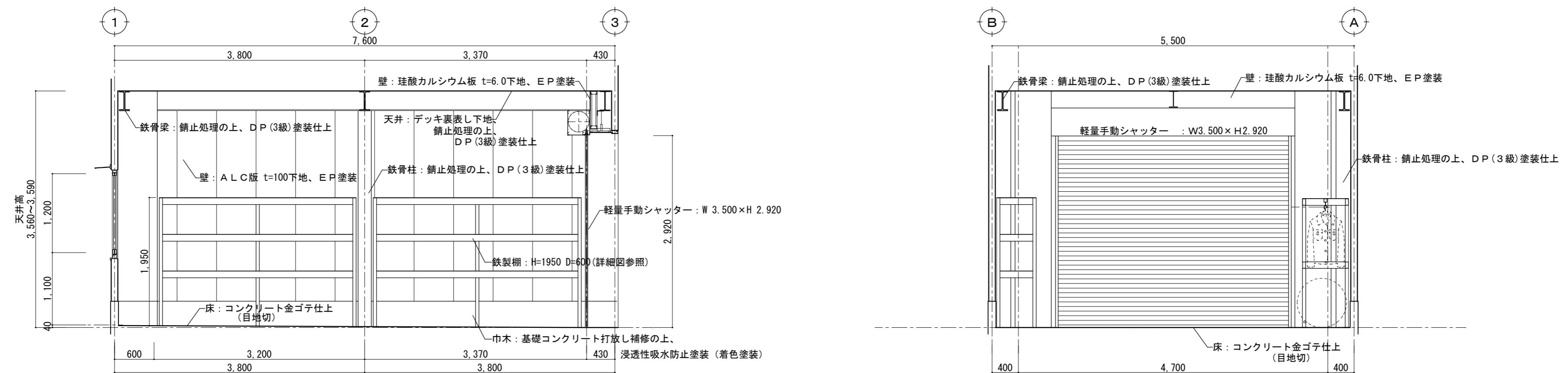


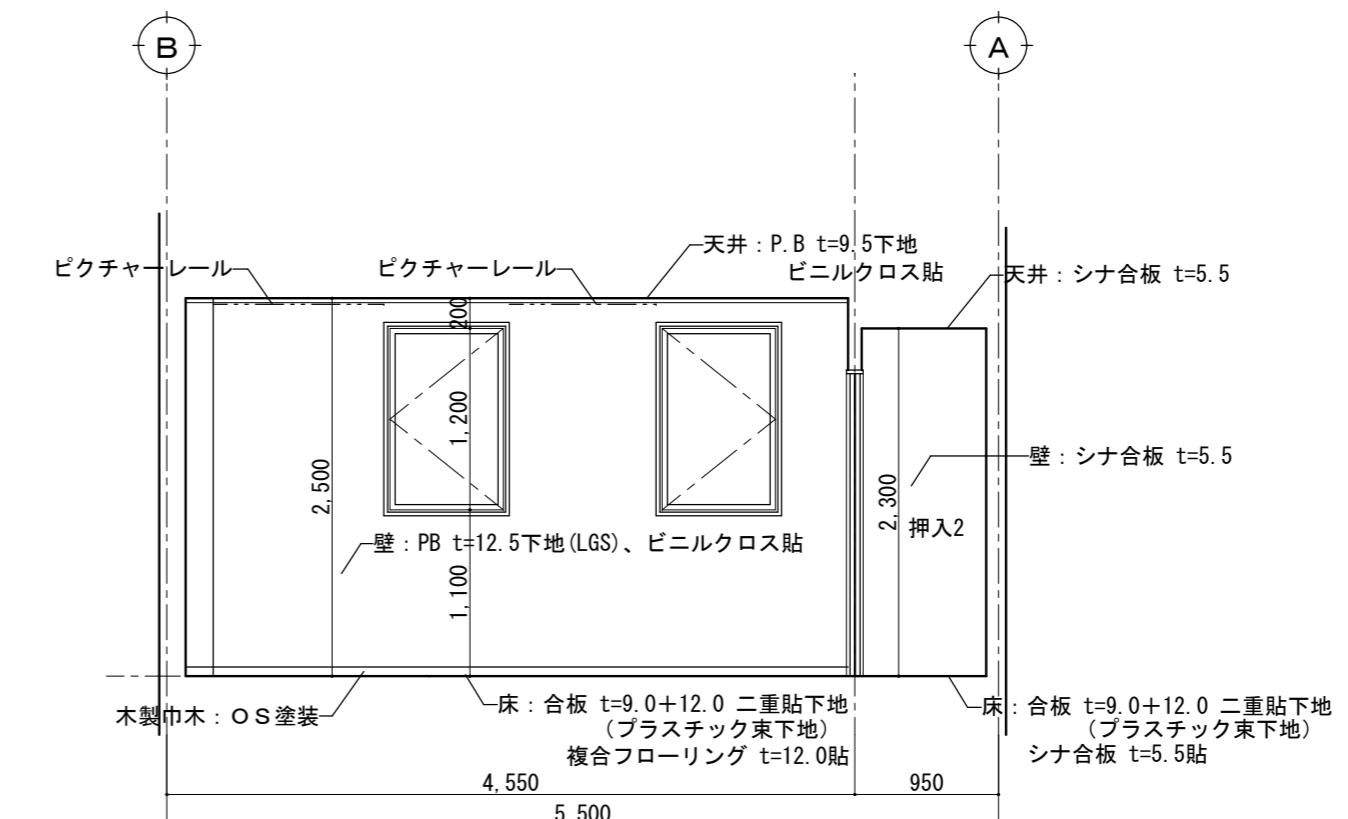
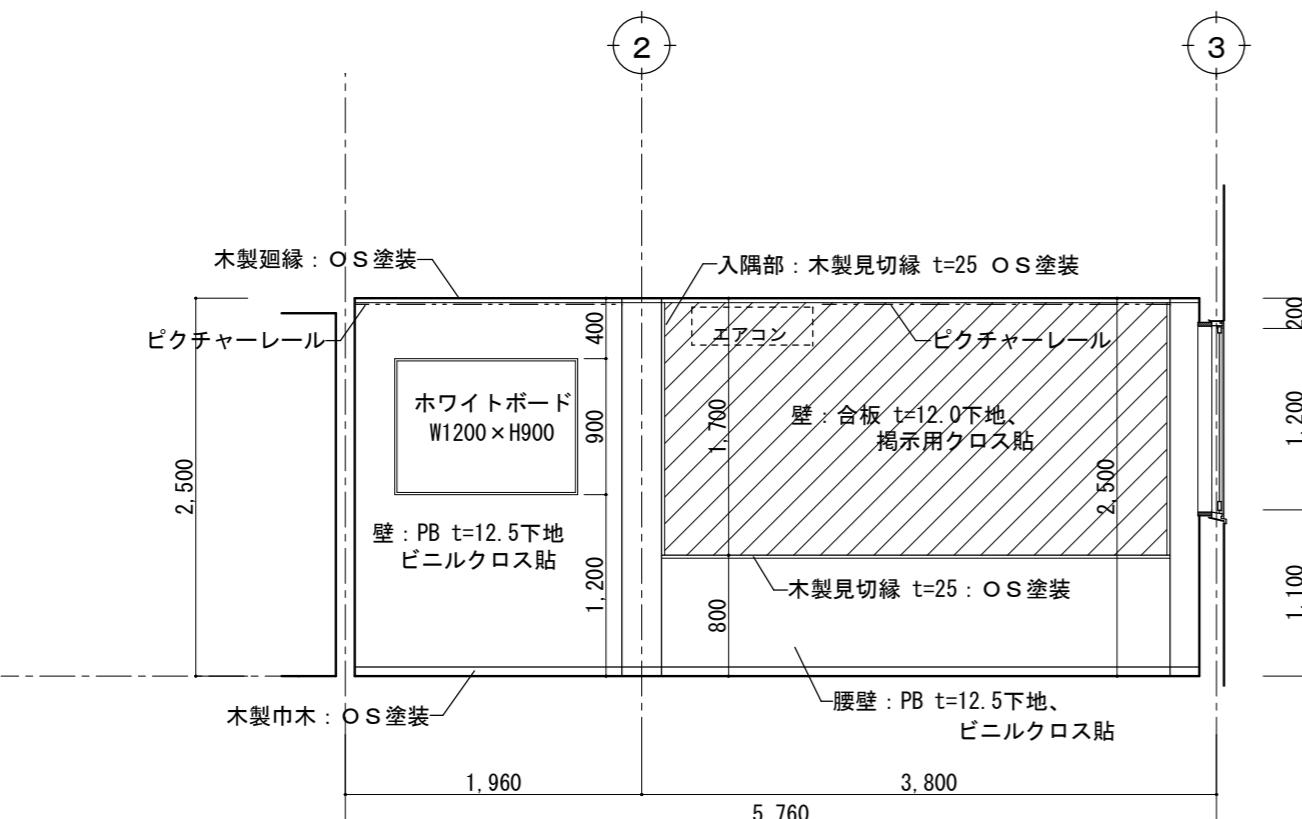


1 階 平面詳細図 1/50

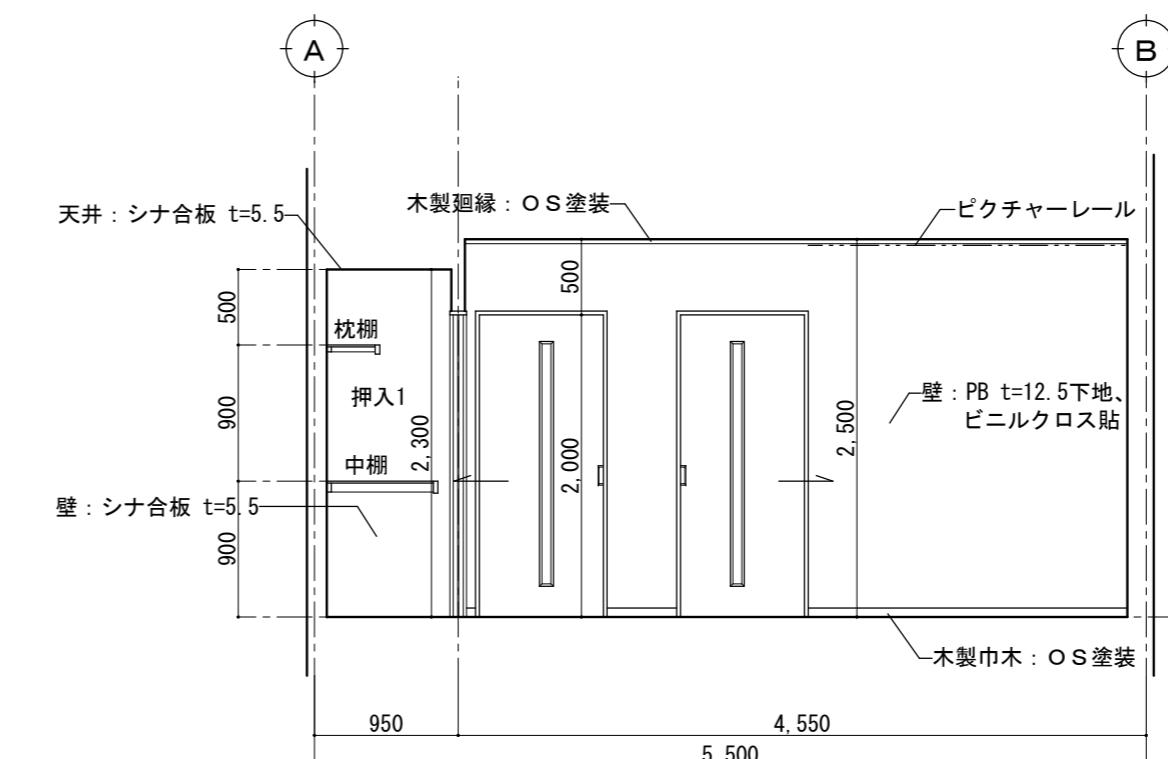
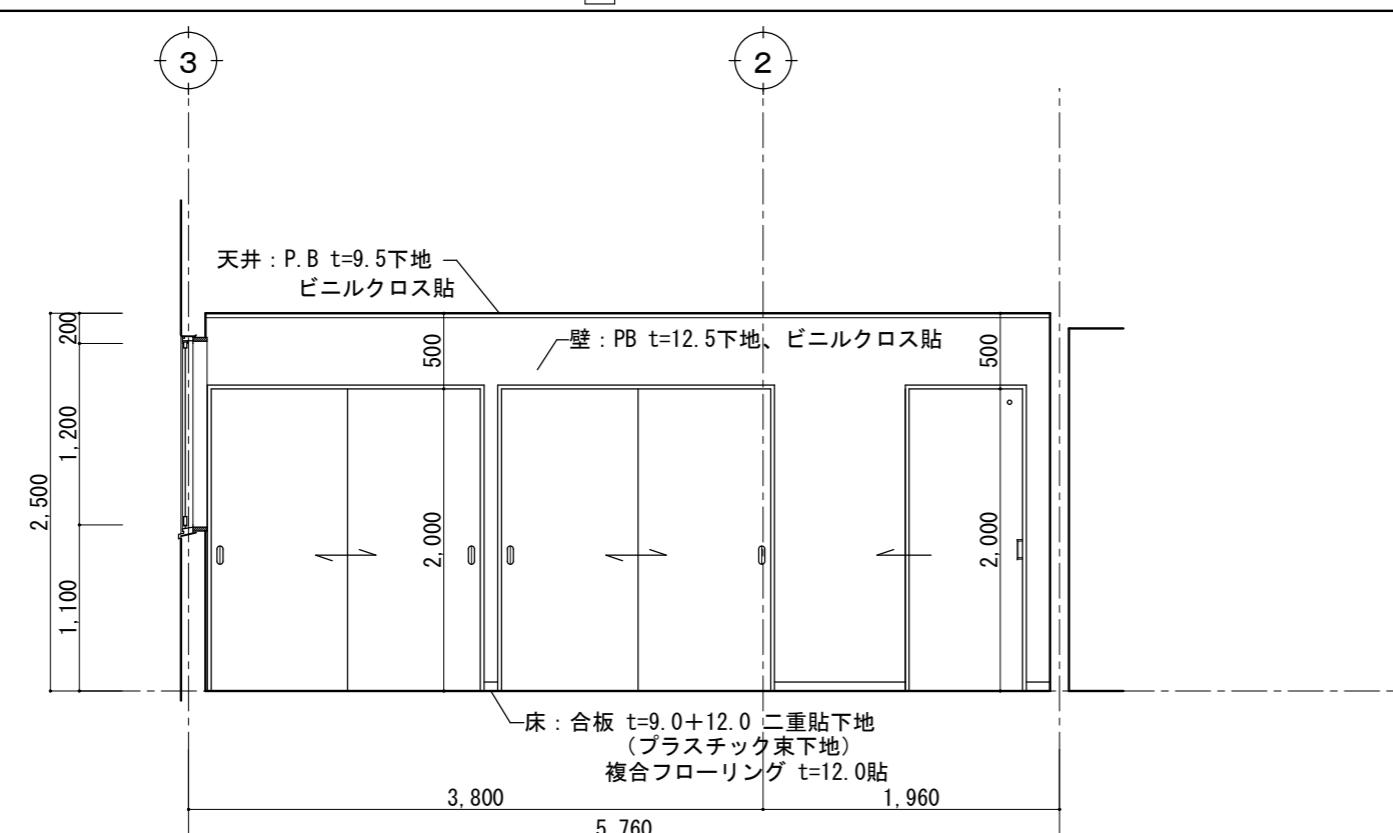


2 階 平面詳細図 1/50

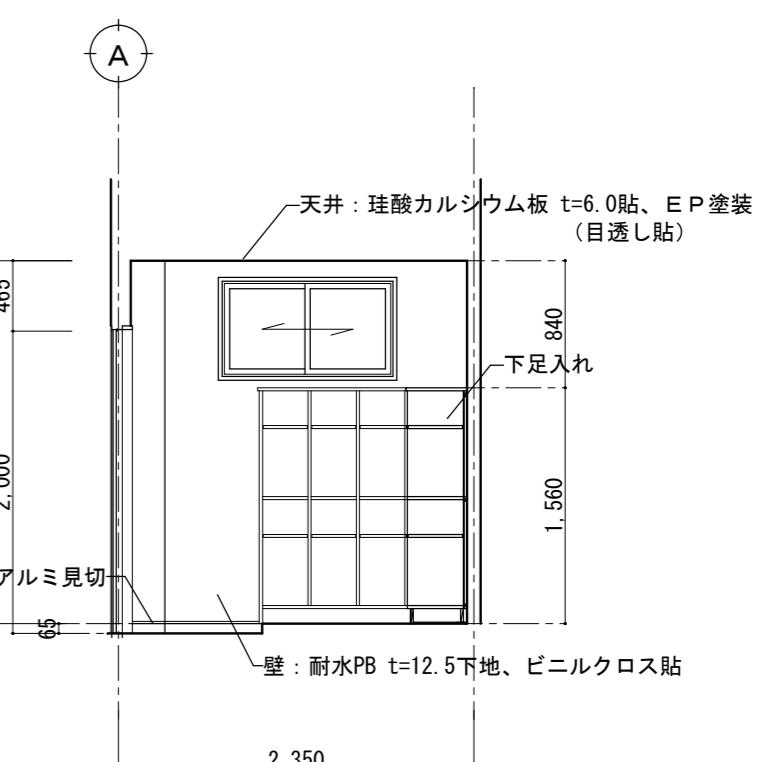
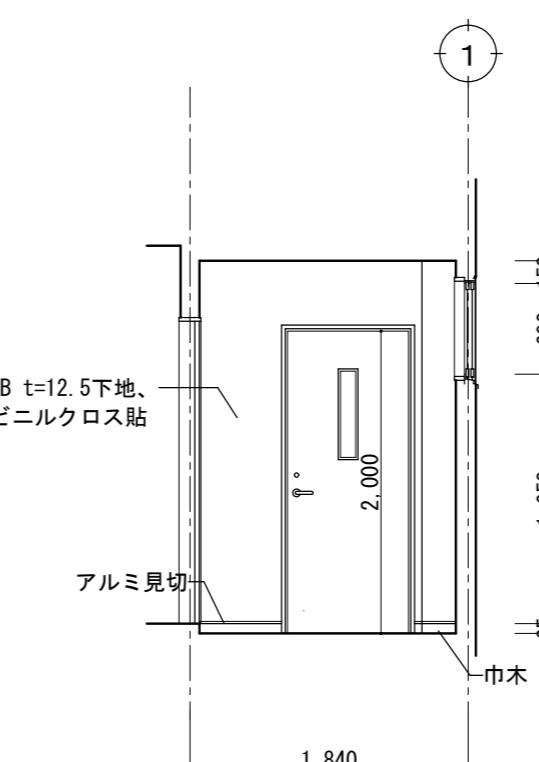
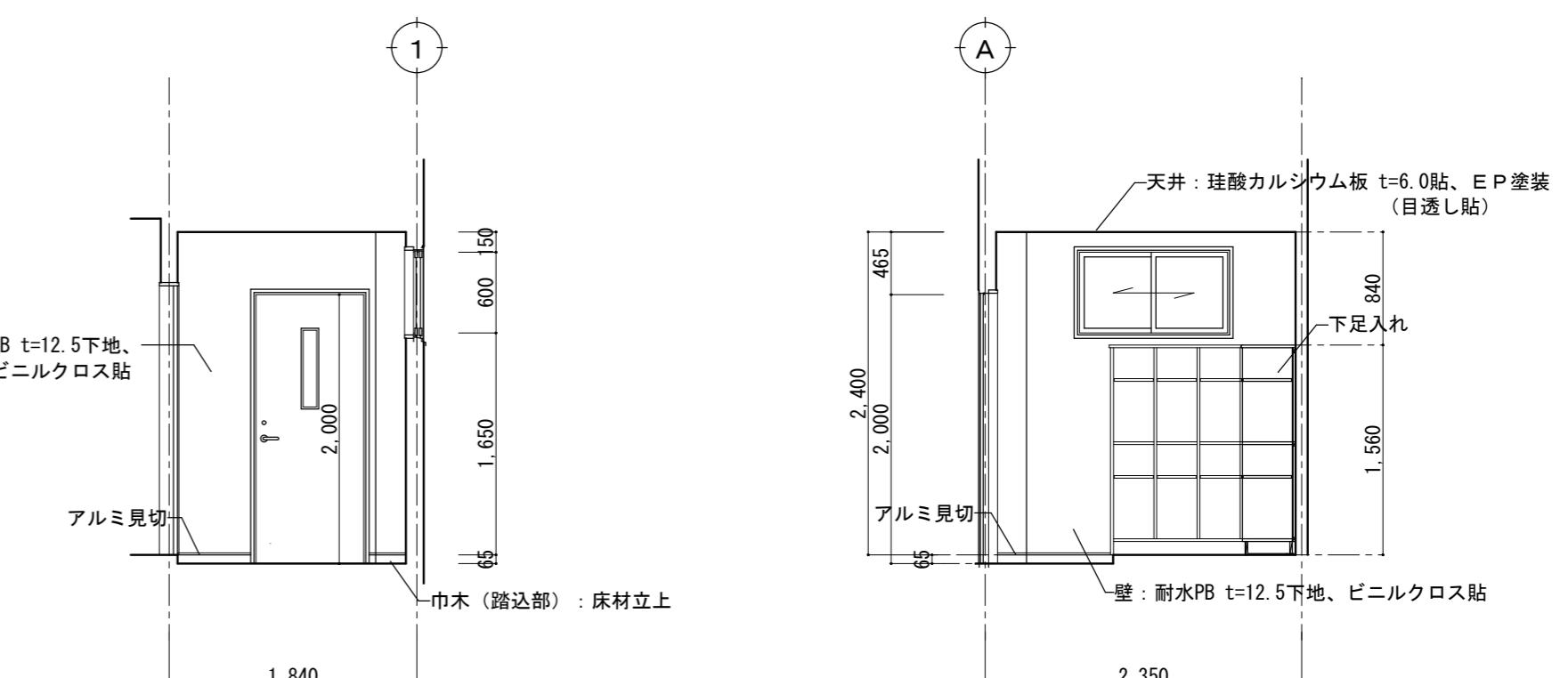




2F 詰所



C



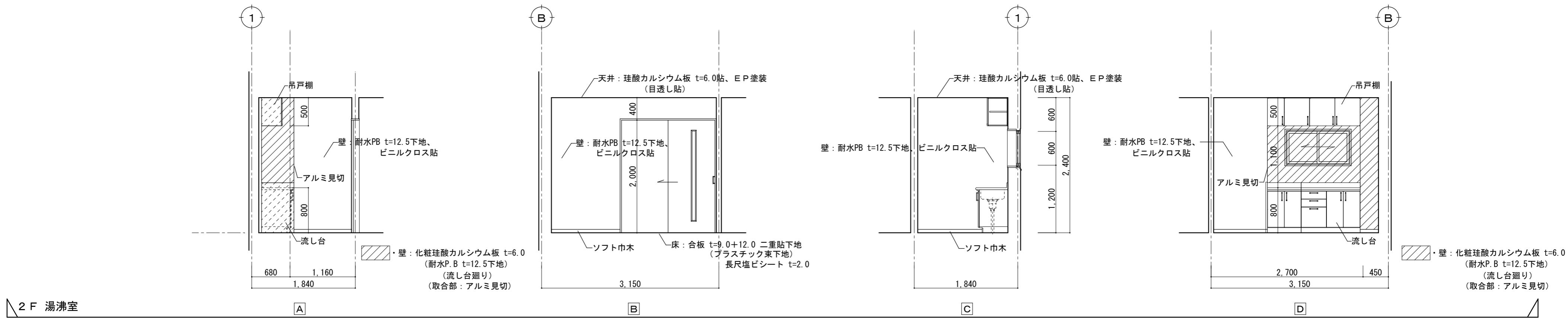
2F 玄関

A

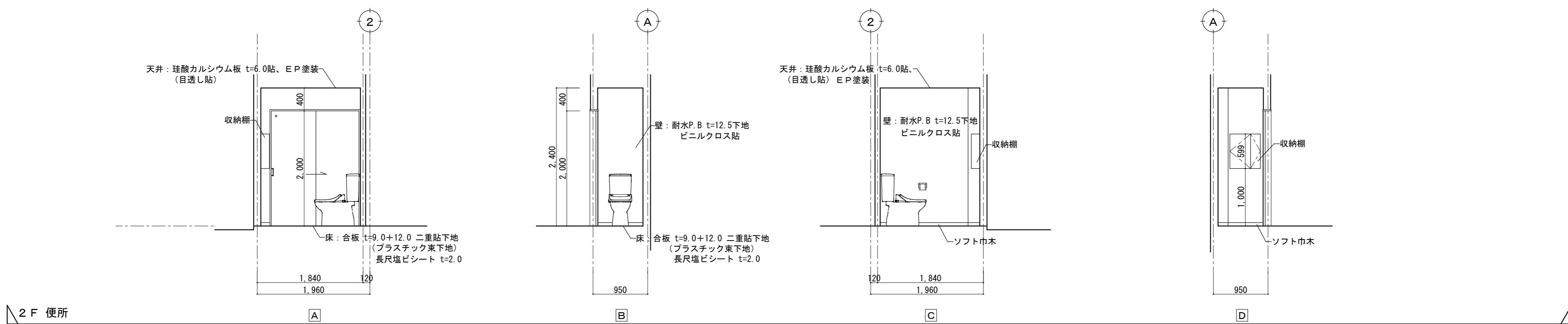
B

C

D

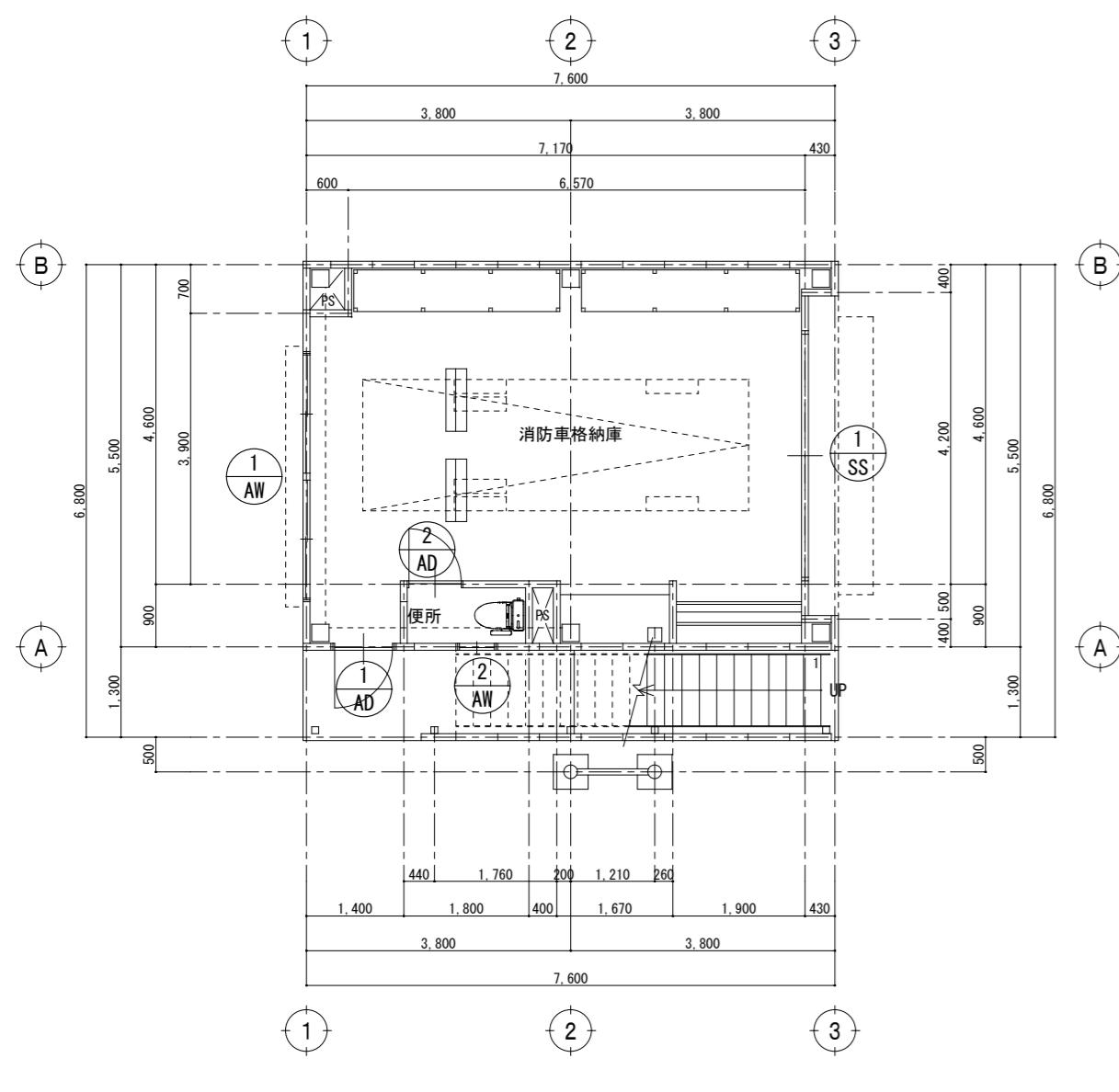
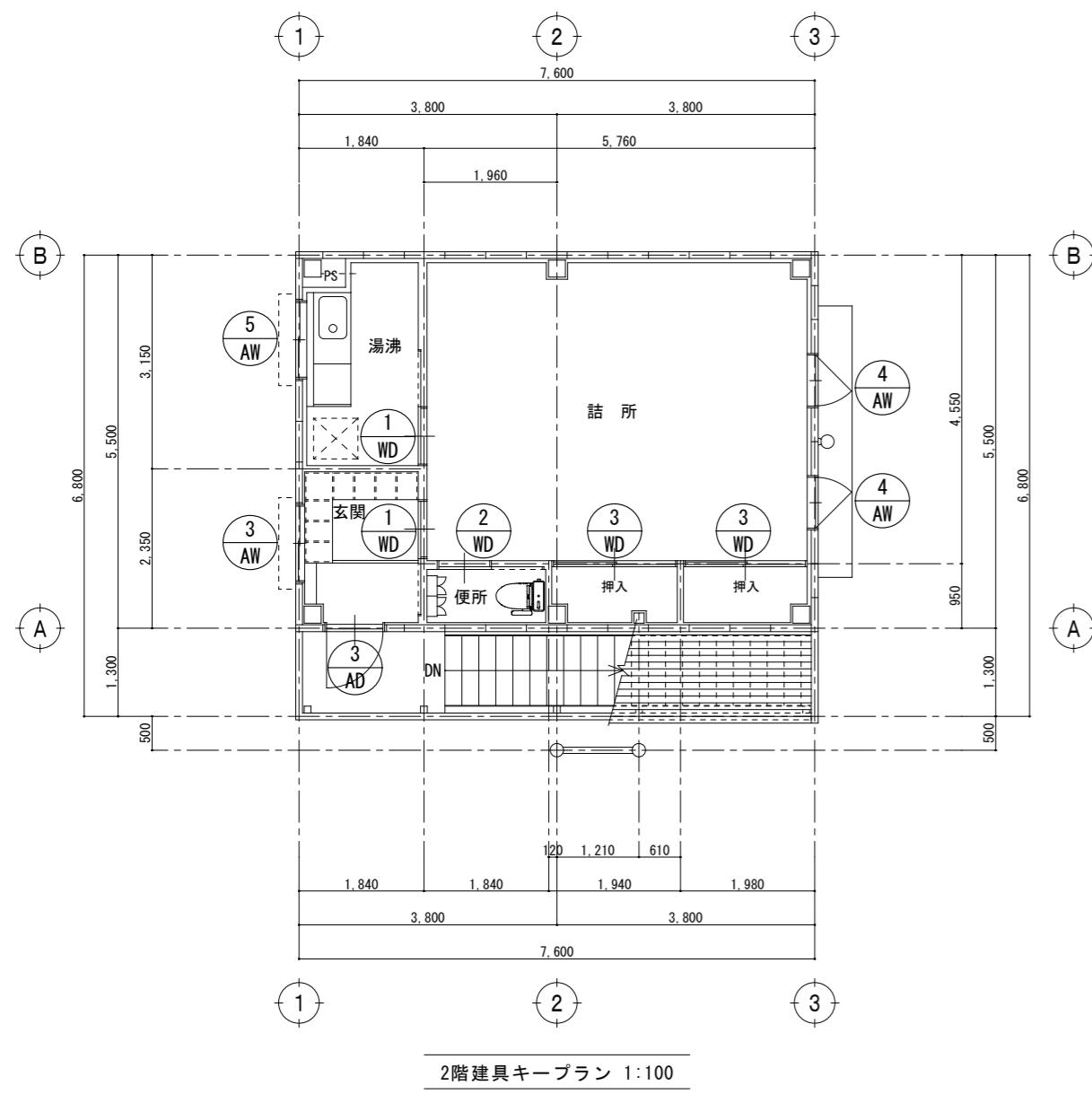


2F 湯沸室



2F 便所

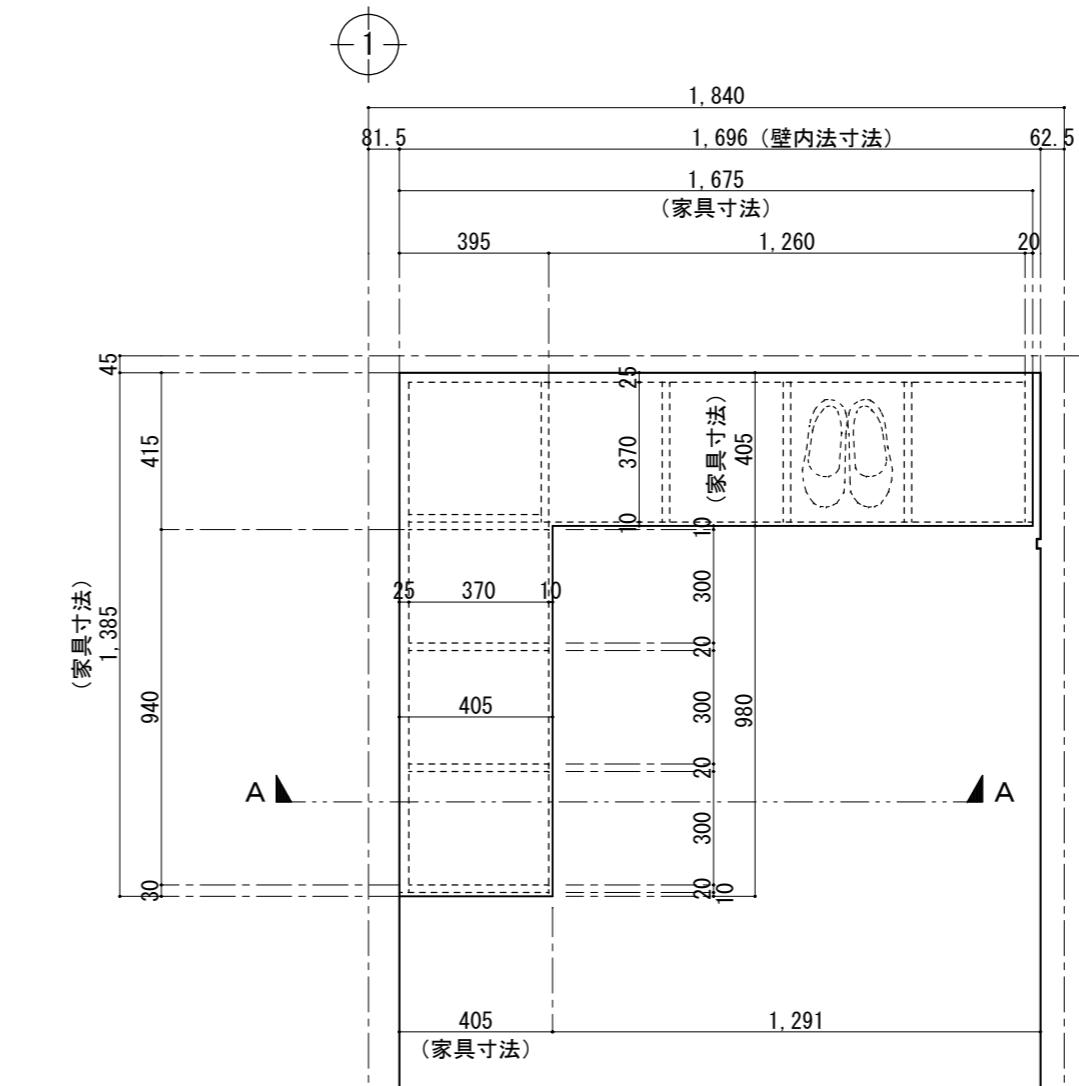
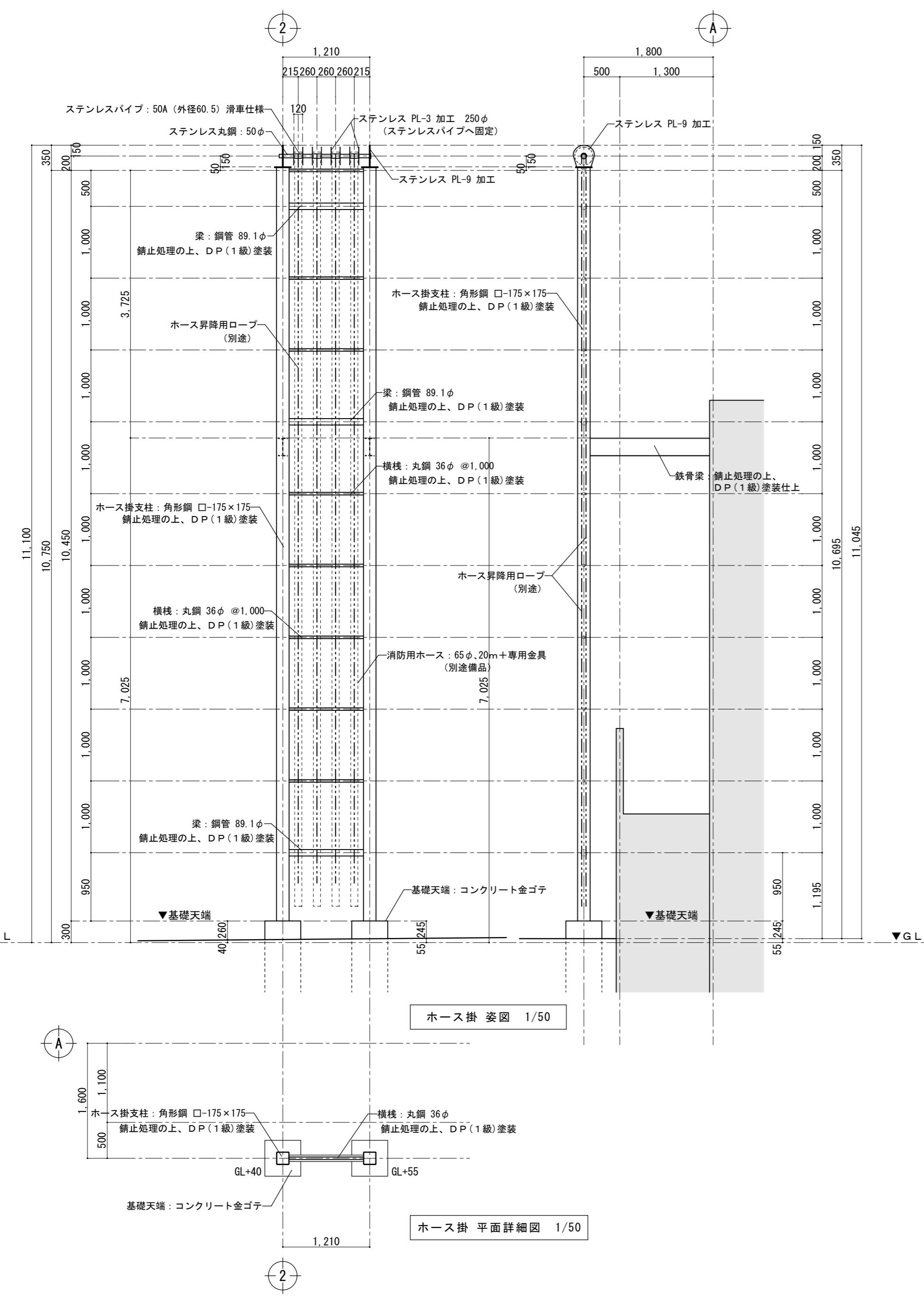
承認	設計	担当	縮尺	工事名称 旭分団詰所建設工事		No.
				A2-1:50	設計年月日	
					図面名称 展開図-3	A-17



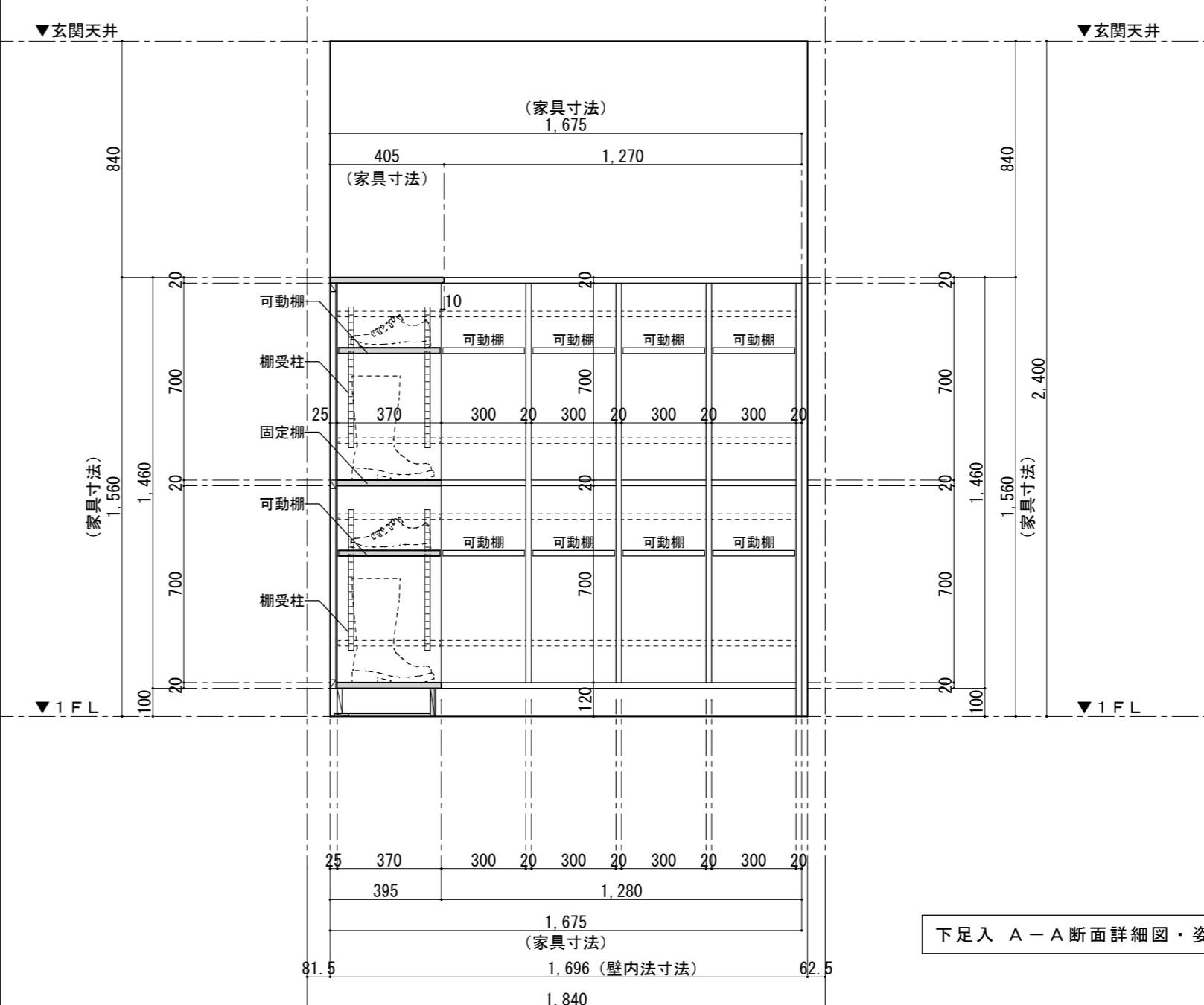
一級建築士事務所登録 第I-041041号  
一級建築士 第190666号  
秋山 昭

記号・場所	1 AW 1階 消防車格納庫	2 AW 1階 便所	3 AW 2階 玄関
姿図	<p>FL+40</p>		
形式・見込	引違い連窓 70	すべり出し窓 70	引違い窓 70
仕上・数量	アルミサッシ 1	アルミサッシ 1	アルミサッシ 1
硝子	型板ガラス t=4.0	型板ガラス t=4.0	型板ガラス t=4.0 + A6 + 透明ガラス t=3.0
金物	アルミ額縁・クレセント・水切・他付属金物一式	アルミ額縫・オペレーターハンドル・水切・他付属金物一式	クレセント・水切・他付属金物一式
備考	網戸付	網戸付(固定:取外し式)	網戸付、ブラインド
記号・場所	4 AW 2階 詰所	5 AW 2階 湯沸室	
姿図	<p>FL</p>		
形式・見込	すべり出し窓 70	引違い窓 70	
仕上・数量	アルミサッシ 2	アルミサッシ 1	
硝子	透明ガラス t=5.0 + A6 + 透明ガラス t=5.0	型板ガラス t=4.0 + A6 + 透明ガラス t=3.0	
金物	カムラッチハンドル・水切・他付属金物一式	クレセント・水切・他付属金物一式	
備考	網戸付(固定:取外し式)、ブラインド	網戸付、ブラインド	
記号・場所			
姿図			
形式・見込			
仕上・数量			
硝子			
金物			
備考			

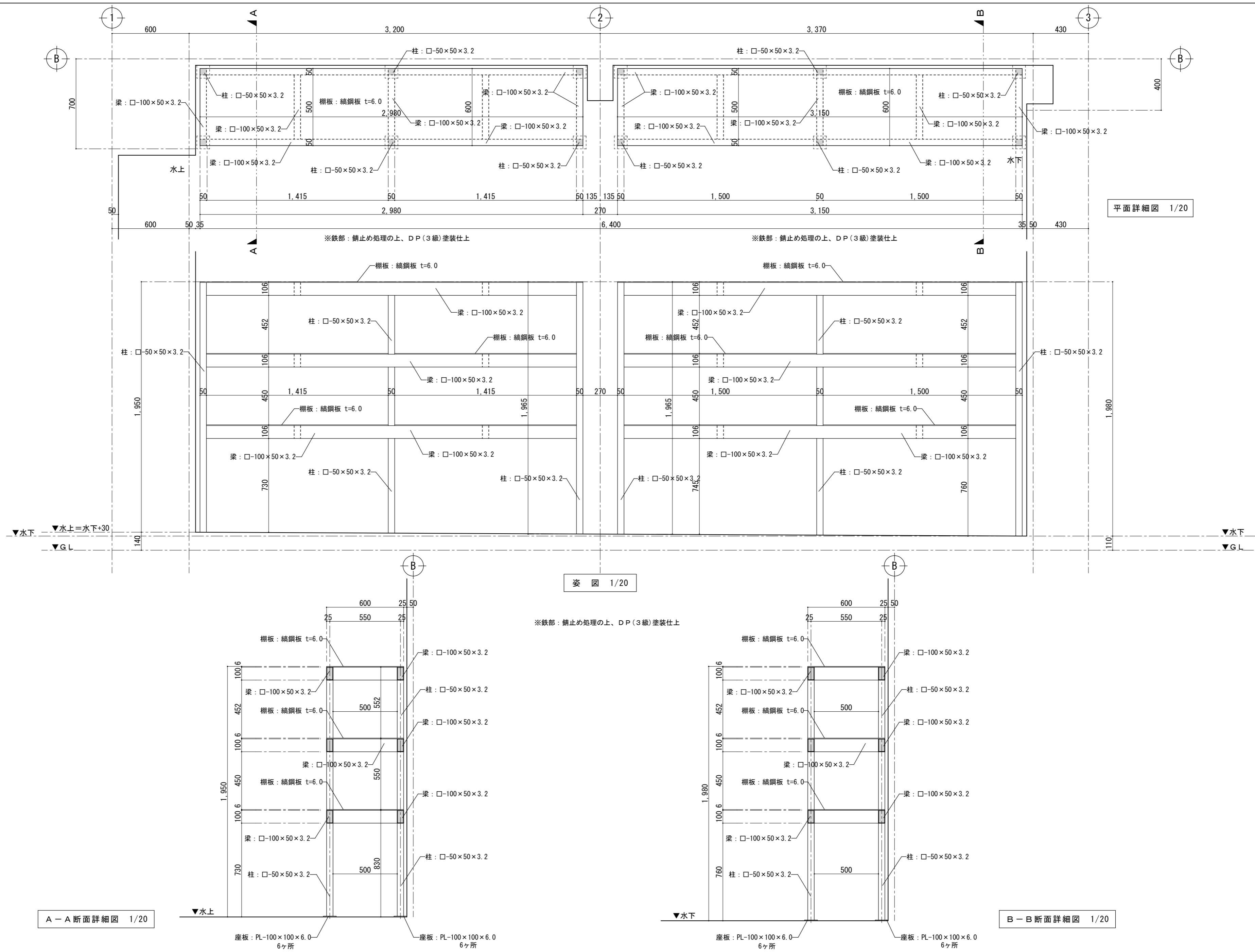
記号・場所	1階 消防車格納庫	1階 便 所	2階 玄 関					
姿 図								
形式・見込	片開きドア 70	片開きドア 70	片開きドア 70					
仕上・数量	アルミドア 1	アルミドア 1	アルミドア 1					
硝 子		型板ガラス t=4.0	型板ガラス t=4.0					
金 物	アルミ額縁・レバーハンドル・DC・丁番・シリンドー錠 他付属金物一式	アルミ額縫・レバーハンドル・DC・丁番・表示錠 他付属金物一式	レバーハンドル・DC・丁番・シリンドー錠 他付属金物一式					
備 考	ガラリ付き							
記号・場所	1階 消防車格納庫	2階 詰所入口・湯沸室	2階 便 所	2階 押 入				
姿 図								
形式・見込		片引き戸 36	片引き戸 36	引違い戸 36				
仕上・数量		木製(額入) : 既製品(木目柄)・枠共 2	木製: 既製品(木目柄)・枠共 1	木製: 既製品(木目柄)・枠共 2				
硝 子		樹脂製	明かり小窓付(丸形)					
金 物		BOX引手・戸車レール・他付属金物一式	BOX引手・戸車レール・表示錠・他付属金物一式	引手・戸車レール・他付属金物一式				
備 考								
記号・場所								
姿 図								
形式・見込	軽量スチールシャッター(手動式)							
仕上・数量	カラー鋼板(スラット t=0.8) 1							
硝 子								
金 物	シャッターケース(角形)・ガイドレール 他付属金物一式 二方枠: カラーガルバリウム鋼板 t=0.6加工							
備 考								
一級建築士事務所登録 梨I-041041号 一級建築士 第190666号 秋山 昭								
株式会社 進藤設計事務所			承認	設計	担当	縮尺 A2-1:100	工事名称 旭分団詰所建設工事	No.
						設計年月日	図面名称 建具表-2	A - 1 9

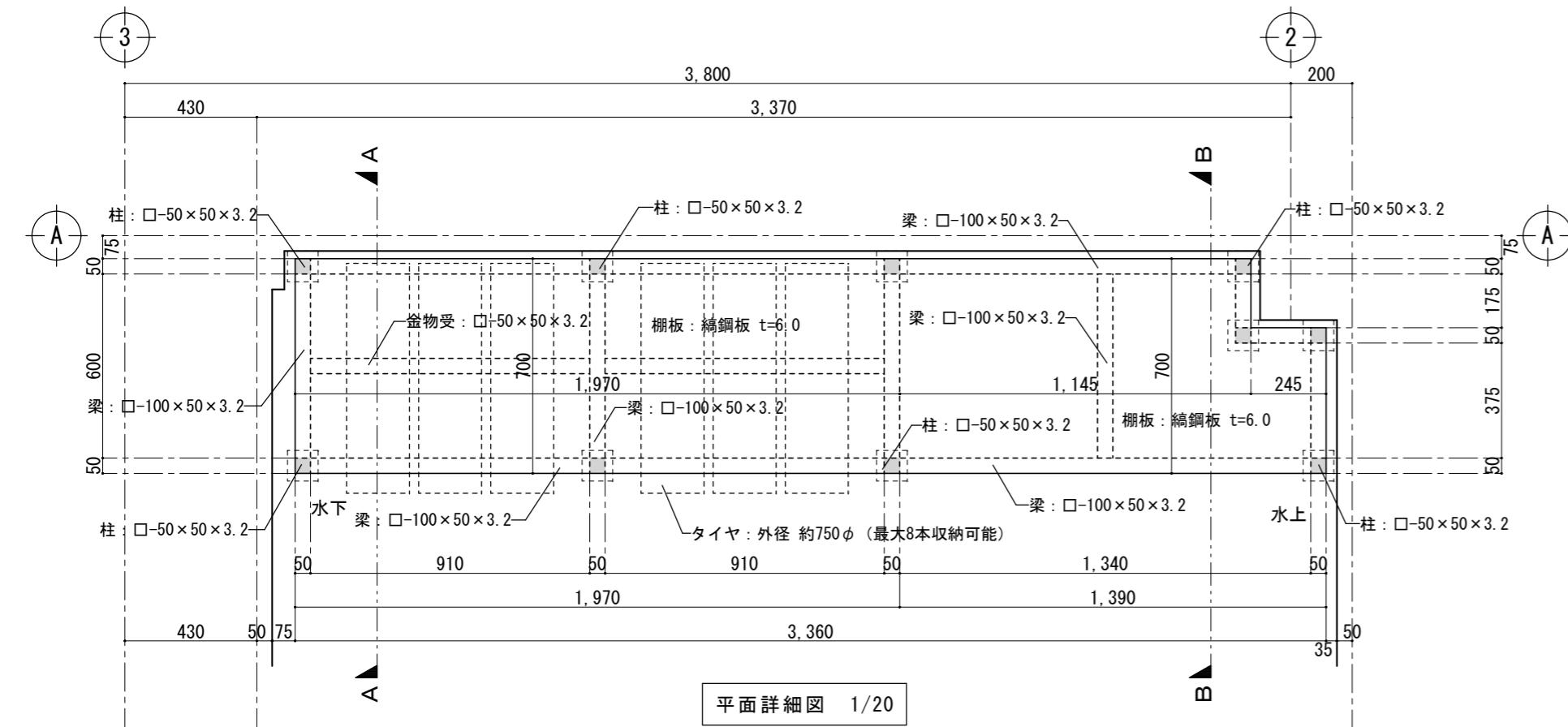


下足入 平面詳細図 1/20



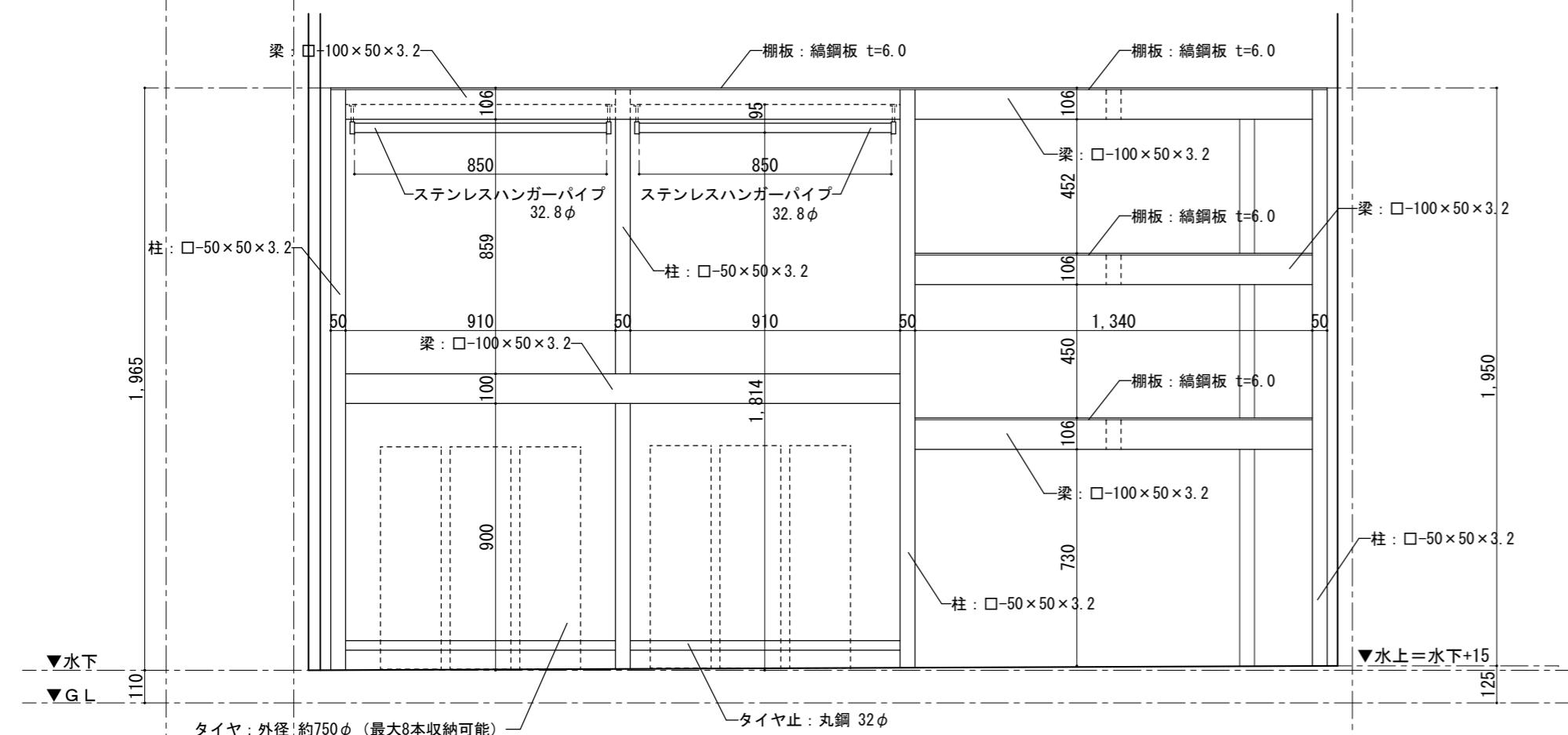
下足入 A-A 断面詳細図・姿図 1/20



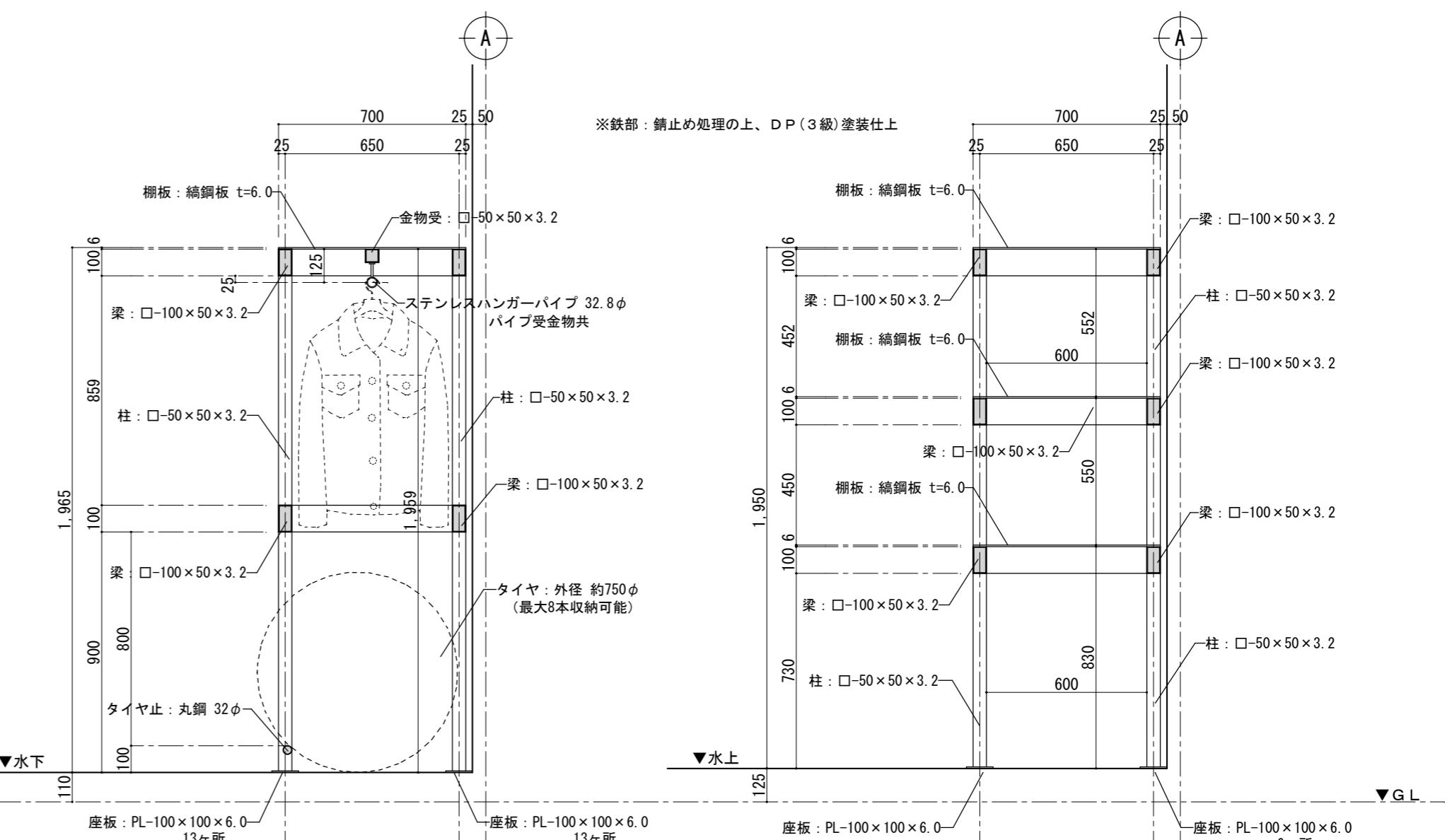


平面詳細図 1/2

※鉄部：鋸止め処理の上、D P(3級)塗装仕



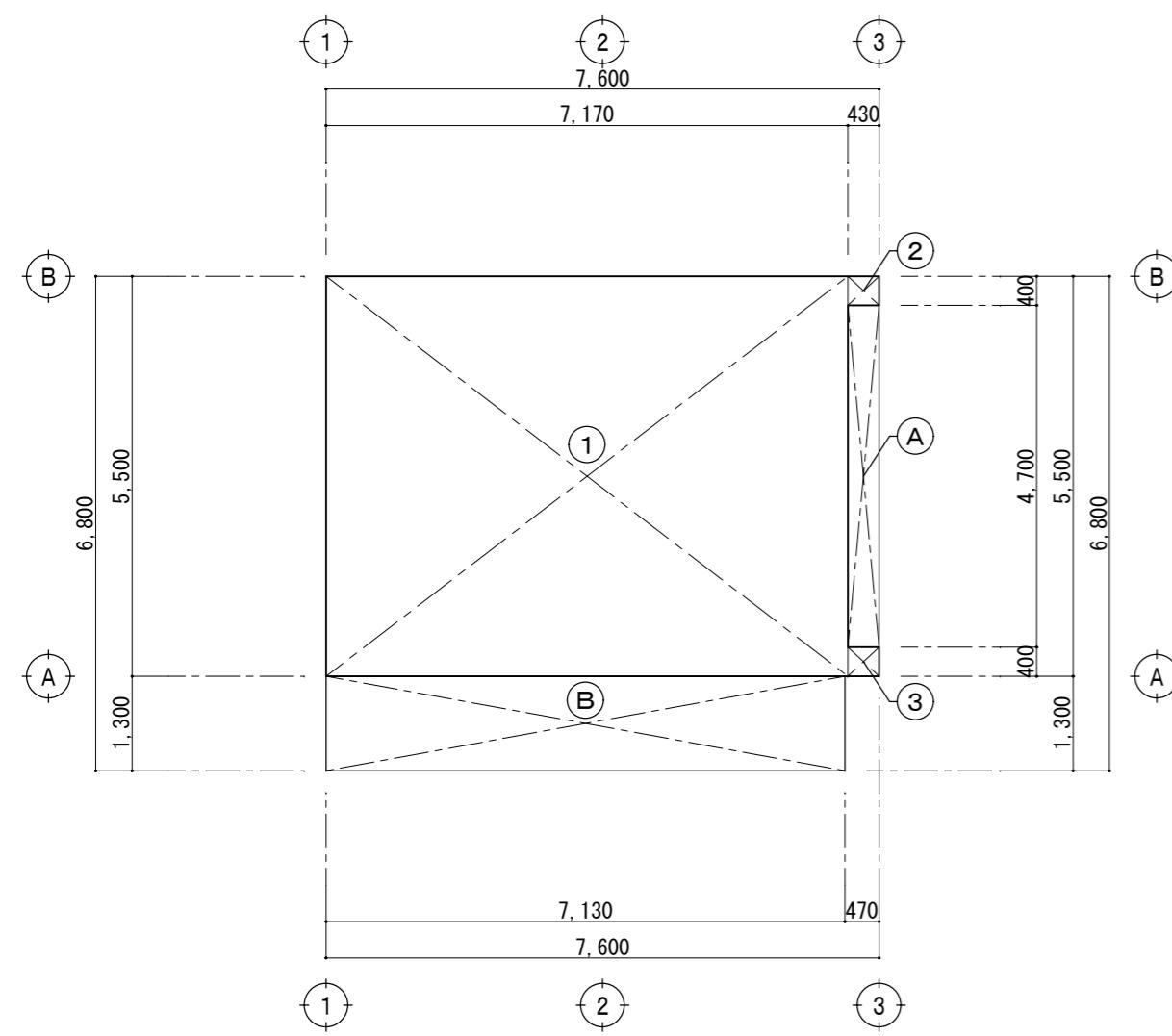
姿 図 1/2



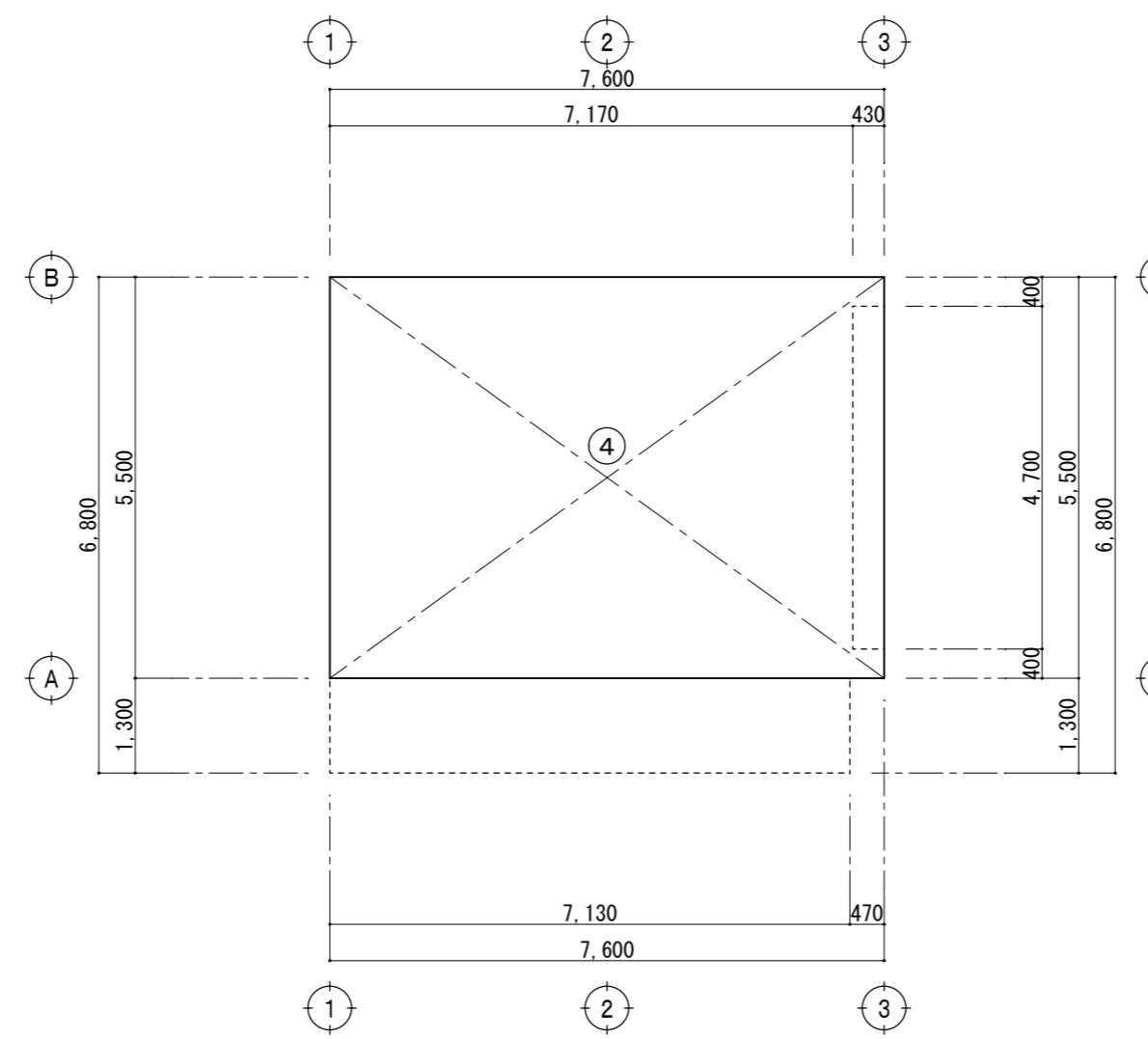
A-A 断面詳細図 1/20

B-B 断面詳細図 1/20

コンクリート製縁石 ; 120×120×600 (地先境界ブロック C種)	コンクリート製縁石 ; 120×120×600 (地先境界ブロック C種)	1 : 20	コンクリート製縁石 ; 150/170×200×600 (歩車道境界ブロック A種)	1 : 20	アスファルト舗装 (車道部) : 密粒度アスコン A-5-15	1 : 20														
屋外用掲示板 : W1,250×H1,800 (アルミ既製品) 透明アクリル板 (引違いタイプ) マグネットボード 1箇所 (コンクリート基礎 (二次製品) 500×500×600H)		1 : 20																		
<table border="1"> <tr> <td>承認</td> <td>設計</td> <td>担当</td> <td>縮尺 A2-1:50 A2-1:20</td> <td>工事名称</td> <td>旭分団詰所建設工事</td> <td>No.</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>設計年月日</td> <td>図面名称</td> <td>外構詳細図</td> <td>A - 2 3</td> </tr> </table>							承認	設計	担当	縮尺 A2-1:50 A2-1:20	工事名称	旭分団詰所建設工事	No.				設計年月日	図面名称	外構詳細図	A - 2 3
承認	設計	担当	縮尺 A2-1:50 A2-1:20	工事名称	旭分団詰所建設工事	No.														
			設計年月日	図面名称	外構詳細図	A - 2 3														



1階求積図 1:100



2階求積図 1:100

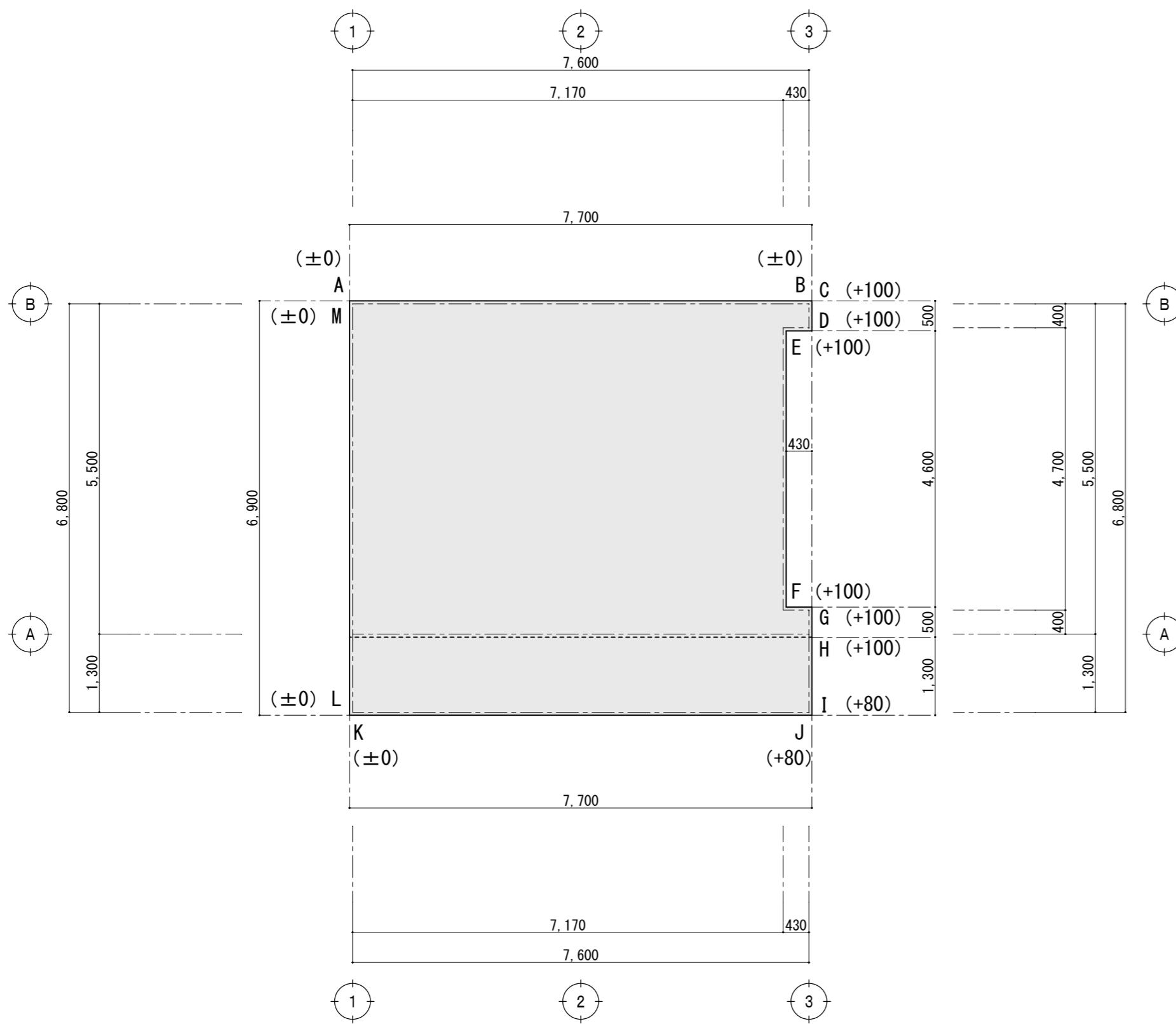
番号	面積	番号	面積
①	7.17 × 5.50	(A)	0.43 × 4.70
②	0.43 × 0.40	(B)	7.13 × 1.30
③	0.43 × 0.40		11.290
	39.779		
		1階床面積 (1)	39.78 m <sup>2</sup>
④	7.60 × 5.50		41.800
		2階床面積 (2)	41.80 m <sup>2</sup>
		延べ床面積 (1) + (2)	81.58 m <sup>2</sup>
			24.68坪

採光 (建築基準法施行令第116条の2-1項二号)												換気								排煙 (建築基準法施行令第116条の2-1項二号)									
階層	室名	床面積	建具記号	算定式	d	h	補正係数	有効W	有効H	数量	開口面積	必要面積 1/20	判定	有効W	有効H	係数	数量	有効開口面積	必要面積 1/20	判定	有効W	有効H	係数	数量	有効開口面積	必要面積 1/50	判定		
2F	詰所	26.21 m <sup>2</sup>	AW-4	10 d/h - 1	道に面する (d ≥ 4m)	1.00	0.75	1.20	2	1.80 m <sup>2</sup>	>	1.31 m <sup>2</sup>	OK	0.75	1.20	1.00	2	1.80 m <sup>2</sup>	>	1.31 m <sup>2</sup>	OK	0.75	0.60	1.00	2	0.90 m <sup>2</sup>	>	0.52 m <sup>2</sup>	OK

無窓階 (消防法)												
階層	室名	床面積	建具記号	有効W	有効H	係数	数量	有効開口面積	必要面積 1/30	判定		
1F	1階床面積	39.78 m <sup>2</sup>	AW-1	1.70	1.20	0.50	1	1.02	2.04 m <sup>2</sup>	>	1.33 m <sup>2</sup>	OK
				1.70	1.20	0.50	1	1.02				
2F	2階床面積	41.80 m <sup>2</sup>	AW-4	0.75	1.20	1.00	2	1.80	1.80 m <sup>2</sup>	>	1.39 m <sup>2</sup>	OK

一級建築士事務所登録 梨1-041041  
一級建築士 第190666号  
秋山 昭

				株式会社 進藤設計事務所	承認	設計	担当	縮尺 A2-1:100	工事名称 旭分団詰所建設工事			No. A-24
									設計年月日	図面名称	面積表・求積図・法規チェック	



【地盤面】 = (接する部分の見付面積の合計／接する部分の長さの合計)

$$= 1.0710 / 30.06 = 0.0356 \text{m} (\text{地盤面(平均)}) = G.L + 0.03 \text{m}$$

接する部分の見付面積の合計	計算式	計
A~B : 7.70 × 0.00	0.0000 m <sup>2</sup>	
C~H : 6.46 × 0.10	0.6460 m <sup>2</sup>	
H~I : 1.30 × (0.10+0.08) × 1/2	0.1170 m <sup>2</sup>	
J~K : 7.70 × 0.08 × 1/2	0.3080 m <sup>2</sup>	
L~M : 6.90 × 0.00	0.0000 m <sup>2</sup>	
見付面積の合計	1.0710 m <sup>2</sup>	

※ GL=±0 とする

※ 接する部分の長さ A~B : 7.70m

※ 接する部分の長さ C~H : 0.50+0.43+4.60+0.43+0.50=6.46m

※ 接する部分の長さ H~I : 1.30m

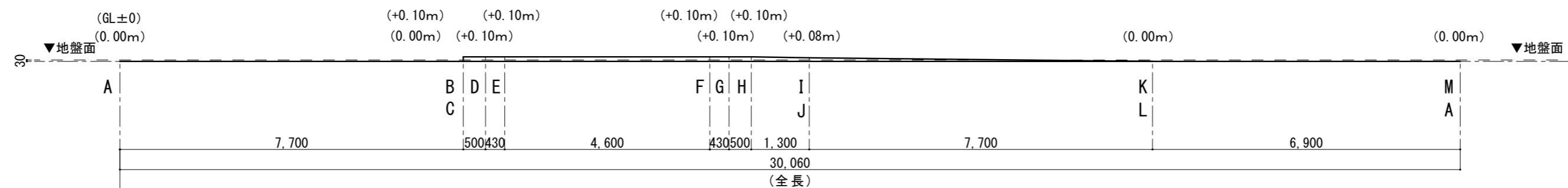
※ 接する部分の長さ J~K : 7.70m

※ 接する部分の長さ L~M : 6.90m

※ 接する部分の長さの合計 A~M : 7.70+6.46+1.30+7.70+6.90=30.06m

※ ( ) の数値はGLからの高さを示す

地盤面の算定(平面)



地盤面の算定(展開)

# 構造設計標準仕様書

適用は  印を記入する。

## 1. 建築物の構造内容

(1) 建築場所	岐阜市旭町上條北割字宮下2920-2
(2) 工事種別	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 増改築 <input type="checkbox"/> 改築
(3) 構造設計一級建築士の関与	<input type="checkbox"/> 法第20条第二号 ( <input type="checkbox"/> RC造高さ20m超 <input type="checkbox"/> S造 4階建以上 <input type="checkbox"/> その他)
(4) 構造種別	<input type="checkbox"/> 木造(W) <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨造(S) <input type="checkbox"/> 筋コンクリート造(RC) <input type="checkbox"/> 壁式筋コンクリート造(WRC) <input type="checkbox"/> 鉄骨筋コンクリート造(SRC)
(5) 階数	地下 階 地上 2 階 塔屋 階
(6) 主要用途	事務所(消防団詰所)
(7) 屋上付属物	<input type="checkbox"/> 太陽光発電システム <input type="checkbox"/> キュービクル <input type="checkbox"/> 広告塔
(8) 特別な荷重	<input type="checkbox"/> エレベーター <input type="checkbox"/> 受水槽
(9) 付帯工事	<input type="checkbox"/> 門 塀 <input type="checkbox"/> 擁 壁
(10) 構造計算ルート	X方向ルート 1-1 Y方向ルート 1-1

## 2. 使用構造材料

(1) コンクリート				
適用箇所	種類	設計基準強度 $F_c = N/mm^2$	品質基準強度 $F_a = N/mm^2$	スランプcm
捨てコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	18	15
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	24	18
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	24	18
柱、梁、床、壁	<input type="checkbox"/> 普通			
床デッキプレート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	24	18

■ 単位水量 185kg/m<sup>3</sup>以下 単位セメント 270kg/m<sup>3</sup>以上とする  
■ 調合管理強度 (Fm) Fm = Fq + mSn 構造体強度補正値 mSn=3~6

## (2) コンクリートブロック(CB)

□A 種 □B 種 □C 種 厚口100 □120 □150 使用箇所 (□ )

(3) 鉄筋			
種類	径	使用箇所	継手法
異形鉄筋	SD295A	D10~D16	基礎・基礎梁 ●重ね継手(D16以下) ■ガス圧接継手(D19以上)
			□溶接継手
	SD345	D19~D25	基礎・基礎梁 □機械式継手
丸鋼	SR235		* 各継手の仕様詳細については 本仕様5.(2)鉄筋継手等を参照する
溶接金網	□		

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	備考
SS400 ■ SN400	□	小梁・プレース JIS G 3136
STKR400 ■ SS400	□	間柱 JIS G 3466
SN400B □ SN490B	□	大梁 JIS G 3136
SN400C ■ SN490C	□	ダイヤフラム 認定材料 MSTL-0144
BCR295 □ BCP235	□	柱 認定材料 MSTL-0142
SS400 □	□	胴縁 JIS G 3350
溶接材料		

(5) ボルト

高力ボルト	□F10T ■ S10T □F8T	( ■ M16 ■ M20 □M22 □M24 )
中ボルト	M12	
アンカーボルト	下記以外	ペ-スペック標準仕様による
SS400		ナット(シングル、ダブル)
頭付スタッドボルト		

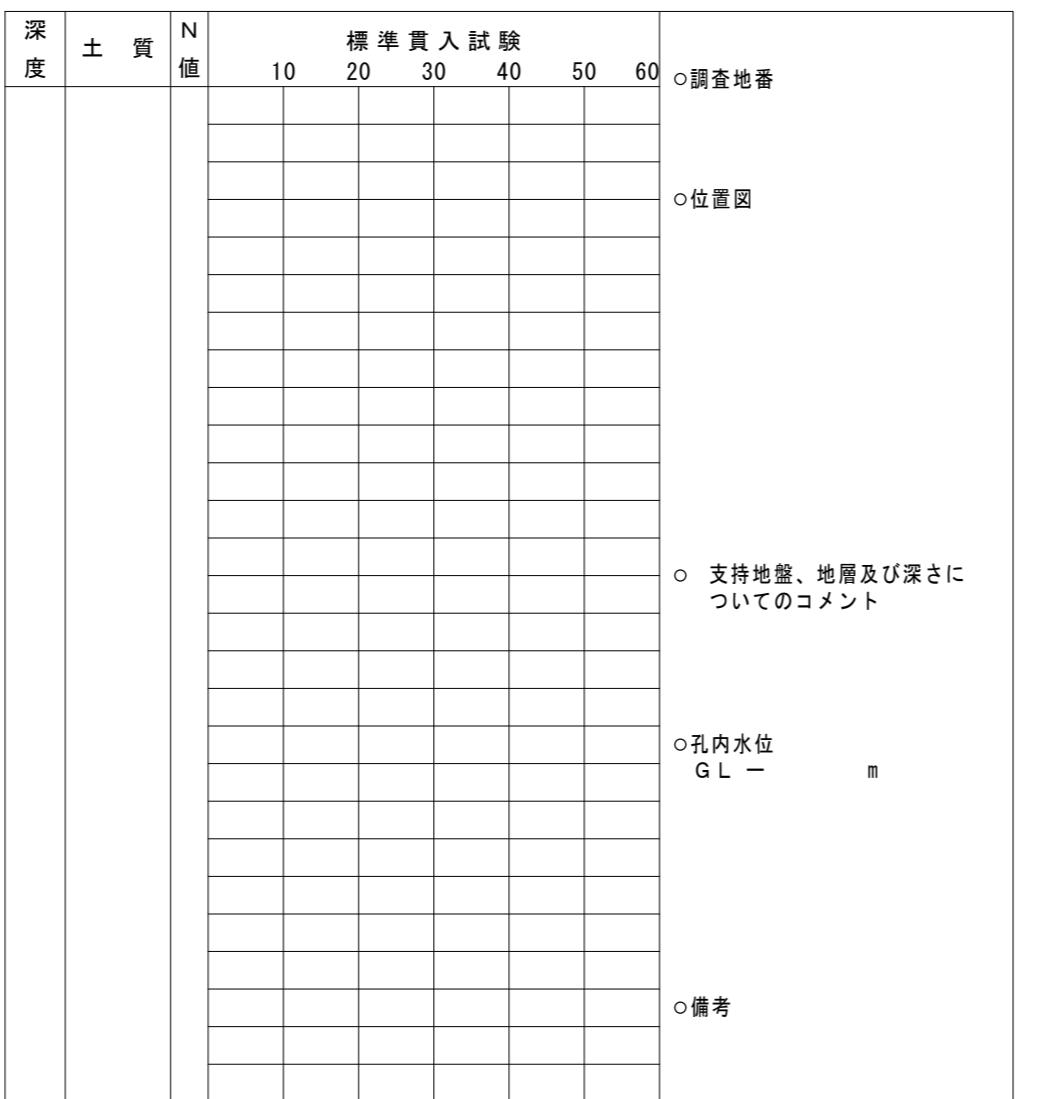
## 3. 地盤

### (1) 地盤調査資料と調査計画

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験		
標準貫入試験			水平地盤反力係数の測定		
土質試験			物理探査		
試験場(支持層の確認)			平板載荷試験		
スレーブ式サンディング	○				

註) 上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する

### (4) ボーリング標準貫入値、土質構成(基礎・杭の位置を明記すること)



註) 地盤調査の結果より、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

## 4. 地業工事

### (1) 直接基礎

□ベタ基礎 □布基礎 ■独立基礎 試験堀 □有 □無  
深さ G.L. - 1.08m 支持層 - 長期許容支持力度 100 kN/m<sup>2</sup> 載荷試験 □有 □無

### (2) 地盤改良

□浅層混合処理工法 □深層混合処理工法

註)「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(日本建築センター2002)を参考とする

### (3) 杭基礎

杭種	材 料	施 工 方 法
□RC □PRC	PRC (□I種 □II種 □III種)	□打ち込み
□PHC □摩擦杭	PHC (□A種 □B種 □C種)	□埋込み
□鋼管	鋼材 □STK490 □	□
□場所打ち	コンクリート $F_c = N/mm^2$ Fq = N/mm <sup>2</sup>	□オールケーシング □抵底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル □ミニアース □BH □深灌 □手堀 □機械堀
コンクリート杭	スランプ cm以下 セメント量 kg/m <sup>3</sup> 単位水量 kg/m <sup>3</sup> 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	

杭仕様 □施工計画書承認 □杭施工結果報告書

試験杭 (□有 □無) (□打ち込み・□載荷)

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭長(m)	本数	特記事項

## 5. 鉄筋コンクリート工事

### (1) コンクリート

■コンクリートはJIS A 5308に適合するJIS認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5(2009)による。

■耐久設計基準強度 Fd □短期 ■標準 □長期 □超長期

■セメントは、JIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

■調合計画、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

■地中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

■フレッシュコンクリートの塗膜測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試験から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

■構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験方法はJASS 5-603によることし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が、150m<sup>3</sup>をこえる場合は150m<sup>3</sup>ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。

一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。

尚、供試体の数量は、特別な指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4回用に3本を用いる。

■ポンブ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、

コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。

ポンブ圧送に際しては、コンクリート圧送技術または同等以上の技能を有する者が従事すること。

なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、

外気温が25°C未満の場合は、150分以内、25°C以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄筋

■鉄筋はJIS G 3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5(2009)による。

□高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1号適合品とする。

■鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」又は「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。

■鉄筋継手等

鉄筋継手法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級			鉄筋の絆
	(1)引張力最少部位	(2)(1)以外の部位	註	
A級	B級	SA級		
●重ね継手	■40d □35d □ d			□ D16以下
●圧接継手	■告示1463号第2項各号	□		□ D19以上
□溶接継手	□告示1463号第3項各号	□	□	□
□機械式継手	□告示1463号第4項各号	□	□	□

註)平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、認定・評定を取得した継手の工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手標準(建築物の構造関係技術基準解説書2007)』によって検討した条件・使用による。

■D19未満は、すべて重ね継手とする。

■継手部分の施工要領は、(社)日本鉄

# 鉄筋コンクリート構造標準図 (1)

## 1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の成 R…直徑  
e…間隔 r…半径 l…中心線 l<sub>o</sub>…部材間の内法寸法 h…部材間の内法高さ  
ST…あら筋 HOPP…帯筋 S.HOPP…強筋 HOPP…直徑又は丸鋼

## 2. 鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびU形のキャップタイのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	

折曲げ内法寸法 R は、SR235～SD345の径16及びD16以下は3d以上、SD295～SD345のD19～D38は4d以上、D41及SD390は5d以上スラブ筋・壁筋には丸鋼は使用しない。

### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帶筋	SR235, SR295	φ16, D16以下	3d以上
	あら筋	SD295A, SD295B	φ19, D19以上	4d以上
	スパイラル筋	SD345	D16以下	4d以上
	上記以外の鉄筋	SD35A, SD35B	D19～D25	6d以上
		SD345	D29～D41	8d以上
		SD390		

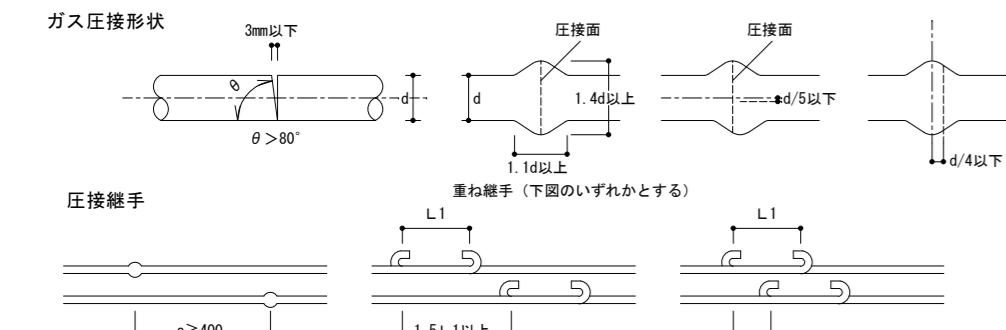
### (3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ(L1)
		一般(L2)	下端筋(L3)	
SR235	21, 24	35d フック付き	25d フック付き	35d フック付き
	18以下	45d フック付き	150mm フック付き	45d フック付き
SD295A	27～36	30d または 20d フック付き	25d フック付き	35d または 25d フック付き
SD295B	21, 24	35d または 25d フック付き	20d フック付き	40d または 30d フック付き
SD345	18以下	40d または 30d フック付き	35d フック付き	45d または 35d フック付き
SD390	27～36	35d または 25d フック付き	30d フック付き	40d または 30d フック付き
	21, 24	40d または 30d フック付き	35d フック付き	45d または 35d フック付き

註) 許容応力度、許容応力度等計算、その他構造計算を要しない規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は4dとする

### 継手

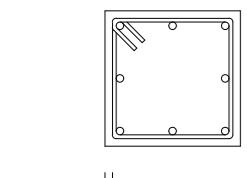
1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



### (4) かぶり厚さ (単位:mm)

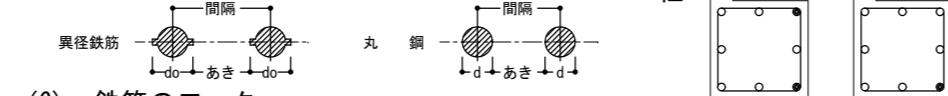
部位	設計かぶり厚さ(最小かぶり厚さ)	
	(mm)	(mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 30	20
	床スラブ 40 <sup>(1)</sup>	30(20)
はりり耐力壁	屋内 40	30
	屋外 50 <sup>(2)</sup>	40 <sup>(1)(30)</sup>
柱・はり・床スラブ・耐力壁	50 <sup>(3)</sup>	40 <sup>(4)</sup>
基礎・擁壁	70	60 <sup>(4)</sup>

[注] (1) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
(2) ( ) 内は仕上げがある場合。  
(3) 土に接する部分のかぶりは、増加する厚さを打ち増しとする。



### (5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上  
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



### (6) 鉄筋のフック (a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける)

a. 丸鋼 b. あら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋  
d. 柱、梁(基礎梁は除く)の突出部分の鉄筋(右図参照)  
e. 単純梁の下端筋  
f. その他、本規格標準に記載する箇所

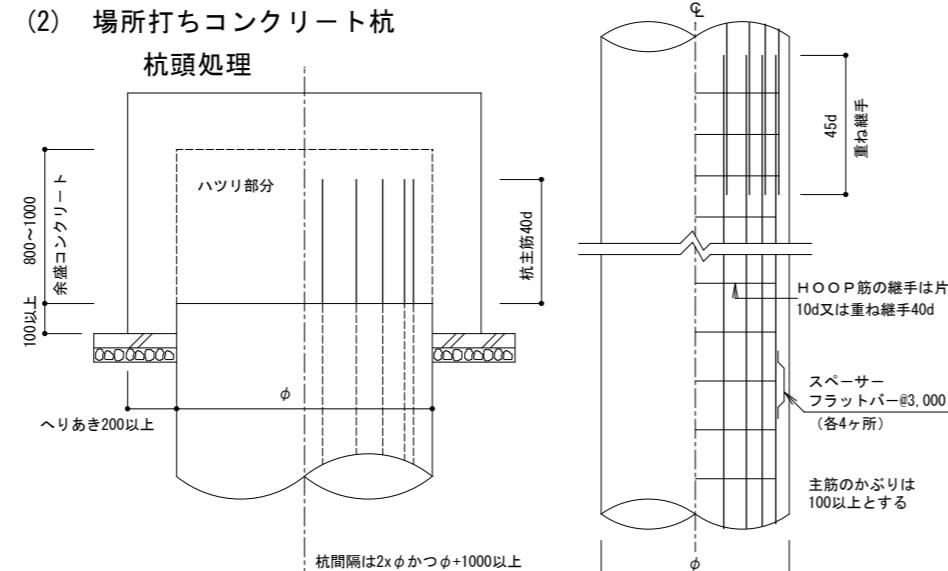
## 3. 杣

(地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。)

### (1) PC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

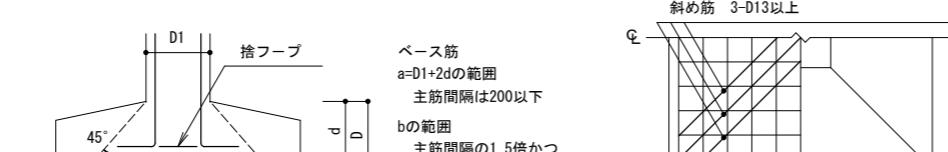
所定の位置に止まった場合	所定より低く止まった場合

W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

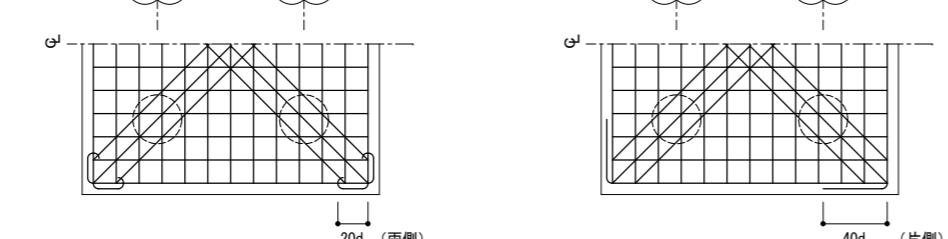
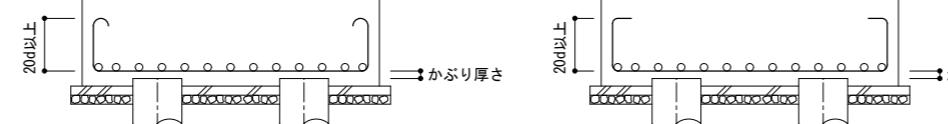
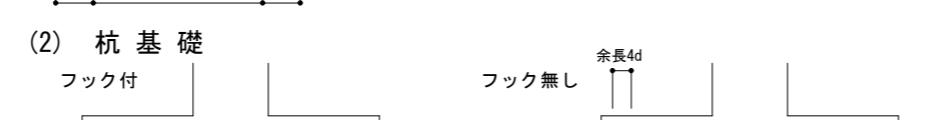


## 4. 基礎

### (1) 直接基礎



### (2) 杭基礎



[注] (1) 計算によらない場合である。

(2) ( ) 内は仕上げがある場合。

(3) 土に接する部分のかぶりは、増加する厚さを打ち増しとする。

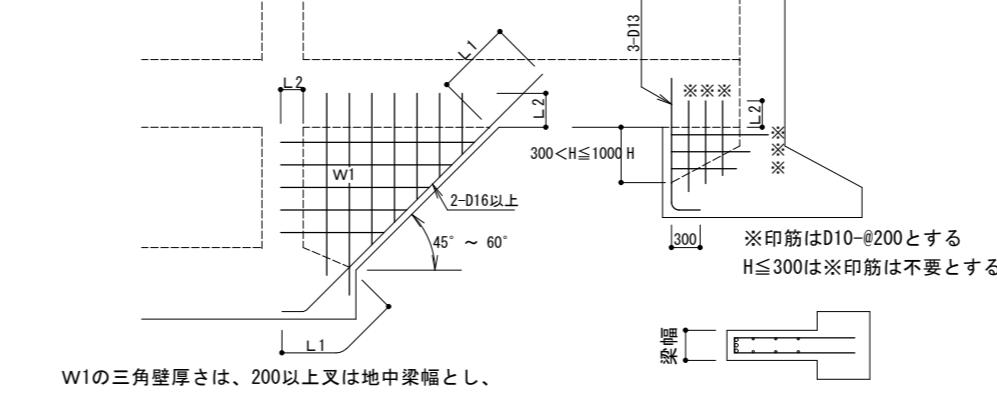
かぶり厚さ

### (3) べた基礎

#### ハンチを付けた場合(a≥3)

1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう  
但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を70とする

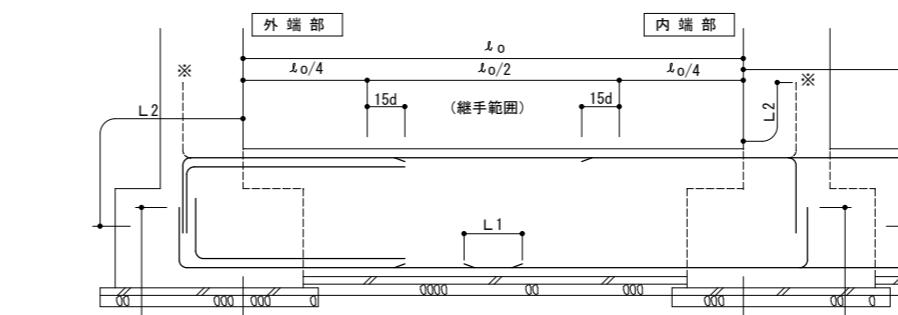
### (4) 基礎接合部の補強



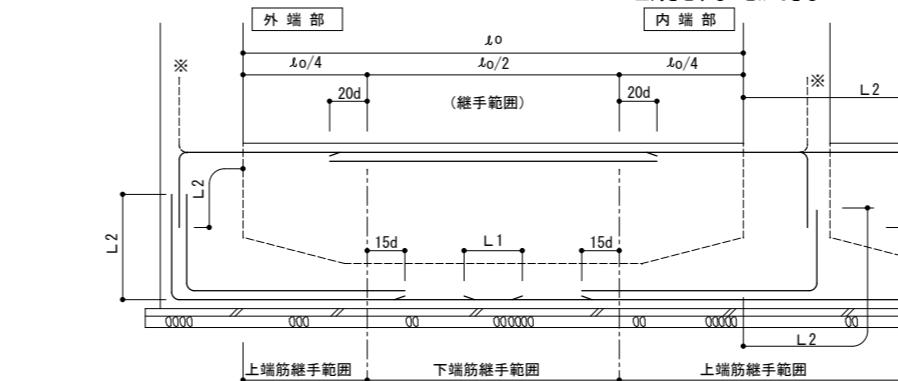
## 5. 地中梁

### (1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)

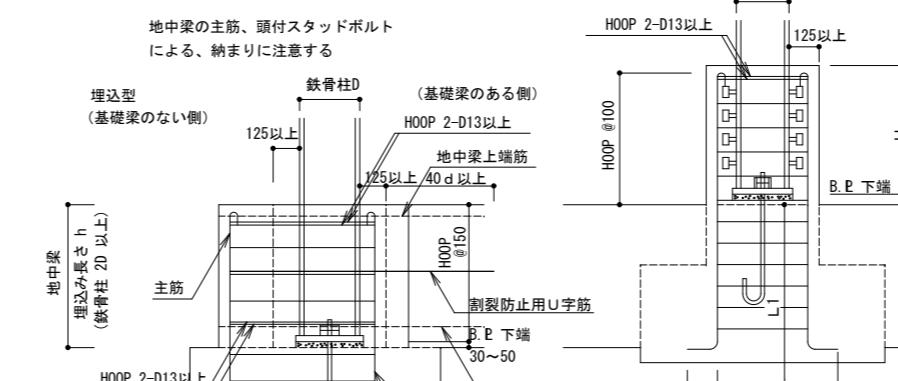
(長期荷重が支配的な場合の継手は7. (2) 大梁継手位置とする。)



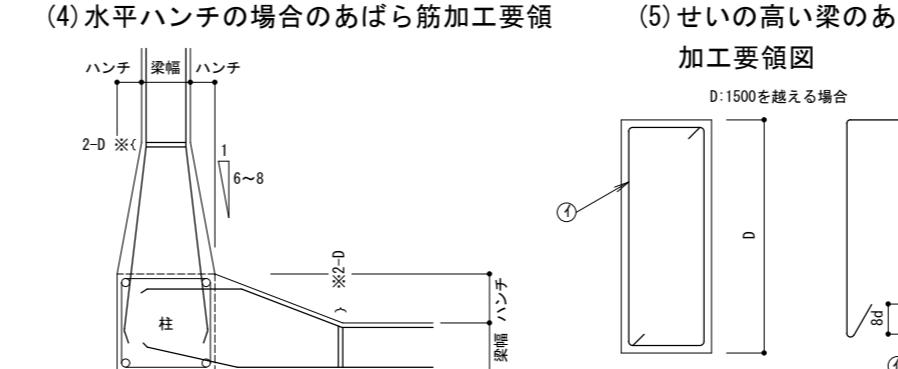
### (2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



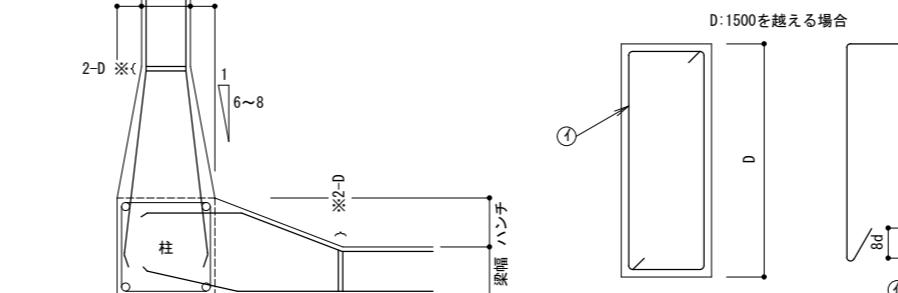
### (3) 小規模鉄骨造の柱脚固定配筋



### (4) 水平ハンチの場合のあら筋加工要領



### (5) セイの高い梁のあら筋加工要領



※一般的なあら筋の同様のものを2本束ねる

※一般的なあら筋の同様のものを2本束ねる

※一般的なあら筋の同様のものを2本束ねる

※一般的なあら筋の同様のものを2本束ねる

※一般的なあら筋の同様のものを2本束ねる

※一般的なあら筋の同様のものを2本束ねる

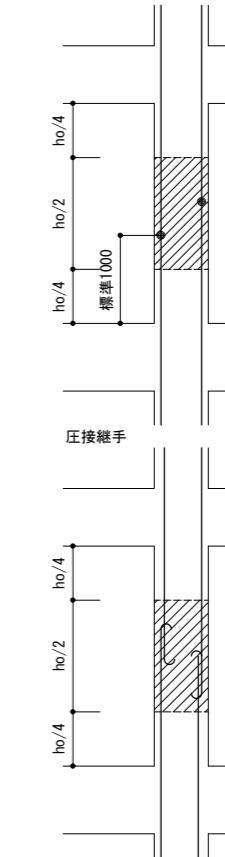
※一般的なあら筋の同様のものを2本束ねる

※一般的なあら筋の同様のものを2本束ねる

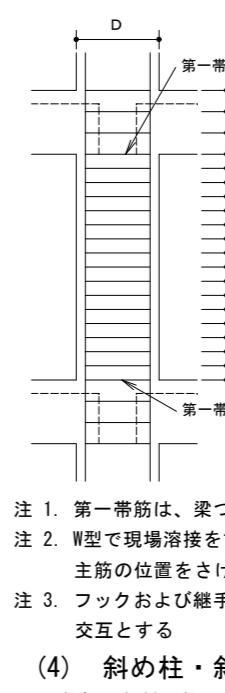
※一般的なあら筋の同様のものを2本束ねる

## 6. 柱

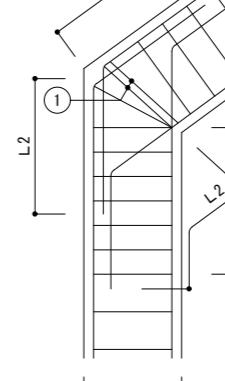
### (1) 柱主筋の継手



### (2) 柱主筋の定着



### (3) 斜め柱・斜め梁



### (4) 二段筋の保持



構造設計担当 工事名称

設計室

1級建築士 宮原仁

大田登録 第282500号

構造設計一級建築士 交付番号 第6894号

No.

S-O-2

承認 設計 担当

縮尺 No Scale

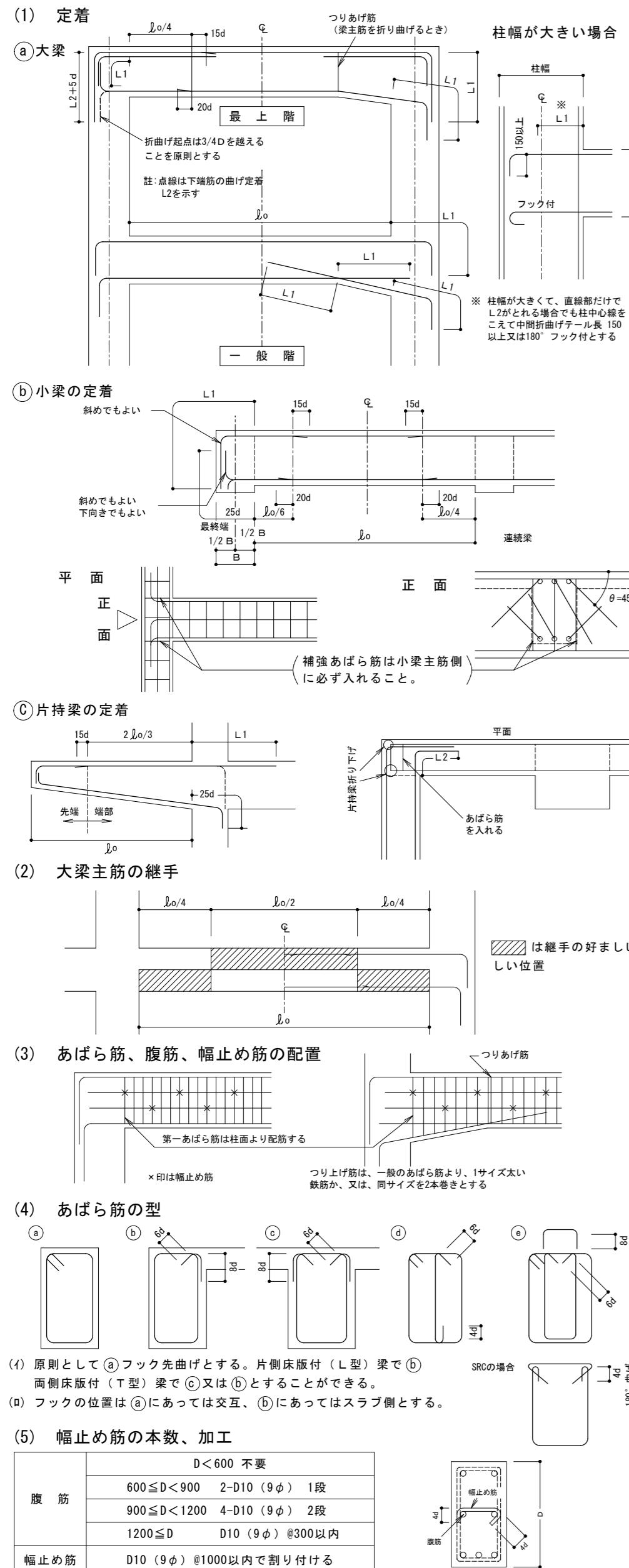
設計年月日

工事名称 旭分団詰所建設工事

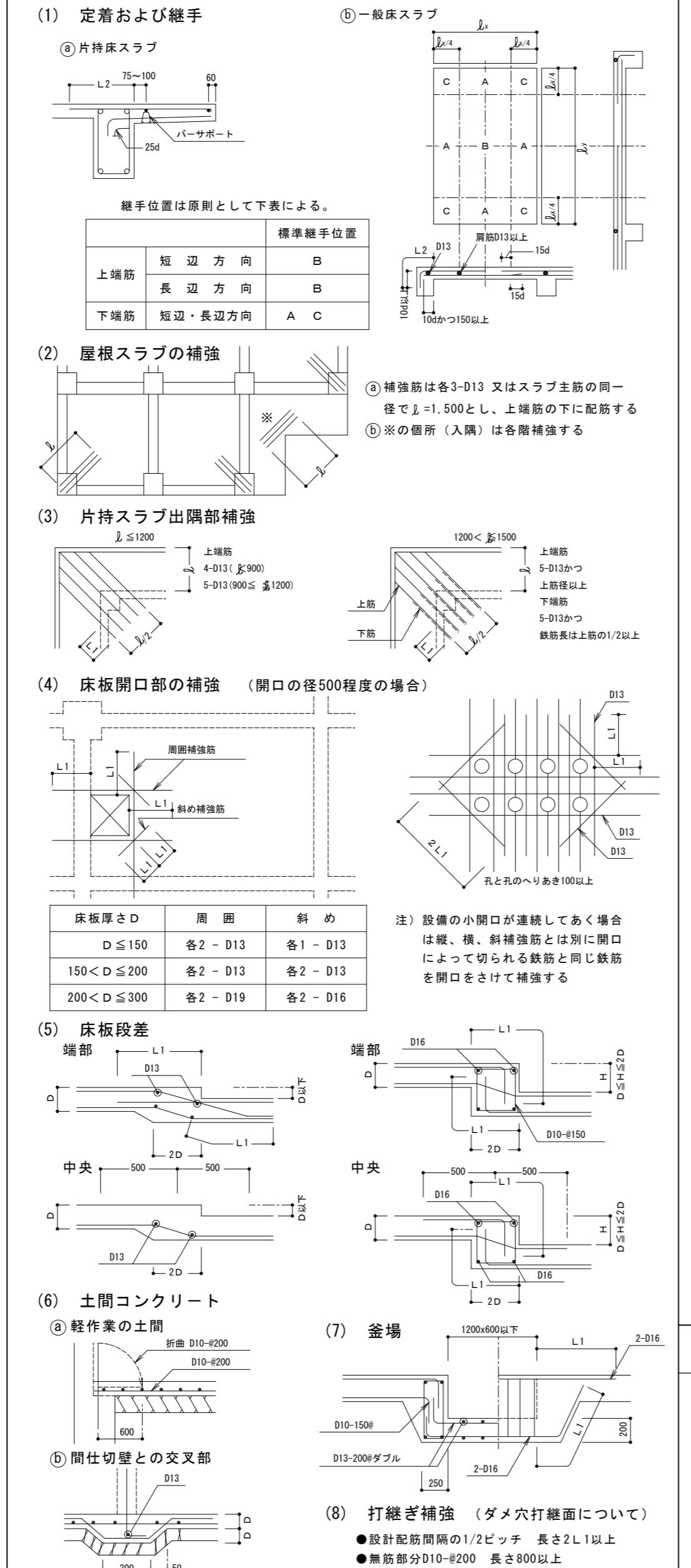
図面名称 鉄筋コンクリート構造標準図(1)

# 鉄筋コンクリート構造標準図 (2)

## 7. 大梁、小梁、片持梁

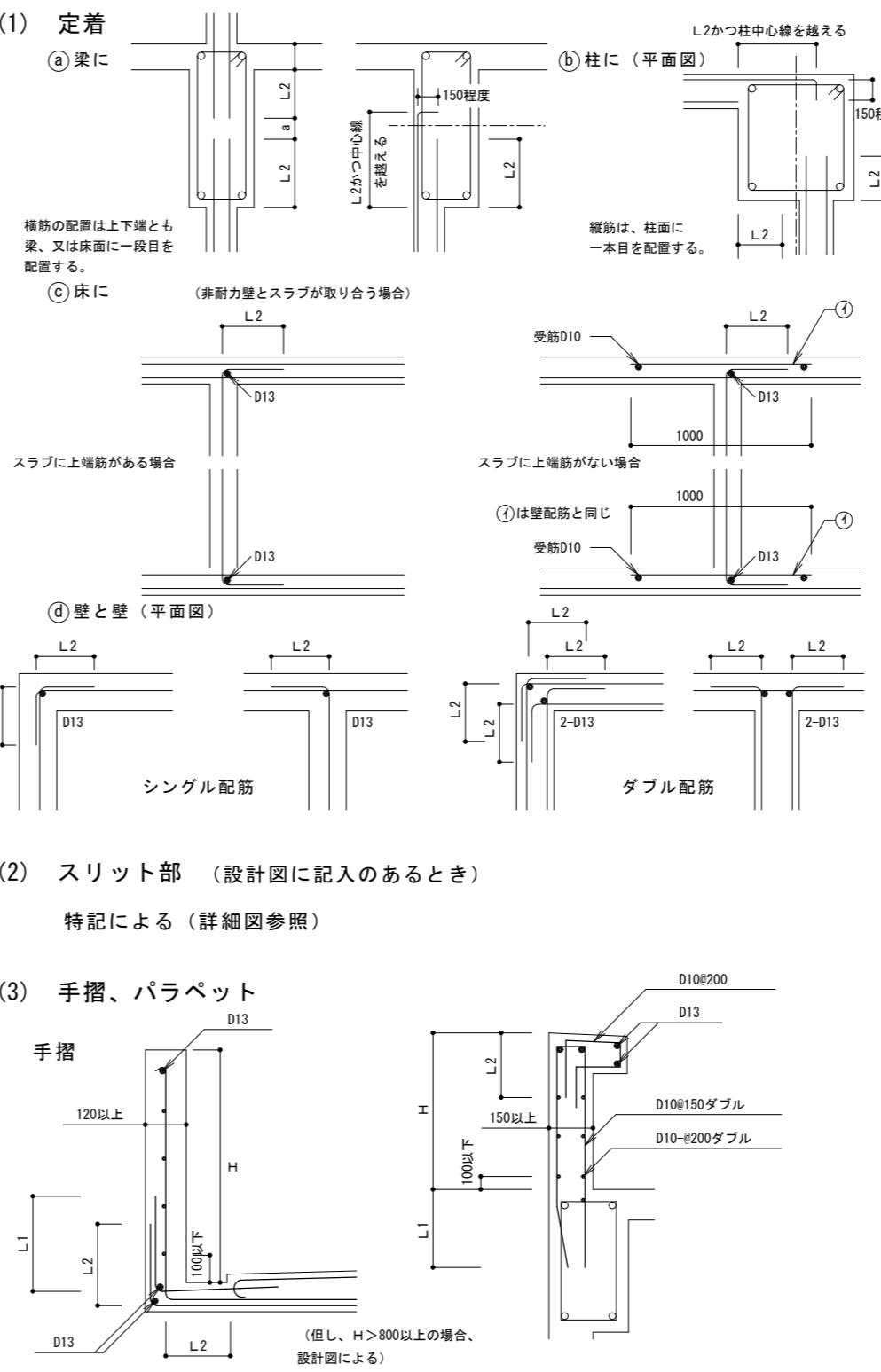


## 8. 床版

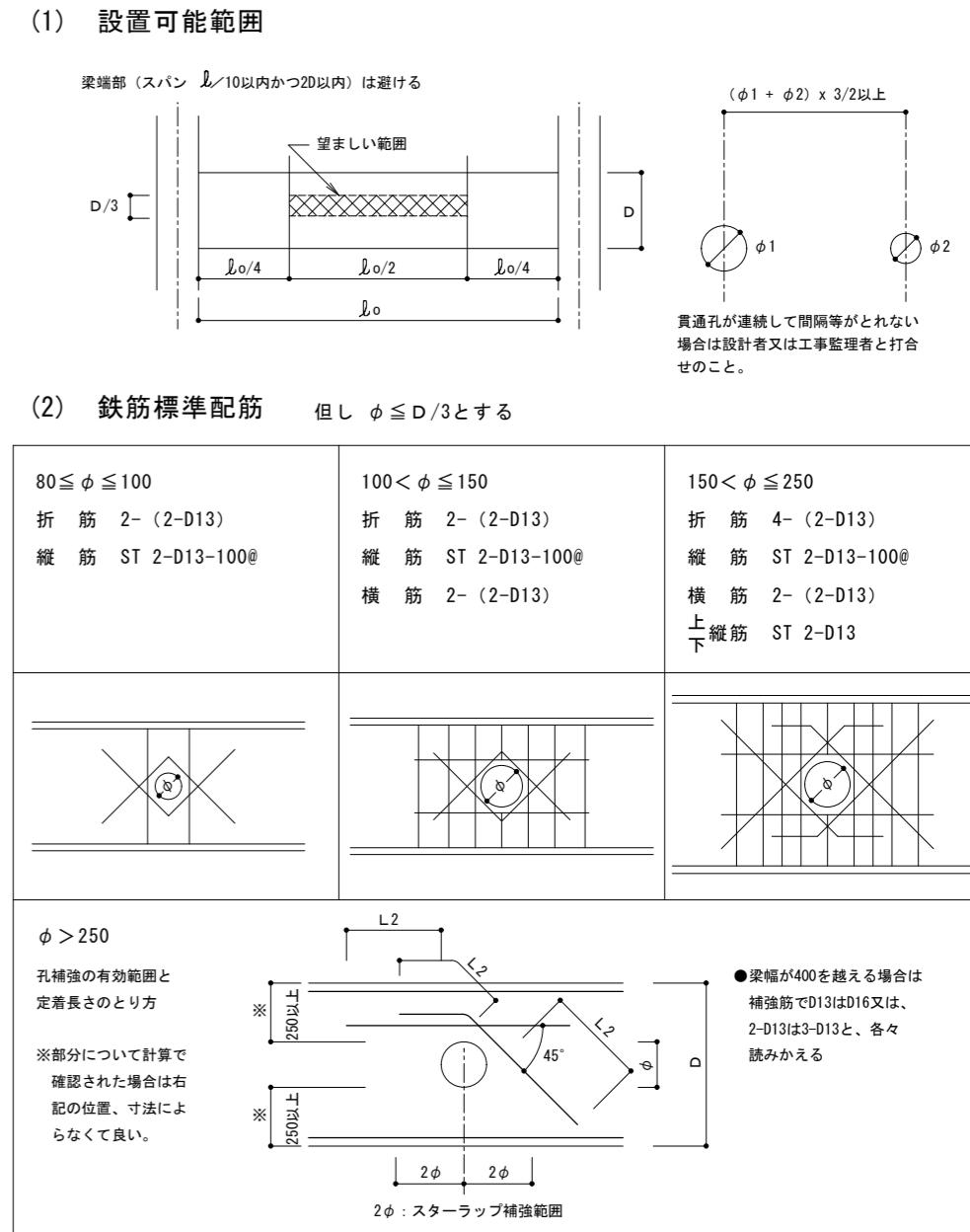


L = 鉄筋コンクリート構造配筋  
標準図(1)の2-(3)による。

## 9. 壁

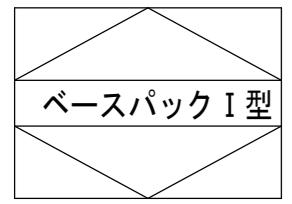


## 11. 梁貫通孔補強









## 角形鋼管

F値295N/mm<sup>2</sup>以下

□-150×150 ~ □-300×300 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-18」(令和4年11月17日付)

## ベースパック柱脚工法 設計施工標準図

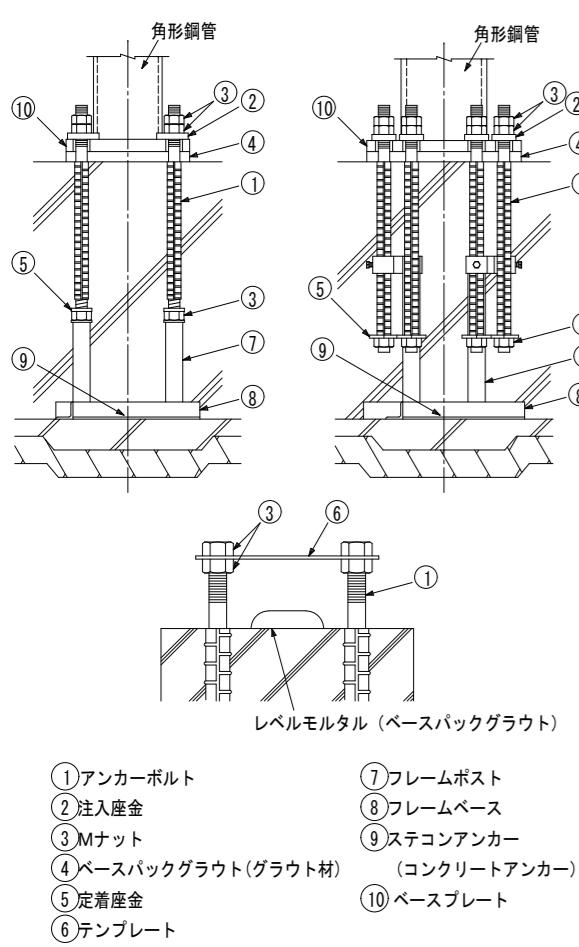
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社

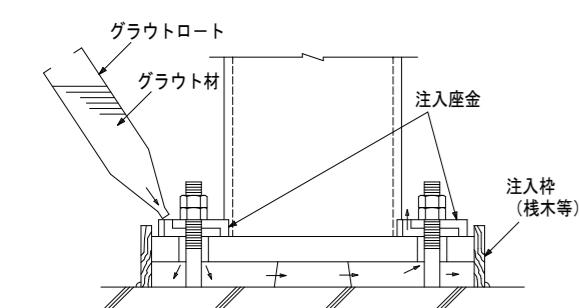
旭化成建材株式会社

## 1. 工法概要

## 1.1 構成部材

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。  
(注)上記⑥～⑨は現場状況により仕様が異なる場合がある。

## 1.2 柱脚の定着方法概要



## 2. 柱

F値(N/mm <sup>2</sup> )	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
	BCR295	○
295	TSC295	

採用 ベースパック 記号	柱 外径 (mm)	板厚 (mm)	材質	形状	ベースプレート					アンカーボルト		コンクリート柱型		フレームベース		フレームボスト間		最低h寸法		J寸法				
					a	t	l1	l2	l3	d	寸法(mm)	本数・呼び	基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	寸法D(mm)	配筋	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	寸法W(mm)	寸法X(mm)	標準フレーム	特C	標準フレーム	特C	標準値	許容差
15-12V	□-150×150	t≤12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21以上	250	-	150	-	550	135
17-12V	□-175×175	t≤12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13@100	21以上	280	-	180	-	600	135
20-09V	□-200×200	t≤9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
○ 20-12V	□-200×200	t≤12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
25-09V	□-250×250	t≤9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13@100	21以上	360	-	260	-	650	150
25-12V	□-250×250	t≤12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13@100	21以上	370	-	270	-	650	150
25-16V	□-250×250	t≤16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
30-09V	□-300×300	t≤9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13@100	21以上	420	-	320	-	650	150
30-12V	□-300×300	t≤12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
30-16V	□-300×300	t≤16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
30-19V	□-300×300	t≤19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

## 3. 構成部材・寸法

## 3.1 ベースプレート

●材質 SN490B [JIS G 3136]

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

iii) 特Cタイプ

iv) 特Cタイプ

v) 特Cタイプ

vi) 特Cタイプ

vii) 特Cタイプ

viii) 特Cタイプ

ix) 特Cタイプ

x) 特Cタイプ

xi) 特Cタイプ

xii) 特Cタイプ

xiii) 特Cタイプ

xiv) 特Cタイプ

xv) 特Cタイプ

xvi) 特Cタイプ

xvii) 特Cタイプ

xviii) 特Cタイプ

xix) 特Cタイプ

xx) 特Cタイプ

xxi) 特Cタイプ

xxii) 特Cタイプ

xxiii) 特Cタイプ

xxiv) 特Cタイプ

xxv) 特Cタイプ

xxvi) 特Cタイプ

xxvii) 特Cタイプ

xxviii) 特Cタイプ

xxix) 特Cタイプ

xxx) 特Cタイプ

xxxi) 特Cタイプ

xxxii) 特Cタイプ

xxxiii) 特Cタイプ

xxxiv) 特Cタイプ

xxxv) 特Cタイプ

xxxvi) 特Cタイプ

xxxvii) 特Cタイプ

xxxviii) 特Cタイプ

xxxix) 特Cタイプ

xl) 特Cタイプ

xli) 特Cタイプ

xlii) 特Cタイプ

xliii) 特Cタイプ

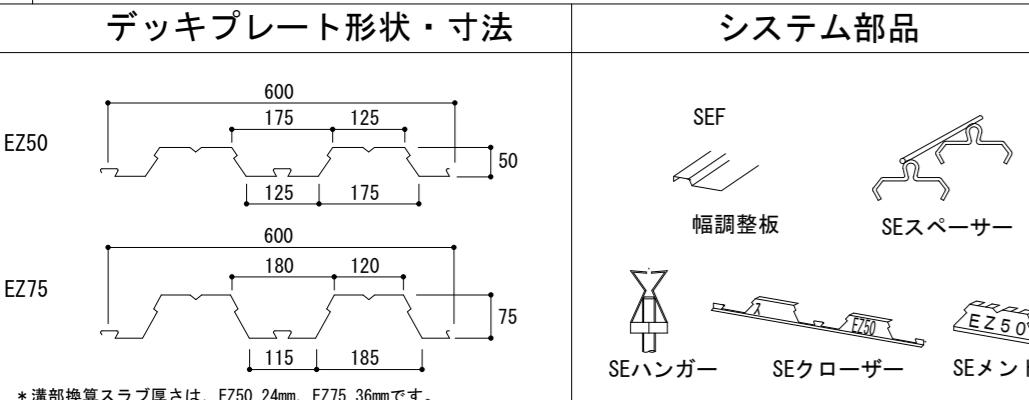
xlii) 特Cタイプ

xliii) 特Cタイプ

## 1. 設計

	品名	EZ50	EZ75
● デッキプレート	板厚および表面処理	板厚 (mm)	表面処理
		SDP1T	仕様
	*1 JIS G3352	なし	*
	*2 JIS K5621(2008)	塗装	SDP2G
	4種の防錆性を有した塗料	めっき	Z12 Z27 [ ]
● コンクリート	種類	普通	軽量1種 軽量2種
	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	18	21 24
	デッキ山厚さ (mm)	70 80 90	100 [ 50 ]
● 溶接金網または異形鉄筋	溶接金網 (JIS G3551)	φ6-150 φ6-100 [ ]	
	異形鉄筋 (JIS G3112, 3117)	D10-200 [ ]	
□ スーパーEデッキ用システム部品	SEスペーサー SEハンガー		
□ デッキプレート端部仕様	エンドクローズ 小ロフサギ		
● 梁との接合形式	頭付きスタッド	径、長さ、ピッチは構造図による。梁とデッキとの接合はアーチスポット溶接等による。(焼抜き栓溶接は不要)	
	焼抜き栓溶接	SPW : 標準溶接径18mm以上 ※溶接位置等は特記による。	
	びょう打ち	接合位置は特記による。構造認定を受けた発射打込みようを使用すること。	
□ e-works+開口緩和 (EZ50) BCJ評定-ST0076-00	※詳細は6. e-works+開口緩和 (EZ50) 参照		

## デッキプレート形状・寸法

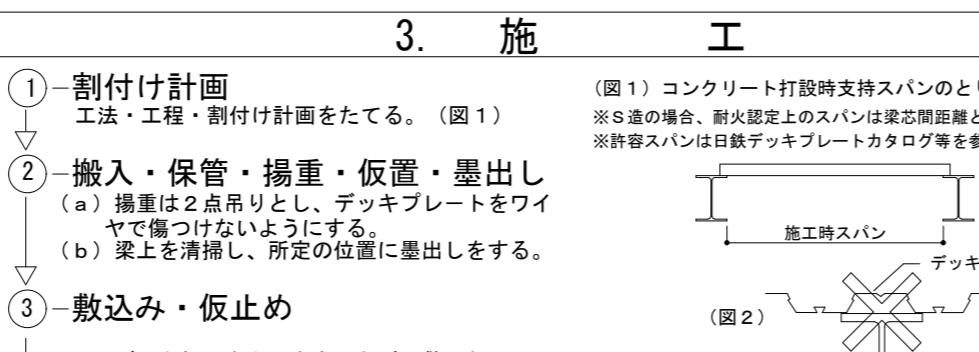
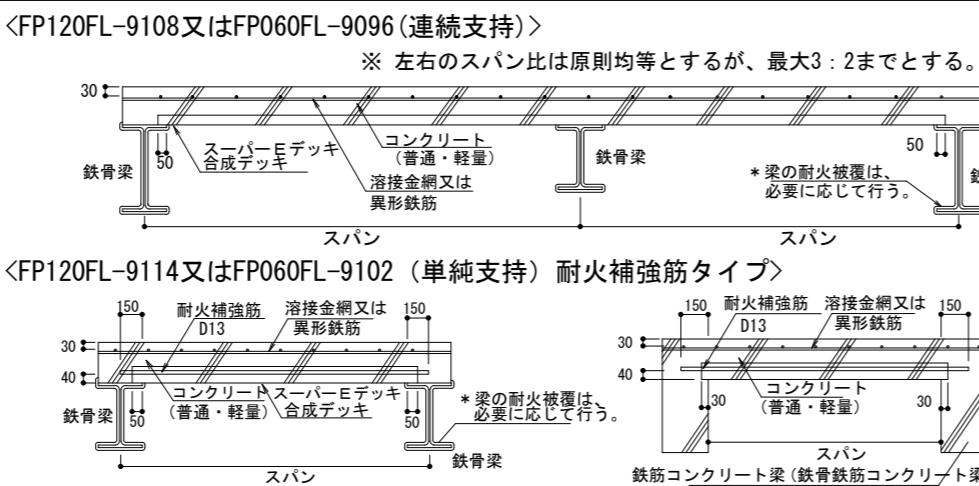


## 2. 耐火設計

● 耐火構造仕様(詳細は下記の通り)	● 耐火要求なし
認定条件	
耐火区分	認定番号
	使用条件
支持条件	許容スパン <sup>3</sup> (m) 許容荷重 <sup>4</sup> (kN/m <sup>2</sup> )
	品名 コンクリート厚さ (mm) ひび割れ拡大防止筋
	S造 RC造 SRC造

□ 床2時間	FP120FL-9108	連続支持	2.7 以下 <式1>	EZ50	普通95以上 軽量85以上	φ6-100 または D10-200	○ -
			3.4 以下 <式2>	EZ75	普通90以上 軽量85以上	φ6-100 または D10-200	○ -
FP120FL-9114	単純支持	3.6 以下 5.4	EZ50	普通95以上 軽量90以上	φ6-100 または D10-200	○ -	○ -
		2.7 以下 <式1>	EZ50	普通95以上 軽量85以上	φ6-100 または D10-200	○ -	○ -
FP060FL-9096	連続支持	3.4 以下 <式2>	EZ75	普通90以上 軽量85以上	φ6-100 または D10-200	1.2~1.6	打込みよう 4,000 5,300
		3.0 以下 <式1>	EZ50	普通80以上 軽量80以上	φ6-150 または D10-200	○ -	
FP060FL-9102	単純支持	3.4 以下 <式2>	EZ75	普通80以上 軽量80以上	φ6-100 または D10-200	1.2~1.6	打込みよう 4,000 5,300
		2.7 以下 <式1>	EZ50	普通80以上 軽量80以上	φ6-150 または D10-200	○ -	
式1) W = 5.4 × (2.7/L) <sup>2</sup> 式2) W = 5.4 × (3.4/L) <sup>2</sup>	(注) 式中の「W」は許容荷重(kN/m <sup>2</sup> )、「L」は支持長さ(m)を表す。 また、Wが9.8を超える場合は9.8とする。						

※注意 \*3 許容スパンは、鉄骨梁で支持する場合はその芯間距離とし、RC梁で支持する場合は梁の内寸法とする。本表の許容スパンは耐火認定の条件であるので、別途施工時の許容スパンを確認すること。  
\*4 許容荷重は、全荷重(固定荷重+積載荷重)からスラブ自重を差引いた数値である。  
\*5 鉄筋比は0.0~2%以上としなければならないので、同時に打ちでラブ増打ちをする場合は注意すること。  
\*6 デッキプレートの梁へのみ込み代を30mm以上とすること。端部補筋(D13以上、L=1m)を梁への定着長150mmで配すること。ただし、耐火補強筋(4#参考)を用いる場合に端部補筋は不要。  
\*7 スパンが3~4mを超える場合に梁の接合を頭付きスタッド(径16mm以上、ピッチ300mm以下)を使用すること。  
\*8 耐火補強筋(D13)をデッキプレートの各溝中に取り付けること。  
\*9 この構造条件に適合しない場合はFP060FL-9128あるいはFP120FL-9129(受け付けローカル被覆耐火構造)を適用すること。



## 3. 施工

## 1. 割付け計画

工法・工程・割付け計画をたてる。(図1)

## 2. 搬入・保管・揚重・仮置・墨出し

(a) 扬重は2点吊りとし、デッキプレートをワイヤで傷つけないようにする。

(b) 梁上を清掃し、所定の位置に墨出しをする。

## 3. 敷込み・仮止め

(a) デッキ相互をカン合せながら敷込む(接合部で幅調整をすればならない)。

(b) 幅方向の調整は、幅調整板(フラッシング)を用いる。

(c) デッキプレートと大梁との接合ができるように、デッキプレート山部が梁上にこないように納める。

## 4. デッキプレートと梁との接合

(a) 敷込み完了後風等で飛ばないように、デッキと梁とをアーチスポット接合等で接合する。

(b) 頭付きスタッドの施工はJASS6による。

(c) 焼抜き栓溶接の施工位置は特記による。特に指定がない場合には、図3の要領で行う。

(d) 施工者は焼抜き栓溶接講習会を受講した方が望ましい。

(e) 発射打込みようの施工は発射打込みようメーカーの施工要領による。施工位置は特記による。

※構造認定を受けた発射打込みようメーカー：日本ヒルティ(株), 日本パワーファスニング(株)

(f) デッキプレート幅方向

特記無し限り下記とする。□特記は括弧内に記す。

溶接ビッチ(P) : 特記無し限り600mm以下とする。

(g) 焼抜き栓溶接1箇所当り短期せん断耐力

(単位:N) SPW 7,350 11,025

(h) 発射打込みよう1箇所当り短期せん断耐力

(単位:N) デッキ板厚 1.2mm 1.6mm

打込みよう 4,000 5,300

## 5. 小口ふさぎ・コンクリート止め

小口ふさぎはデッキプレートの溝をふさがない独立したものを使用する。

(図4) 又は、エンドクローズ製品を用いる。

## 6. 開口部補強

開口部まわりは必ず鉄筋等で補強する。(5. 開口部補強を参照。)

## 7. 溶接金網又は異形鉄筋

(a) 規定のサイズを床全面に配筋する。(図5)

(b) かぶり厚さを確保するスベーサーを1m以内に設置する。

(c) 溶接金網の継手は(1メッシュ+50mm)以上重ねる。(図6)

(d) 異形鉄筋の継手はJASS5による。

## 8. コンクリート打設

(a) コンクリート打設前にデッキプレート面を充分清掃する。

(b) 単位水量の少ない、スランプの小さいコンクリートを入念に打設する。

## 9. 養生

(a) コンクリートの初期乾燥収縮を防ぐ為、温湿度養生する。

(b) コンクリートの強度がてまでは、床面に重量物を置いて振動を与えない。

## 4-1. 溶接金網又は異形鉄筋の納り(共通)

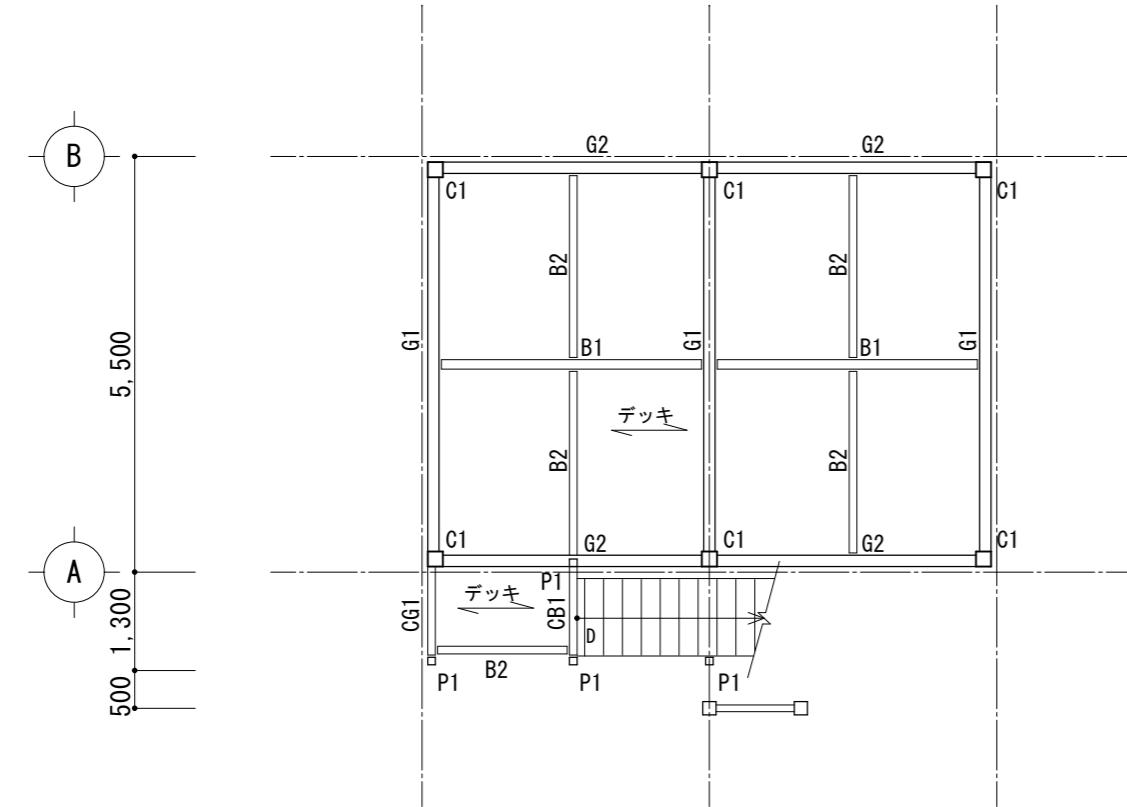
## &lt;溶接金網&gt;

重ね代寸法(溶接金網の横筋間の寸法)

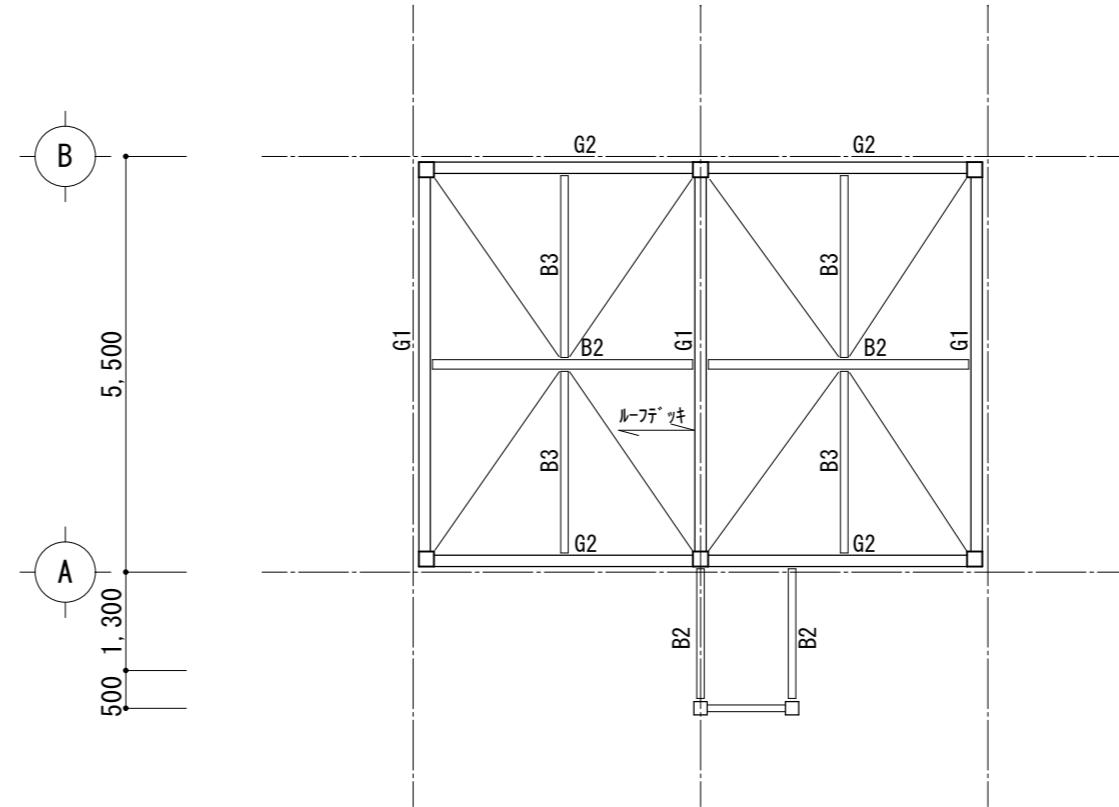
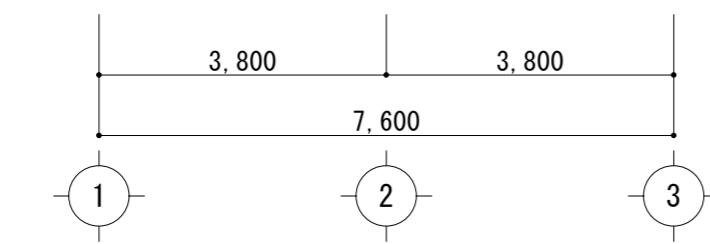
(150mm以上 200mm以上)

コンクリート

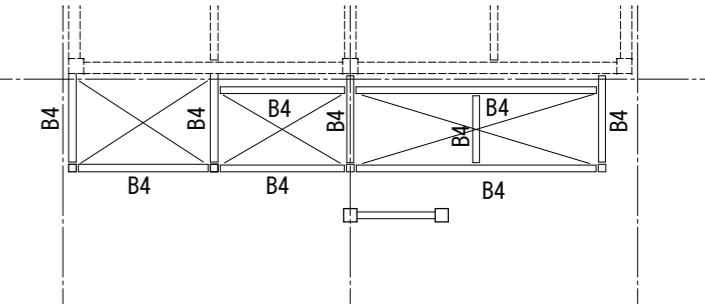
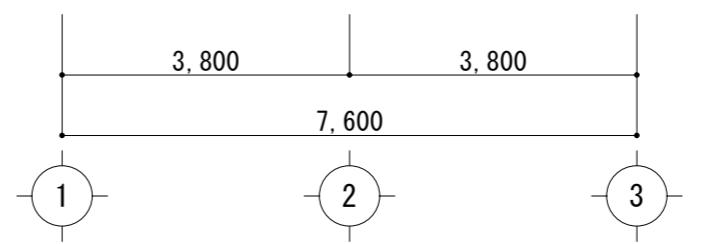
スパン



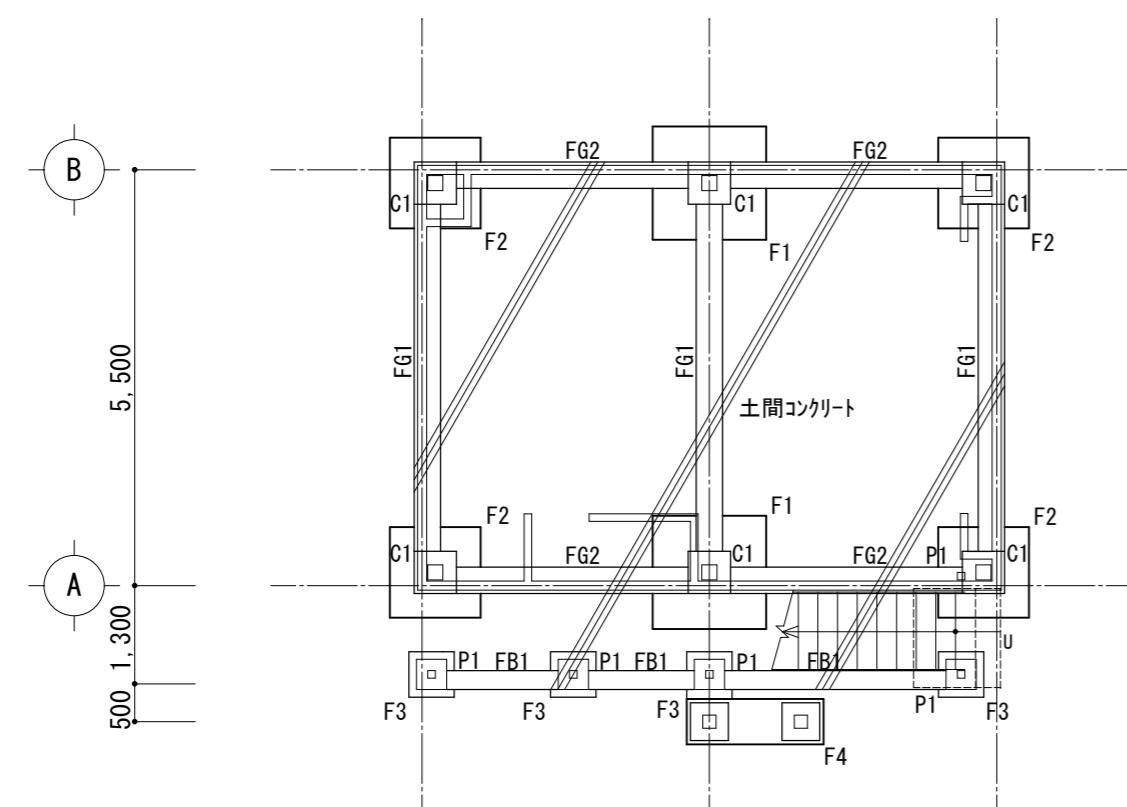
2階床梁伏図 S=1/100  
特記なき限り  
梁上端 2SL±0



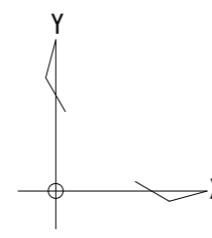
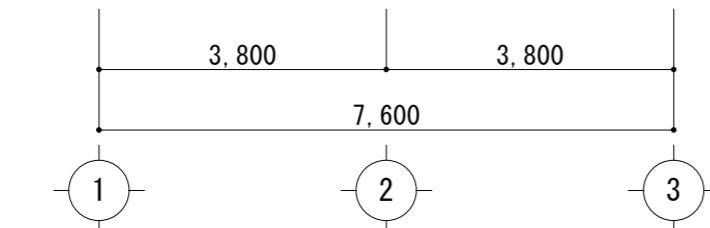
R階床梁伏図 S=1/100  
特記なき限り  
梁上端 RSL±0 (水下)  
アーレス M16



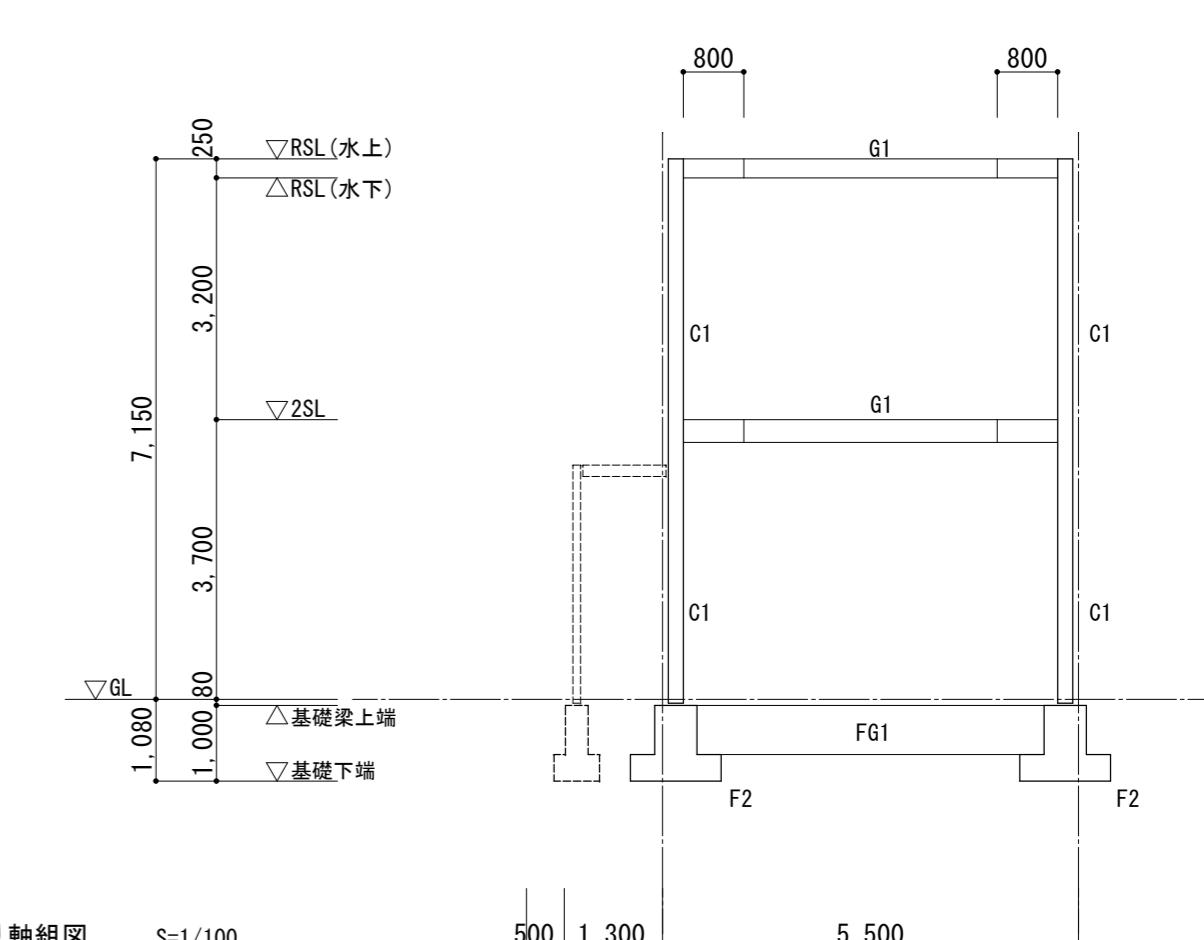
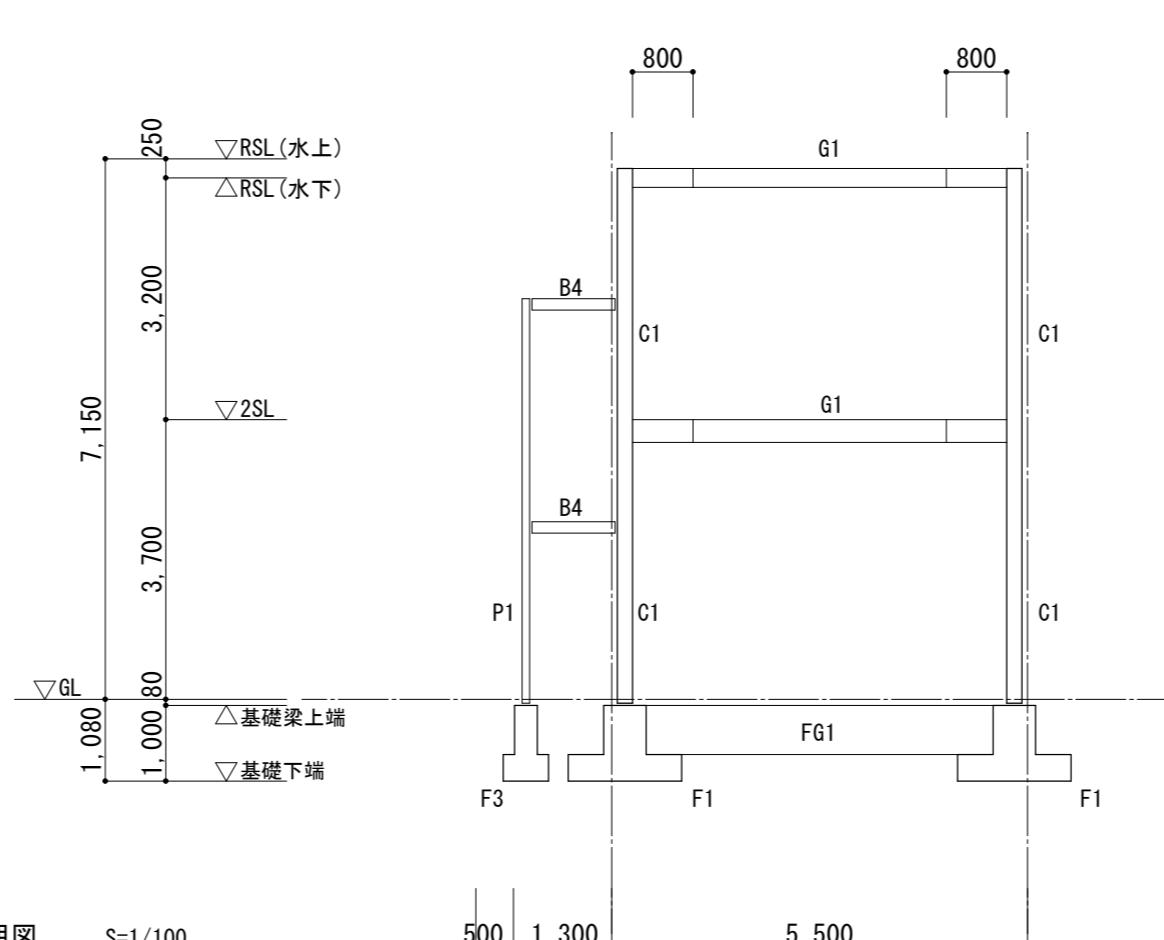
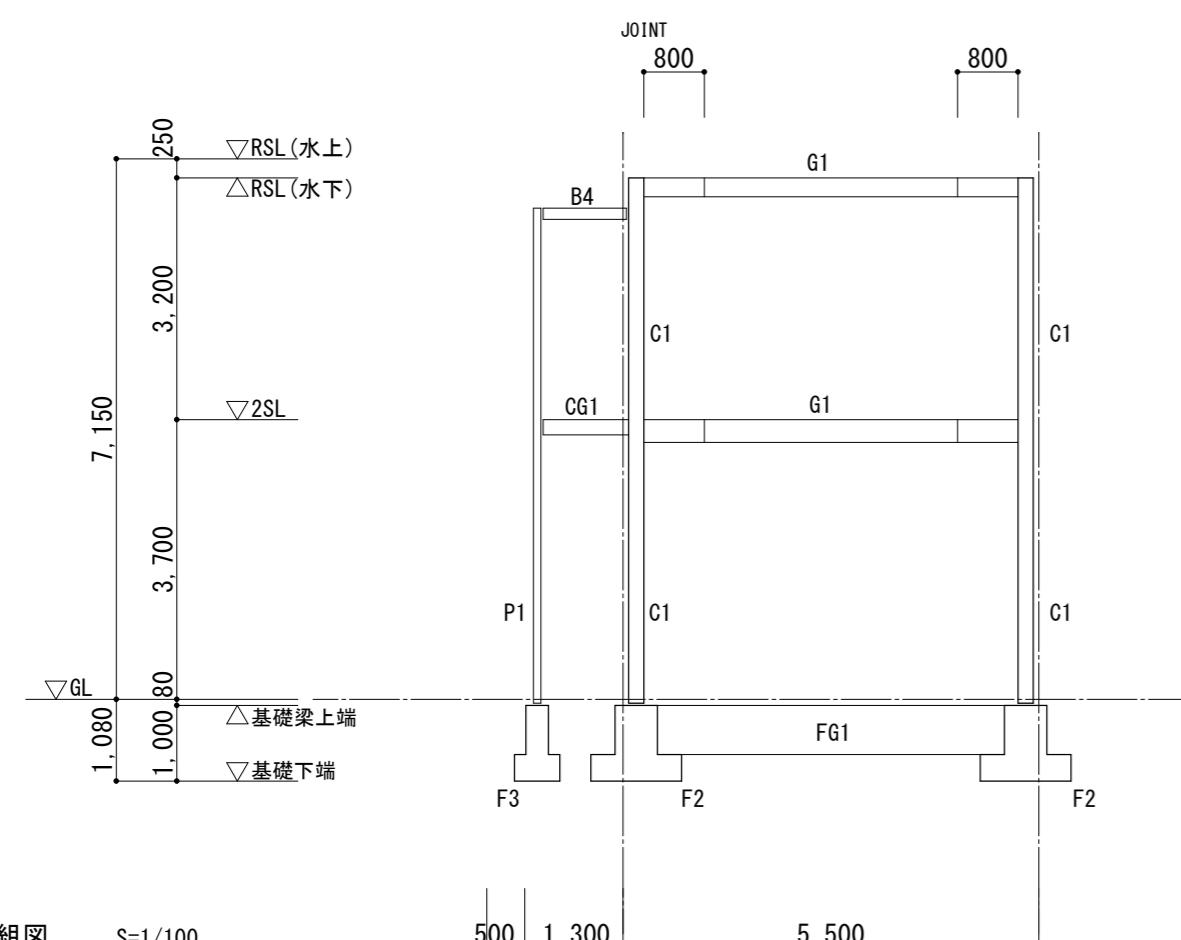
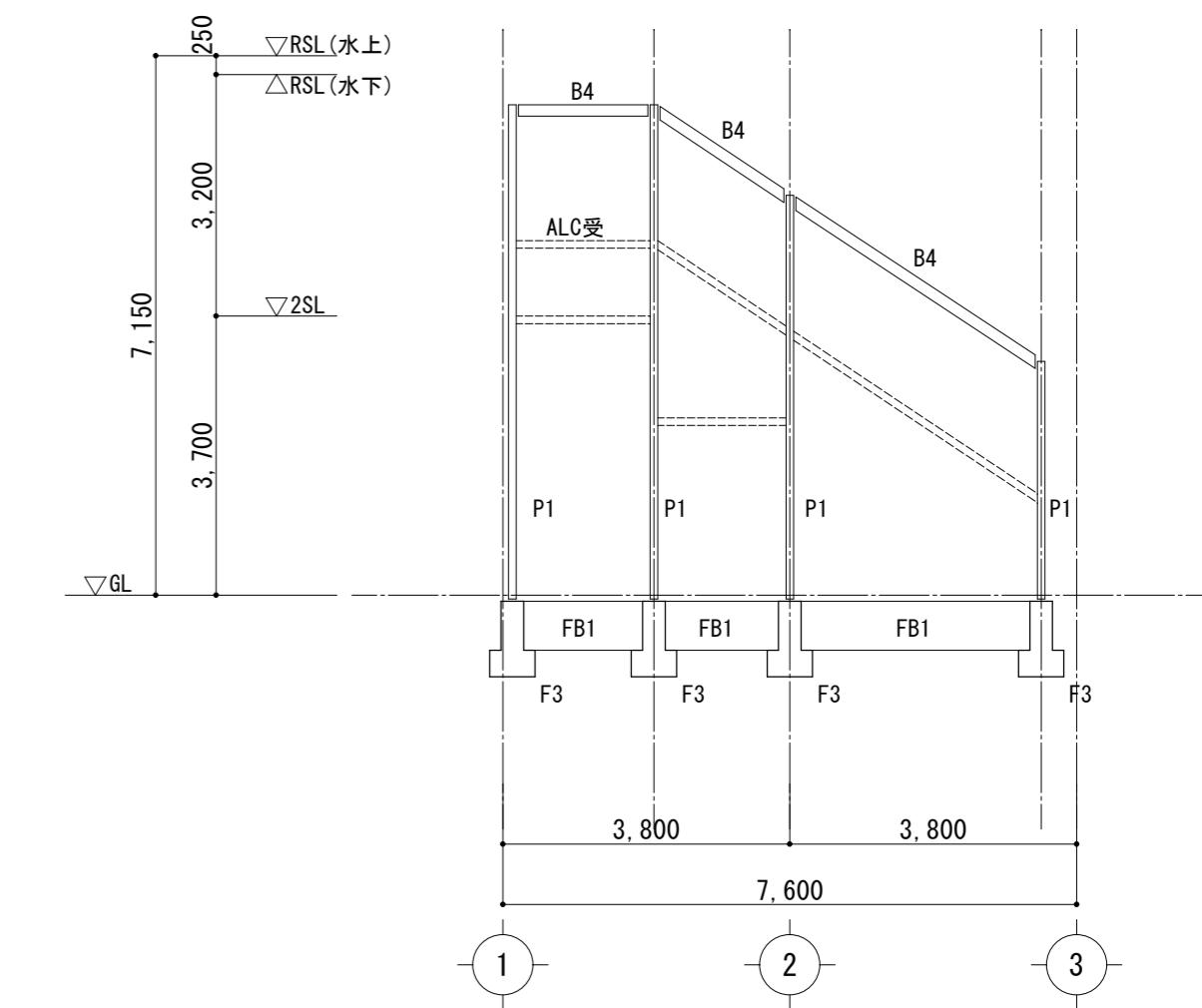
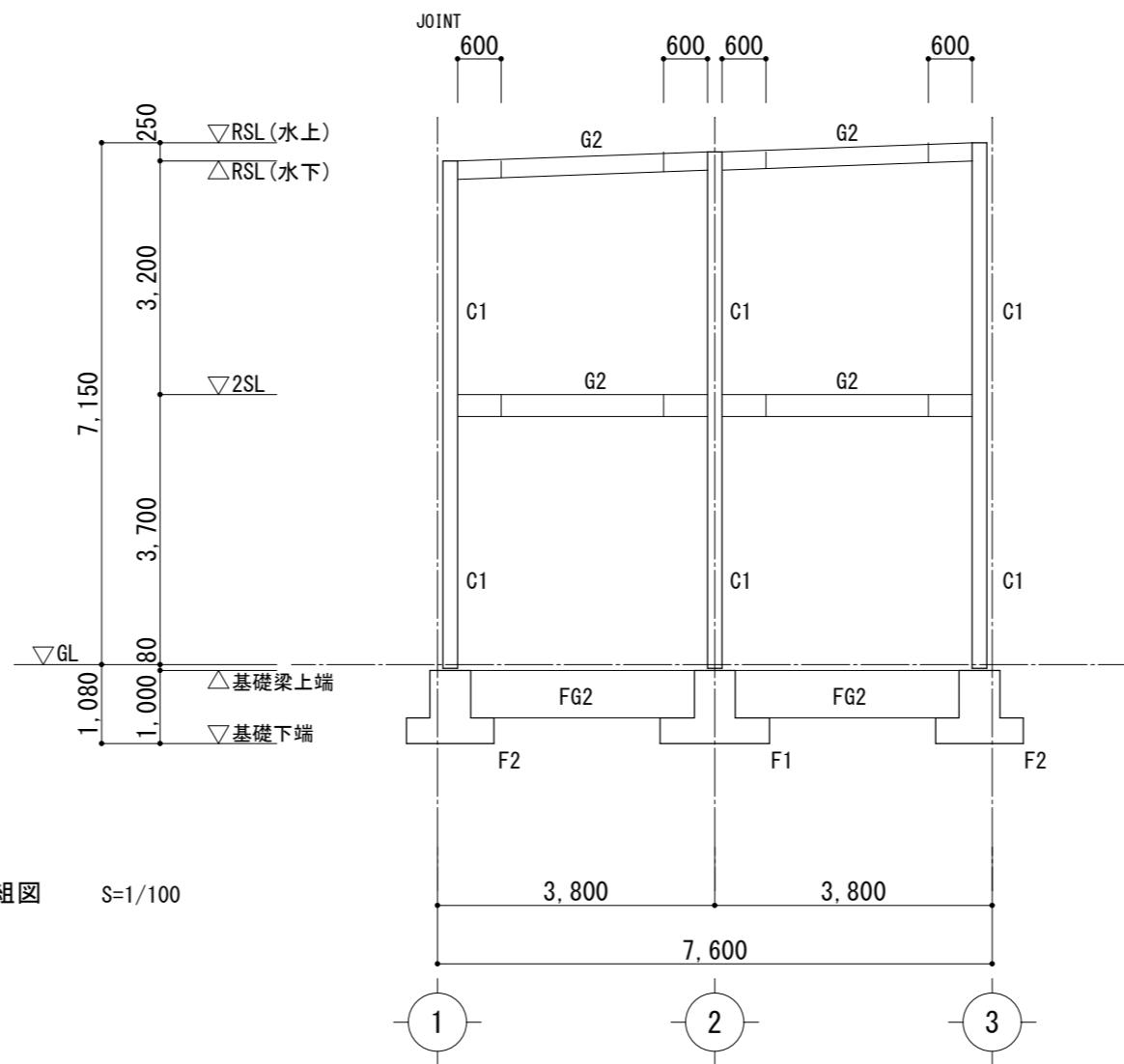
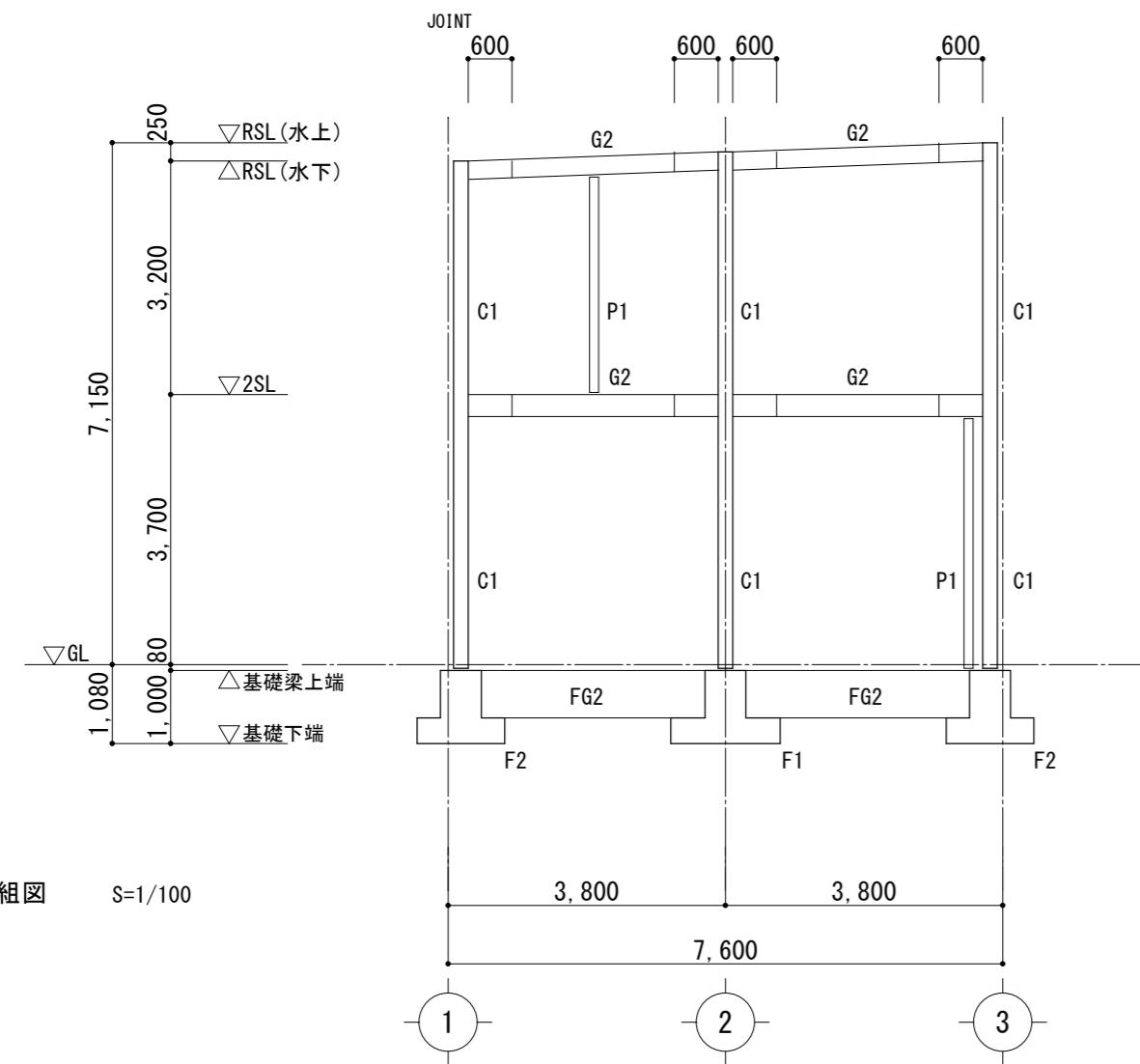
階段屋根伏図



基礎伏図 S=1/100  
特記なき限り  
基礎梁上端 GL-80  
基礎下端 GL-1,080  
土間コンクリート範囲及び高低差は意匠図参照

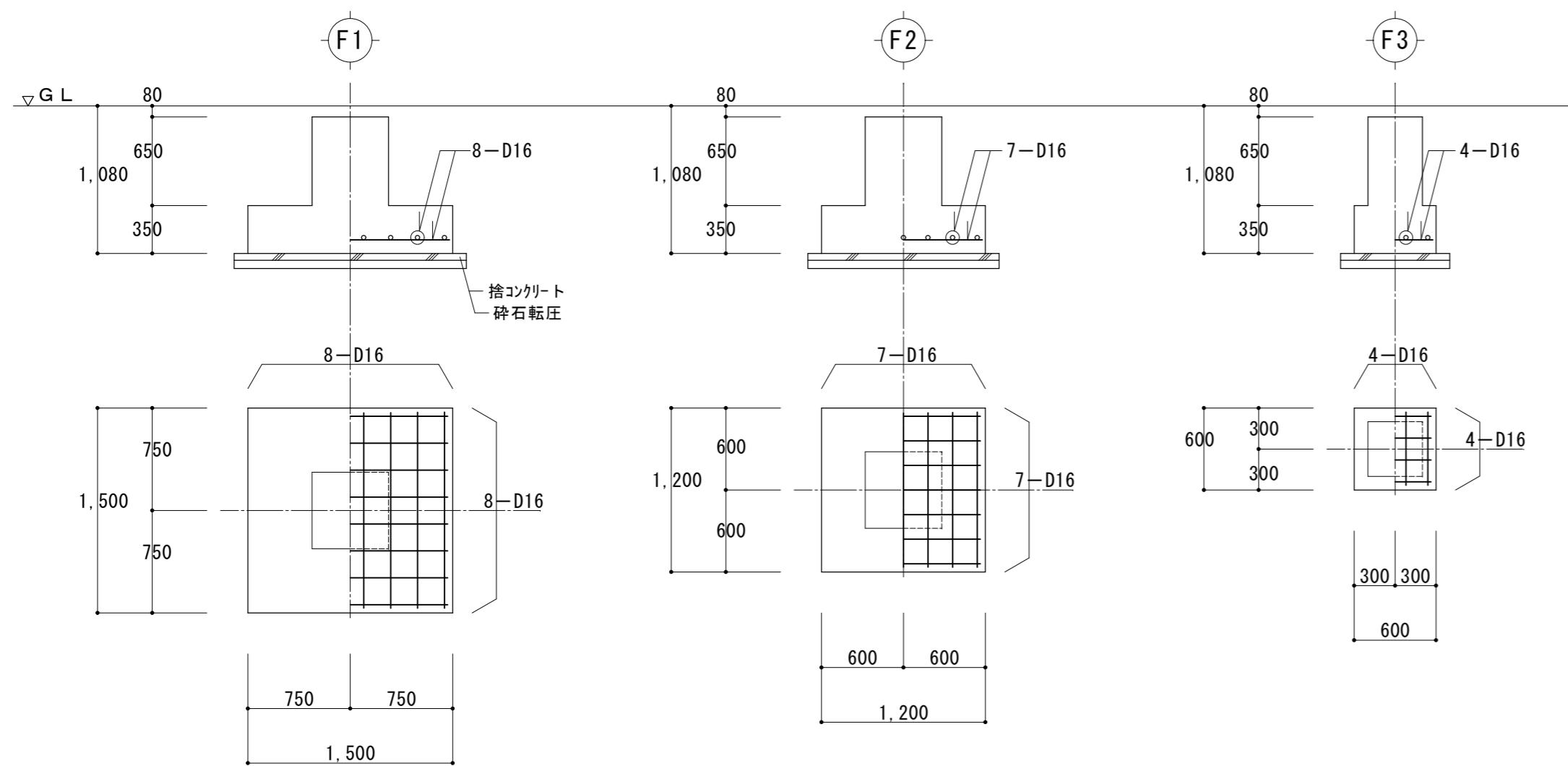


・構造設計担当：巧 設計室  
1級建築士 宮原 仁 大臣登録 第282500号  
構造設計一級建築士 交付番号 第6894号

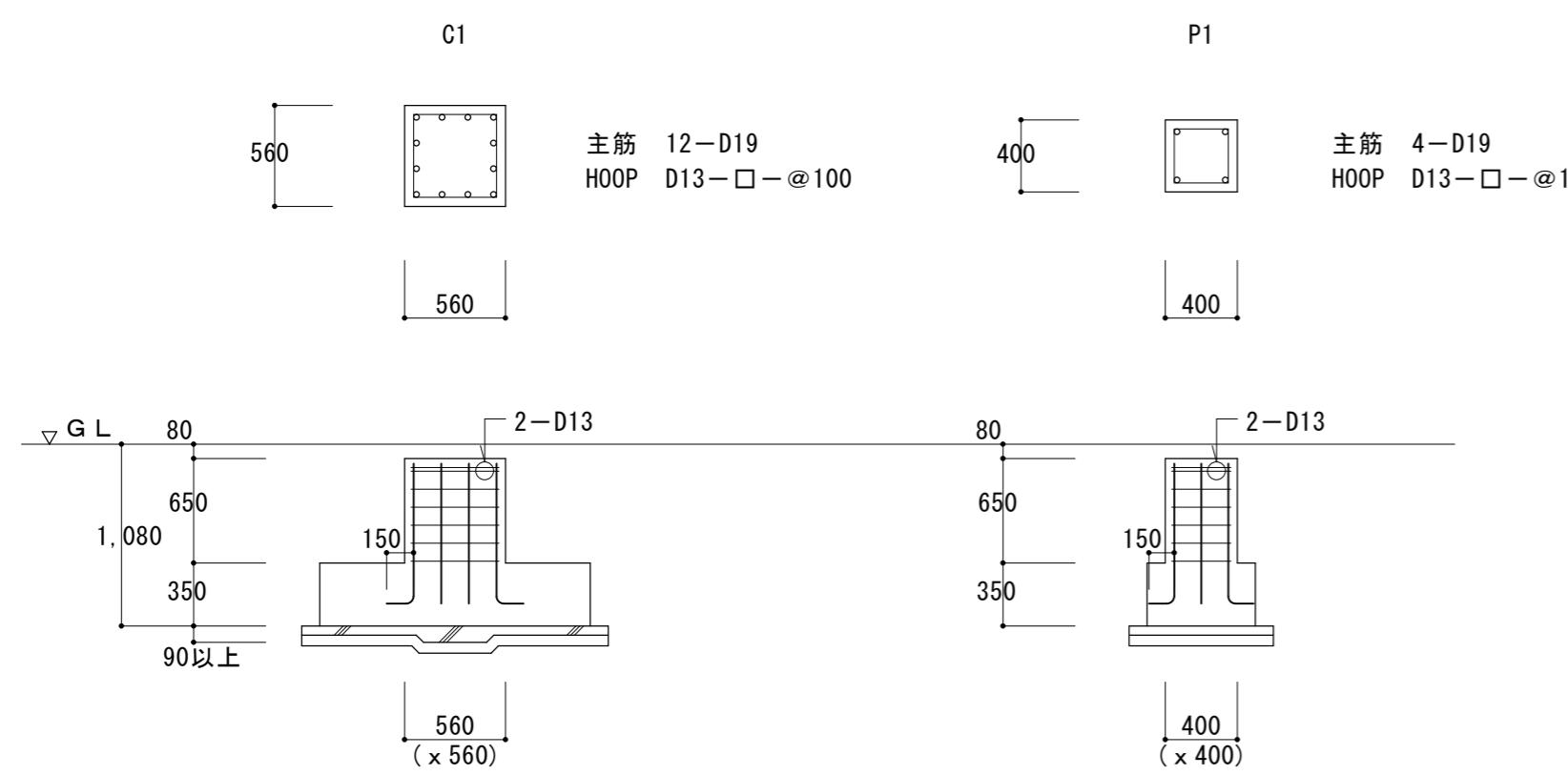


・構造設計担当：巧 設計室  
1級建築士 宮原 仁 大臣登録 第282500号  
構造設計一級建築士 交付番号 第6894号

基礎リスト S=1:40



コンクリート柱型配筋図

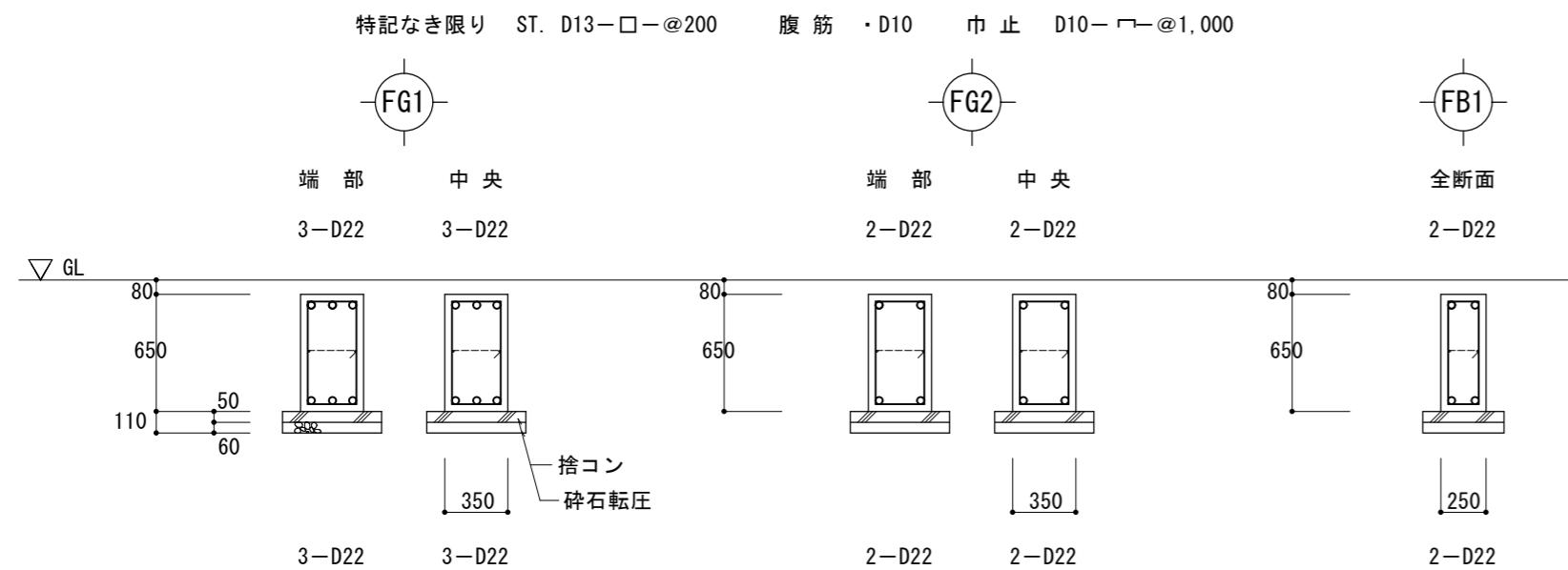


・構造設計担当：巧 設計室  
1級建築士 宮原 仁 大臣登録 第282500号  
構造設計一級建築士 交付番号 第 6894 号

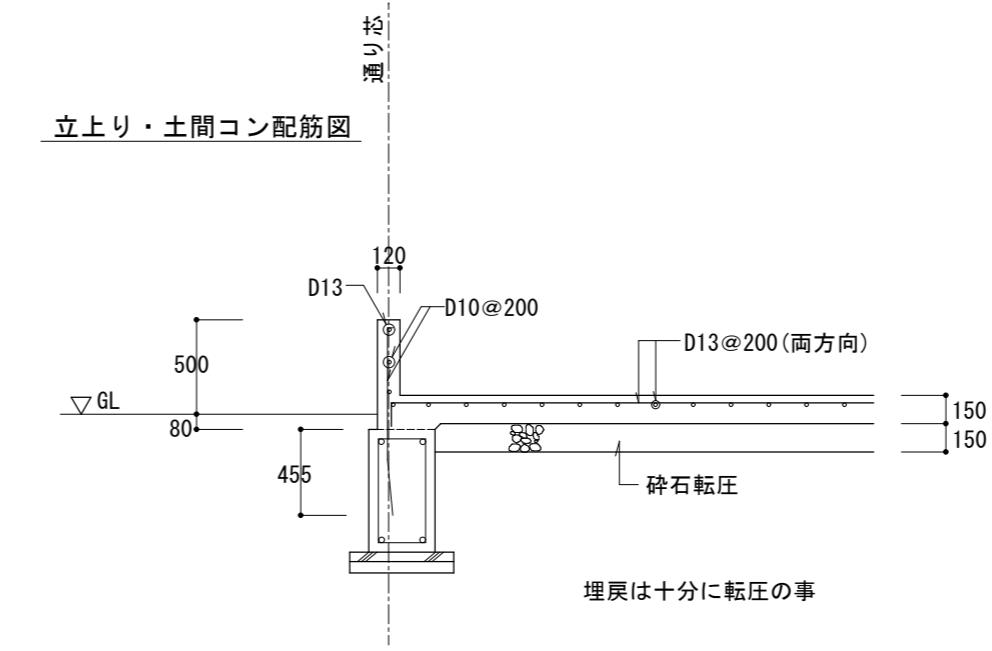
株式会社 進藤設計事務所

承認	設計	担当	縮尺	工事名称	旭分団詰所建設工事	No.
			A2-1:40	設計年月日		S-10
				図面名称	基礎リスト	

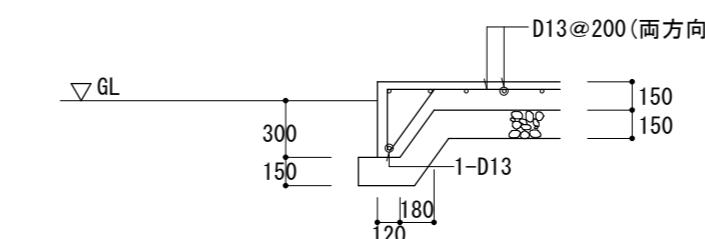
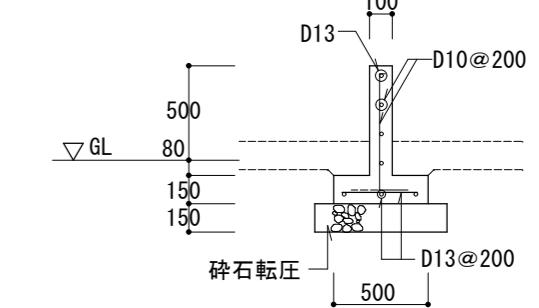
基礎梁リスト S=1:40



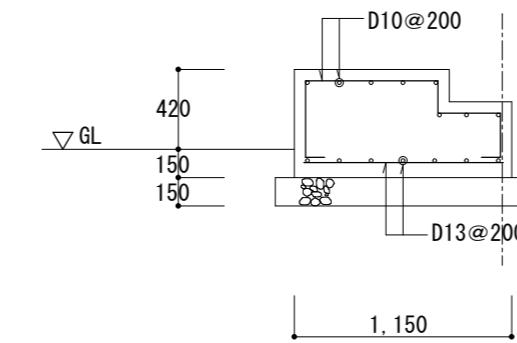
立上り・土間コン配筋図



間仕切り壁受基礎



階段基礎配筋図



・構造設計担当 巧 設計室  
1級建築士 宮原 仁 大臣登録 第282500号  
構造設計一級建築士 交付番号 第6894号


株式会社 進藤設計事務所

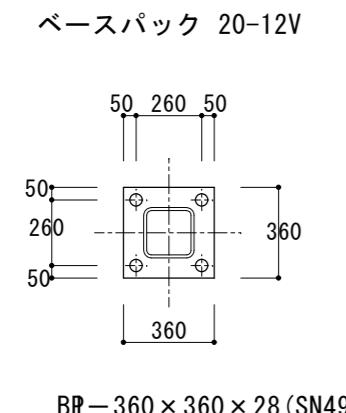
承認	設計	担当	縮尺	工事名称 旭分団詰所建設工事		No.
				A2-1:40	設計年月日	
				図面名称 基礎梁リスト		S-11

## 柱リスト

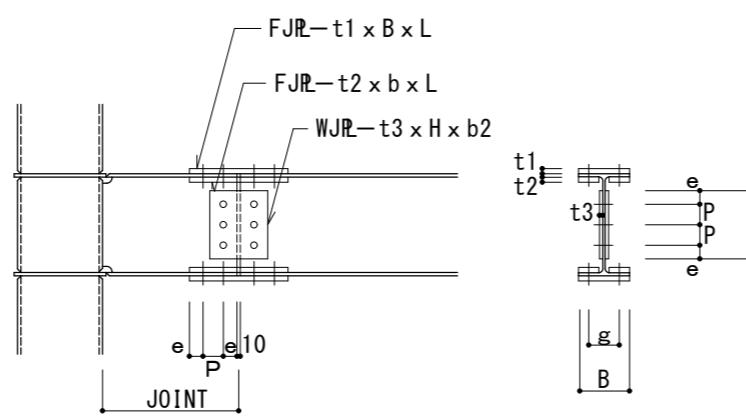
階	符 号	主 材	
2 階	C 1	□ - 200 × 200 × 9	
1 階	C 1	□ - 200 × 200 × 12	ベースパック
間 柱	P 1	□ - 100 × 100 × 6	GR-6 2-M16

大梁リスト 鉄骨材質 SN400B

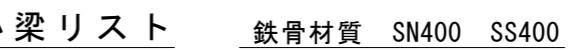
※大梁継手は、鉄骨構造標準接合部H型鋼編「SCSS-H97」に基づいている。



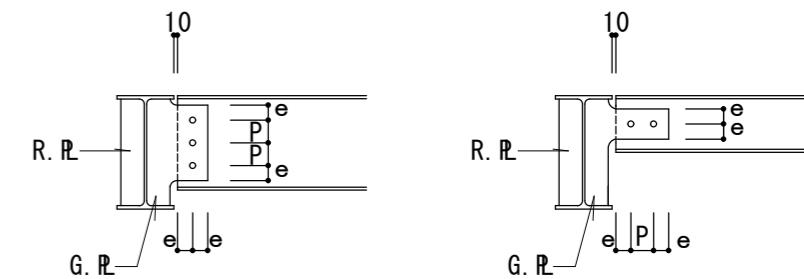
BP - 360 × 360 × 28 (SN49)



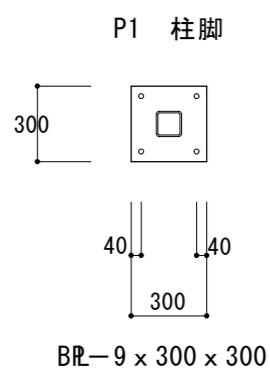
BOLT EDGE PITCH			GAUGE					
	e	p	B	125	150	175	200	225
M16	40	60	g	75	90	105	120	135
M20	40	60						
M22	40	60						



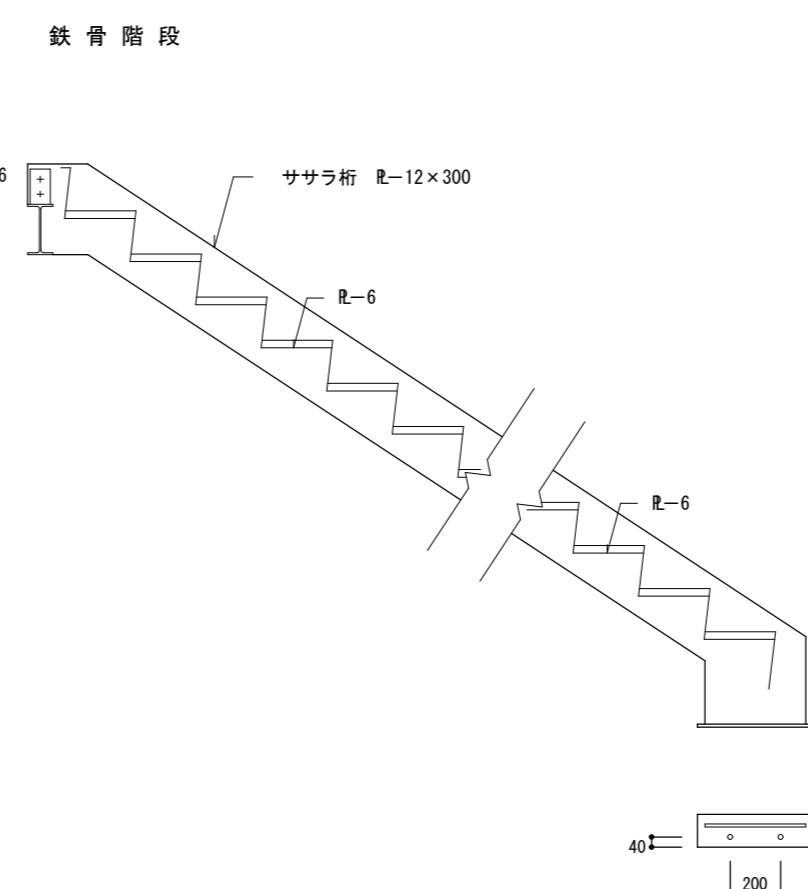
符 号	主 材	仕 口	
		G R	H T B
B 1	H - 250 x 125 x 6 x 9	9	2 - M20
B 2	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	6	2 - M16
B 3	H - 150 x 75 x 5 x 7	6	2 - M16
B 4	H - 175 x 90 x 5 x 8	6	2 - M16
CG1	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	端部溶接	
CB1	H - 200 x 100 x 5.5 x 8	端部溶接	
ブレース	M16 (ターンバックル付)	FB-9 x 75	GP-9 1-M16



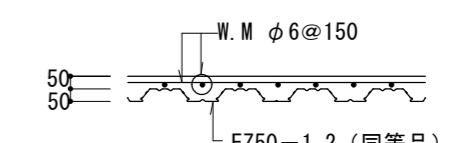
$$\begin{array}{lll} B1, & \rightarrow & P = 90 \\ B2, B3, B4 & \rightarrow & P = 60 \end{array}$$

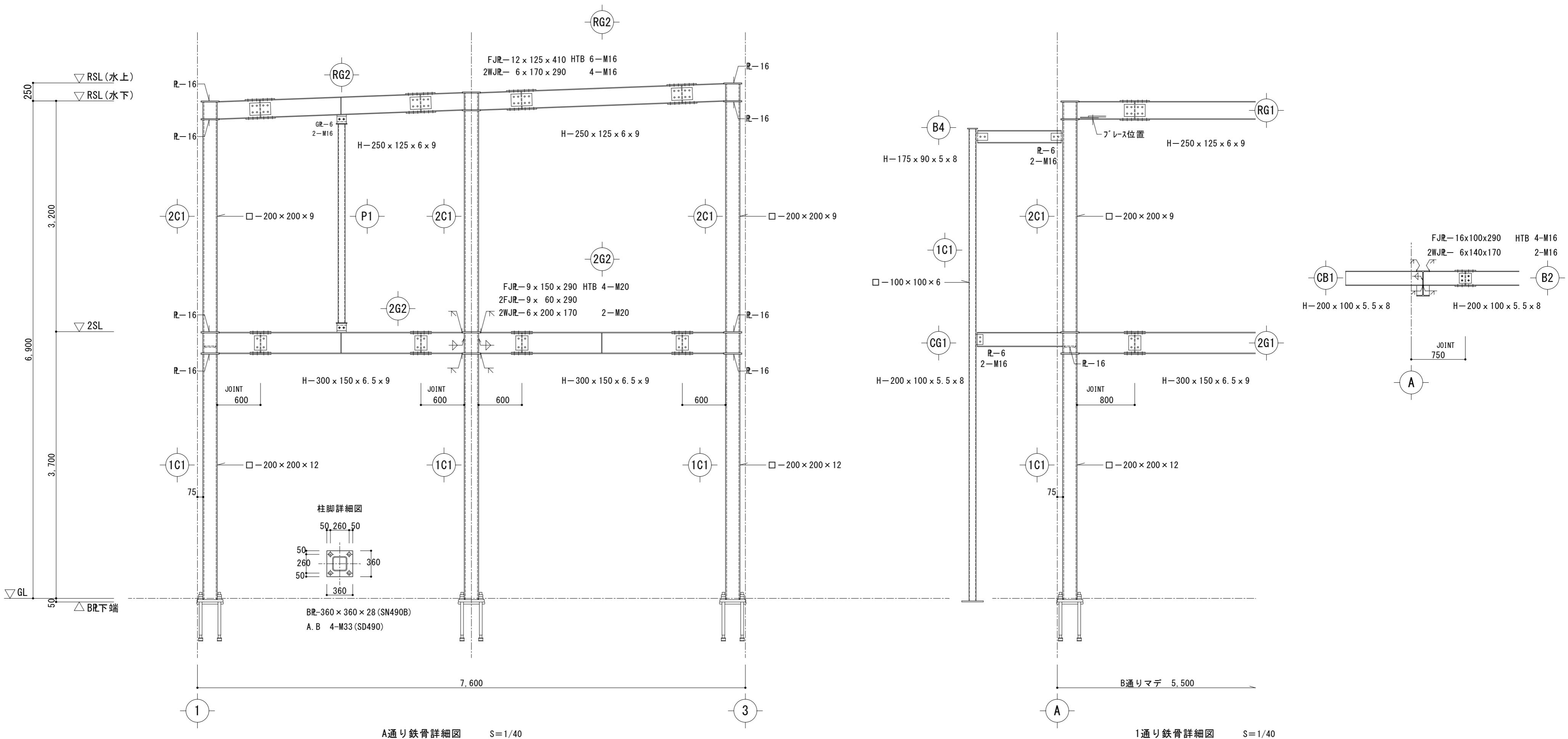


A. B 4-M16(L=320) D.

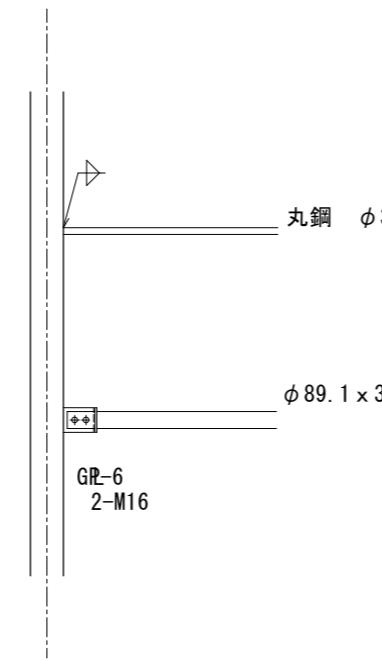
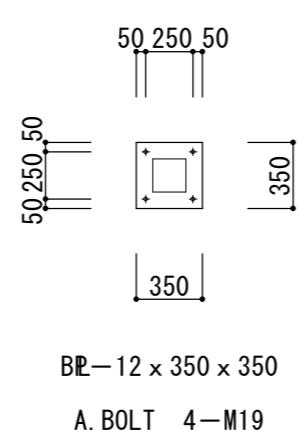
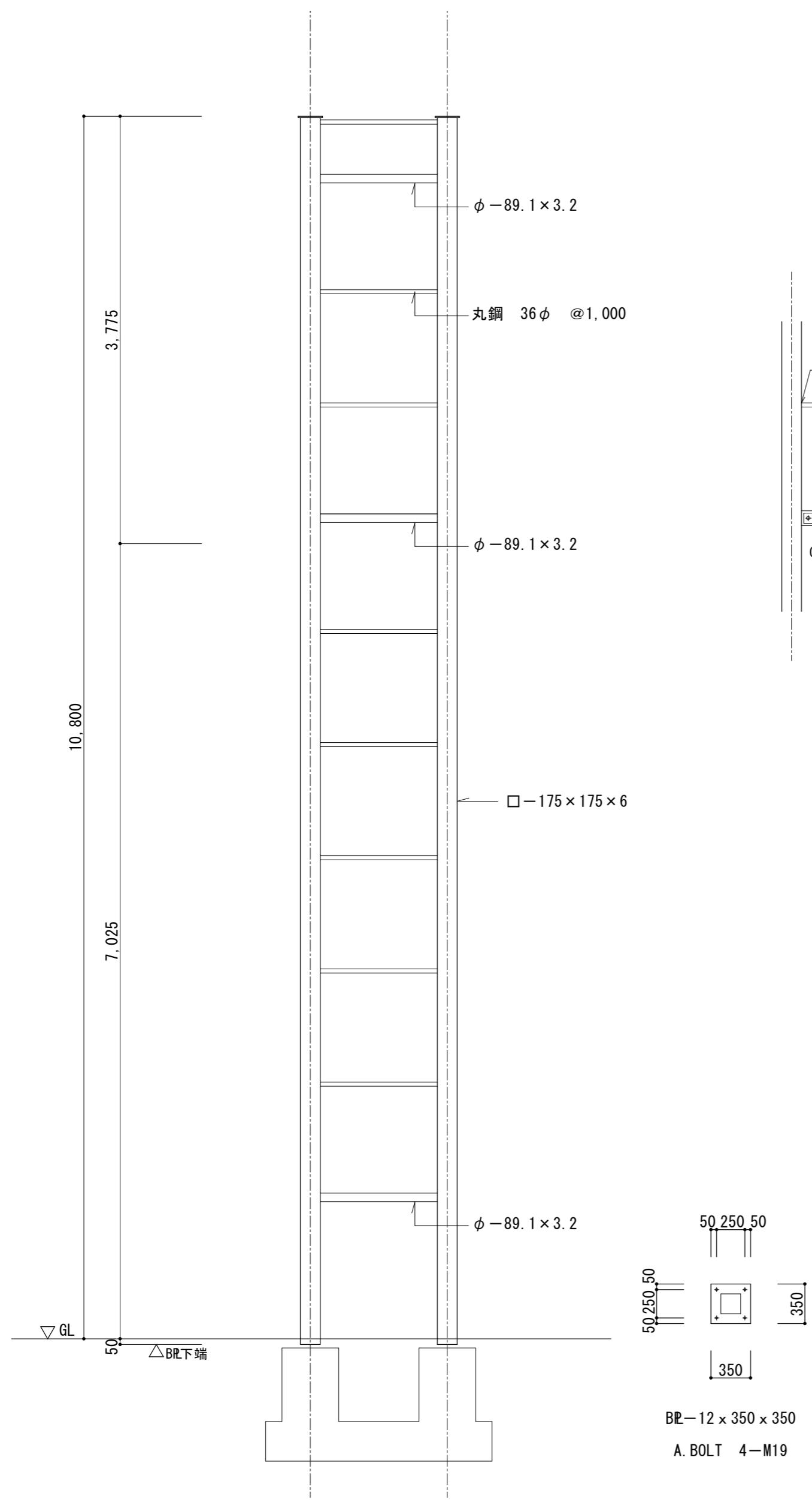


デッキスラブ配筋図

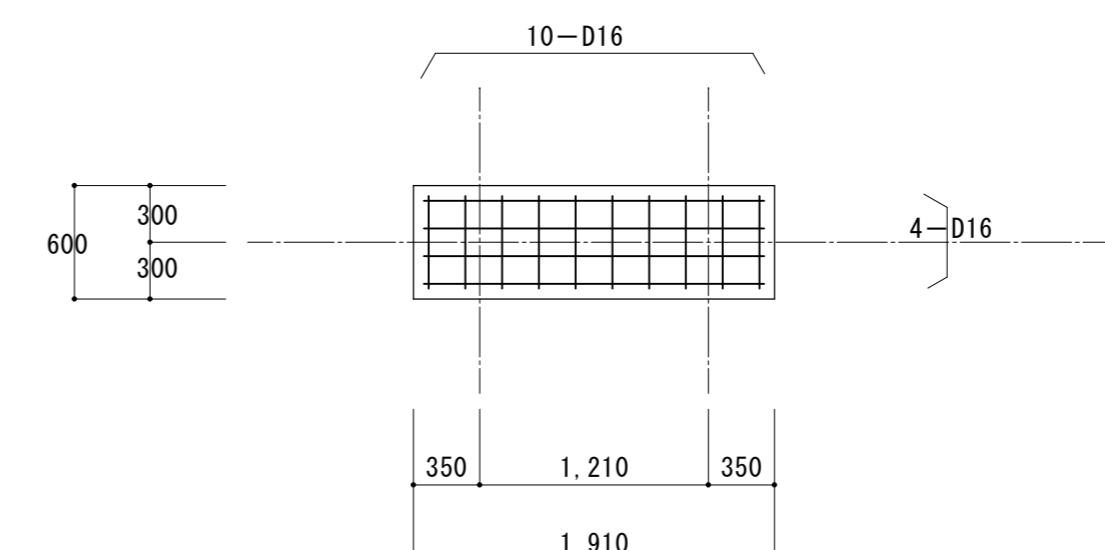
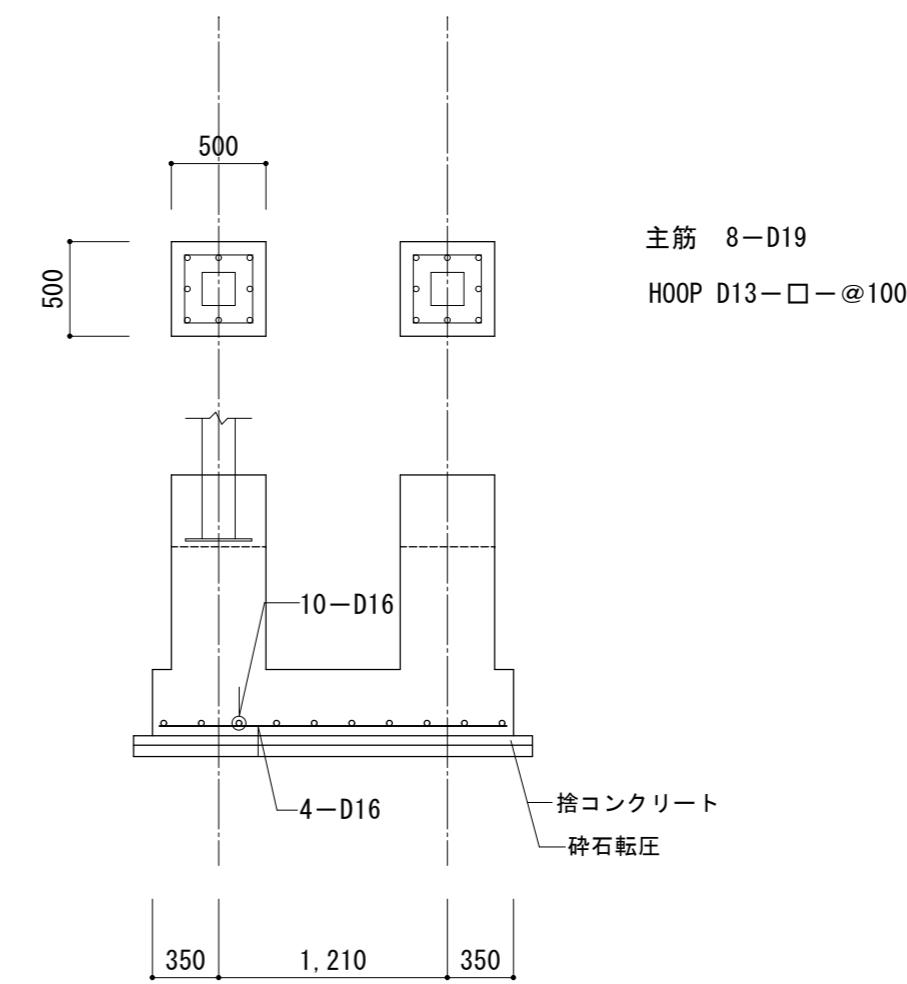




・構造設計担当 巧 設計室  
I級建築士 宮原 仁 大臣登録 第282500号  
構造設計一級建築士 交付番号 第 6894 号



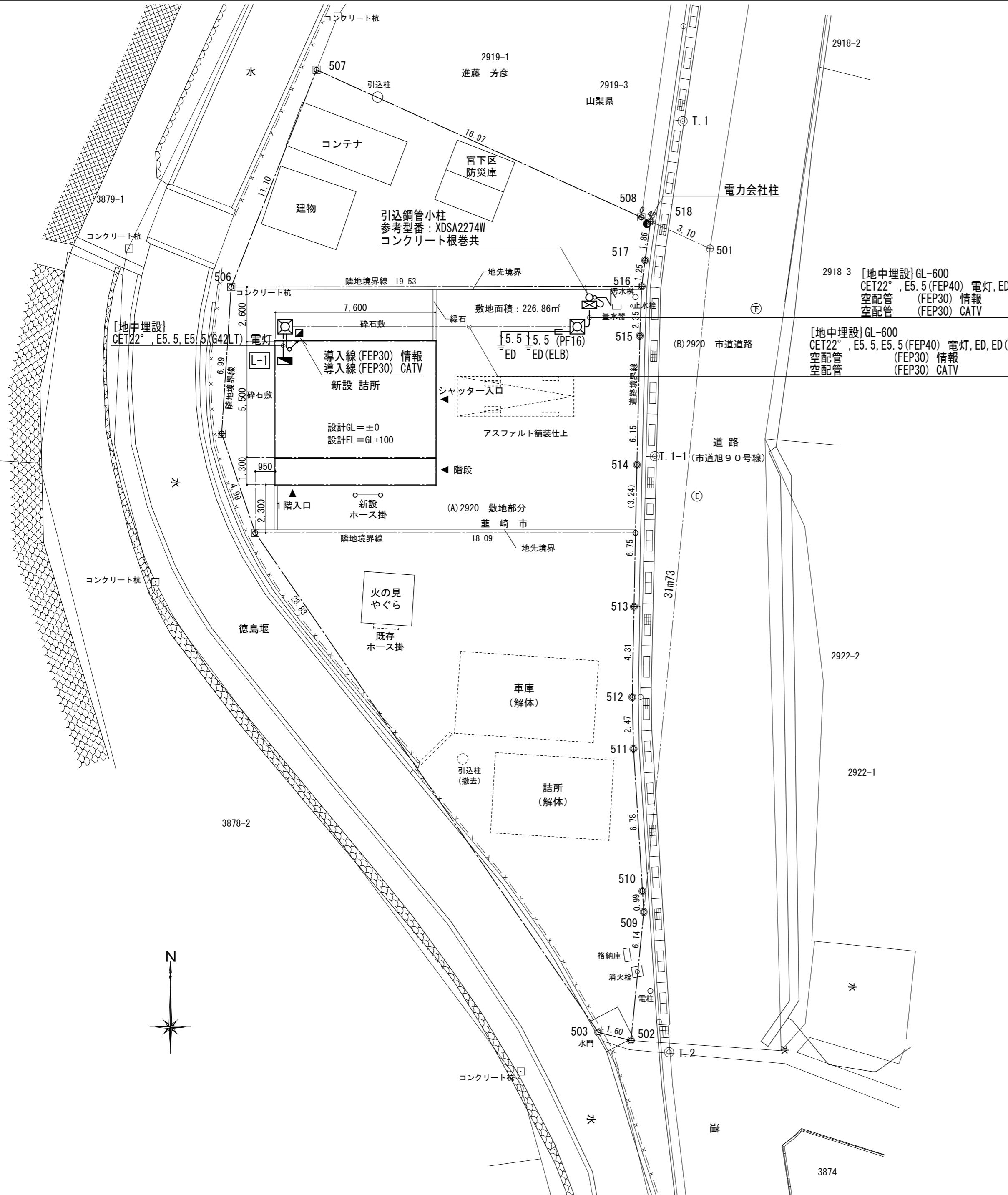
▽ GL  
1,080  
80  
650  
350  
110  
50  
60



基礎詳図 S=1:40

・構造設計担当：巧 設計室  
1級建築士 宮原 仁 大臣登録 第282500号  
構造設計一級建築士 交付番号 第 6894 号

特記仕様書		旭分団詰所建設工事											
I. 工事概要													
1. 工事場所 茅崎市旭町上条北割字宮下2920-2													
2. 建物概要													
建物名称	構造	階数	延床面積	消防法用途	備考								
消防分団詰所	S造	2階	81.58m <sup>2</sup>										
3. 工事項目													
建物別及び屋外													
工事種目					備考								
受電設備													
発電設備													
電力貯蔵設備													
幹線動力設備	○												
電灯・コンセント設備	○												
雷保護設備													
構内情報通信網設備	○												
構内交換設備													
情報表示設備													
映像・音響設備													
拡声設備													
誘導支援設備	○												
テレビ共同受信設備													
監視カメラ設備													
防犯・入退室管理設備													
火災報知設備													
舞台照明設備													
テレビ電波障害防除設備													
電気共用配管設備													
機械専用配管設備													
構内配電線路設備	○												
構内通信線路設備	○												
II. 工事仕様													
1. 共通仕様													
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（令和7年版）」による。													
また、改修工事に関しては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（令和7年版）」による。													
2. 適用基準													
・電気設備技術基準・内線規程・配電規程・高圧受電設備規程・建築基準法・消防法													
・建築設備耐震設計・施工指針2014年版・その他関係法令													
3. 提出書類													
工事契約書及び監督員の指示するもの。													
・工程表・施工計画書（要領書）・メーカーリスト・承諾図・施工図・工事写真・完成写真													
・試験成績書・機器完成図・完成図・保証書・取扱説明書・官公署届出書類等													
4. 特記事項の適用													
(1) 項目は○印のついたものを適用する。													
(2) 特記事項において選択する内容の事項は、●印の付いたものを適用する。													
(3) その他細部については、監督員の指示による。													
項目		特記事項											
III. 一般事項													
① 機材等		本工事に使用する設備機材等は、設計図書（「設備機材等選定表」を含む）に規定するもの又は、これらと同等なものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。											
化学物質を発散する建築材料等はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、パラジクロロベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。													
なお、ホルムアルデヒドを発散しないものとはJIS及びJASのF☆☆☆☆表示建築材料を、ホルムアルデヒドの発散が極めて少ないものはJIS及びJASのF☆☆☆表示建築材料又は同等品を云い、原則としてF☆☆☆☆表示建築材料を使用するものとするが、該当する材料等がない場合は、F☆☆☆☆表示建築材料又は同等品を使用するものとする。													
② 工事用電力・水・その他		本工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は請負者の負担とする。											
③ 工事写真		「営繕工事写真撮影要領」（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課）による。											
④ 発生材の処理		1) 引渡しを要するもの ○有( ) ●無し 2) 引渡しを要するもの以外 構外搬出とし、搬出及びその処理は ○別途工事 ●本工事 とする。 関係法令に従い適切に処理し、産業廃棄物マニフェストを提出すること。 3) 特別管理産業廃棄物 ○有( ) ●無し PCB使用機器は関係法令により適切に処理し、建物管理者に引渡す。 4) 再利用又は再資源化を図るもの ○有( ) ●無し ○現場説明書による。											
⑤ 残土処理		●構外搬出とし適切に処理する（自由処分） ○構内指示場所に敷き均し ○構内指示場所に堆積 ○構外指定場所（ ）に搬出											
⑥ 施工図の取り扱い		施工図等の著作権にかかる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。											
⑦ 凡例		図中に特記なきシンボル等はJIS-C-0303-00に準拠する。											
IV. 施工													
① 導入線		長さ1m以上の入線しない管路には、導入線（1.2mm以上のビニル被覆鉄線）を挿入する。											
② 位置ボックス		結露する恐れのある壁、天井にボックスを打込む場合は結露防止断熱カバー取付等の結露防止処置を行う。 遮音間仕切壁内に設置するボックスには遮音対策を施すこと。また、防火区画の壁には耐火遮音ボックスを使用する。 防火区画の壁内に使用するボックスは鋼製ボックスとし、ケーブル入線部には耐火バテを充填すること。 強弱共用ボックスにはセバレータを設けること。											
③ 電線管		合成樹脂可とう電線管はPVC一重管とする。 雨露出の露出部分は、厚鋼電線管（GZ）を使用すること。 屋外や水回りに使用する金属製可とう電線管はビニル被覆付とする。 下記の露出配管は塗装を行う。（プライマー処理後、SOP2回塗り指定色仕上） ○屋外（ ） ○屋内（ ）											
④ ブルボックス		屋内 ○鋼板製（指定色塗装） ●鋼板製（塗装なし） ○合成樹脂製 ●ステンレス製 床下、ビット等、水気の多い場所 ●ステンレス製 ○溶融亜鉛メッキ鋼板製 ○合成樹脂製 屋外 ●ステンレス製 ○溶融亜鉛メッキ鋼板製 ○合成樹脂製 鋼板製、ステンレス製は接地端子付とする。											
⑤ ケーブル、電線		電線ケーブル類は、環境対策型「エコマテリアル」（EM）製品を使用する。 ただし、既製品のない種類のものは承諾を得ること。											
⑥ ケーブル行先表示		ハンドホール、幹線用ブルボックス、EPS内ケーブルラックおよび分電盤等、要所の電線等には名札を取付け、用途、ケーブル種別、配線サイズ、電源種別（電圧）、出先～行先、施工年月日および施工者を表示すること。											
7. 防火区画等		ケーブル、電線管、ケーブルラック等の防火区画貫通箇所には耐火処置を施すこと。 防火区画貫通処理は、監督員の承諾を得たうえ、国土交通大臣認定品を使用することができる。											
⑧ プレート		フラッシュプレート ●樹脂製 ●新金属製 ○ステンレス フロアプレート ○砲金製 ●アルミ合金製											
⑨ 盤類の鍵		盤類の鍵は原則として200番とし、使い分けが必要な場合は550番とする。											
⑩ スイッチ		●タンプラスイッチ埋込用大角形（ネーム付） ○ワイド型（ネーム付）											
11. フロアコンセント		●プラグ収納型 ●アップ型											
⑫ 接地極		特記なき接地極は下記による。 接地極種類 記号 接地抵抗値 接地極 共用接地 EAD 10Ω以下 EB(14φ)×3連-2組 以上 共用接地 EACD 10Ω以下 EB(14φ)×3連-2組 以上 A種接地 EA 10Ω以下 EB(14φ)×3連-2組 以上 B種接地 EB 50Ω以下 EB(14φ)×3連-2組 以上 C種接地 EC 10Ω以下 EB(14φ)×3連-2組 以上 D種接地 ED 100Ω以下 EB(14φ)×3連-1組 以上 高圧避雷器用 ELH 10Ω以下 EB(14φ)×3連-2組 以上 避雷設備用 ELA 10Ω以下 EB(14φ)×3連-2組 以上 交換装置用 EAt 10Ω以下 EB(14φ)×3連-2組 以上 通信用 EAt 10Ω以下 EB(14φ)×3連-2組 以上 通信用 EDt 100Ω以下 EB(14φ)×3連-1組 以上 保安器用 ELt 100Ω以下 EB(14φ)×3連-1組 以上 測定用 Et 10Ω以下 EB(10φ)×1(L=1,000mm) 以上											
⑬ 保安器用接地		●本工事 ○別途											
⑭ 接地極埋設標		接地極埋設箇所には接地極埋設標（金属製）を取付けること。（屋外灯を除く）											
⑮ 地中埋設深さ		地中埋設深さは原則として下記による。 ・低圧および弱電線路 GL-600以上 ・高圧線路 GL-600以上											
⑯ 埋設シート		地中線路にはケーブル埋設標識シート（2倍長以上）を設ける。											
⑰ FEP電線管		地中埋設配管に使用するFEP電線管は難燃性とする。											
⑱ 地中線埋設標		構内線路における埋設標の材質及び											



埋設管路施工要領図



a (呼び径)	b (間隔)
50以下	50以上
51~150	70以上
151以上	100以上

凡例

\*配線器具のプレート仕様は新金属製とする

凡例

-----	天井隠蔽配管・配線
-----	天井内ケーブル配線
-----	床隠蔽配管・配線
-----	露出配管・配線
-----	地中埋設配管・配線

特記なき配線は下記による。

■幹線動力・電灯・コンセント設備

-----	EEF1.6-2C	(露出E19/GZ16) (壁内PF16)
-----	EEF1.6-3C	(露出E25/GZ22) (壁内PF22)
-----	EEF1.6-3C (1C接地)	(露出E25/GZ22) (壁内PF22)
-----	EEF1.6-2C+2C	(露出E25/GZ22) (壁内PF22)
-----	EEF1.6-2C+2C (1C接地)	(露出E25/GZ22) (壁内PF22)
-----	EEF1.6-3C+3C	(露出E31/GZ28) (壁内PF28)
2.0 -----	EEF2.0-2C	(露出E19/GZ22) (壁内PF22)
-----	EEF2.0-3C (1C接地)	(露出E25/GZ22) (壁内PF22)
-----	IE2.0×4, E1.6	(E25)
6 -----	IE1.6×6	(E25)
8 -----	IE1.6×8	(E25)
9 -----	IE1.6×8, E1.6	(E25)

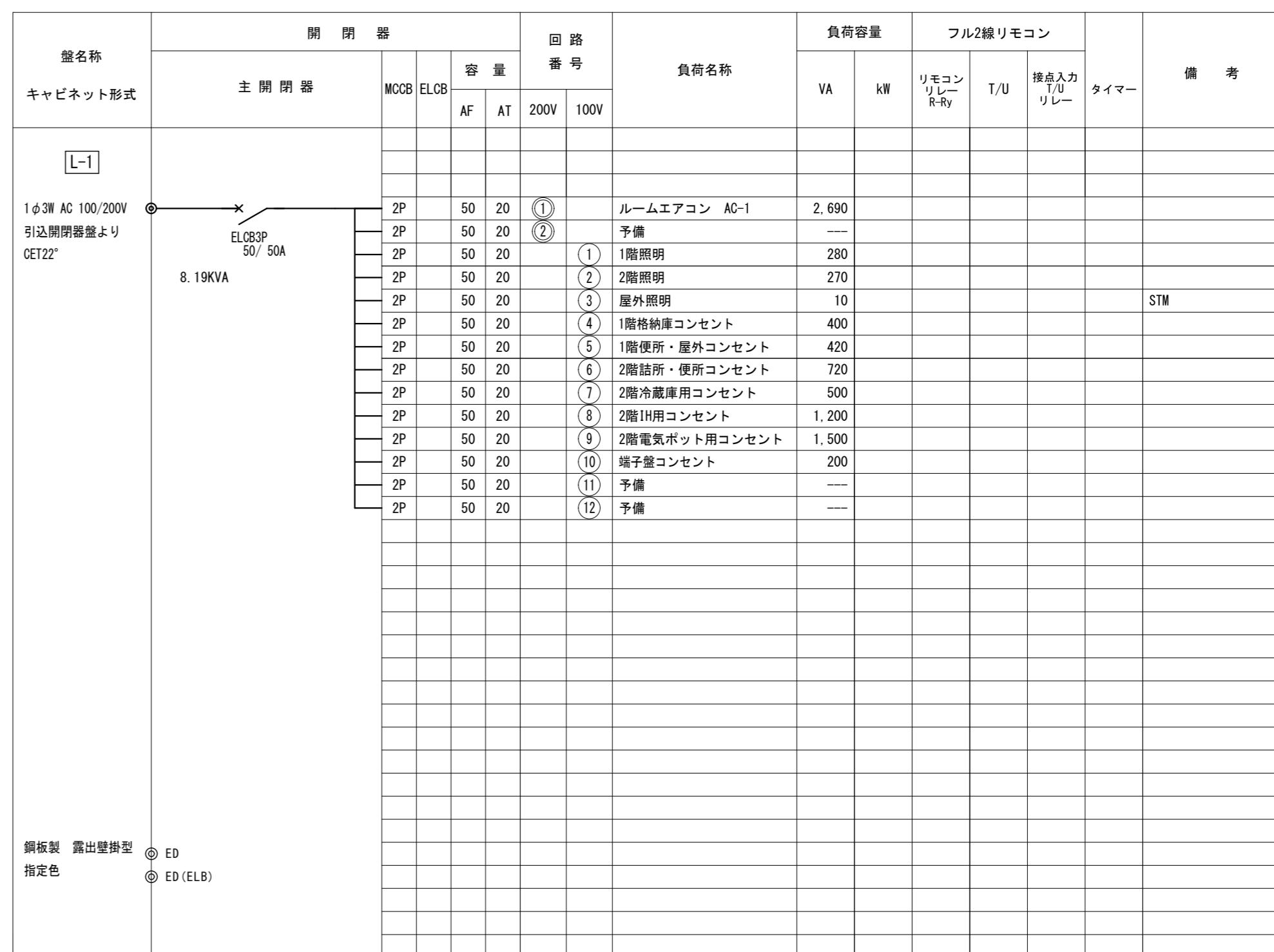
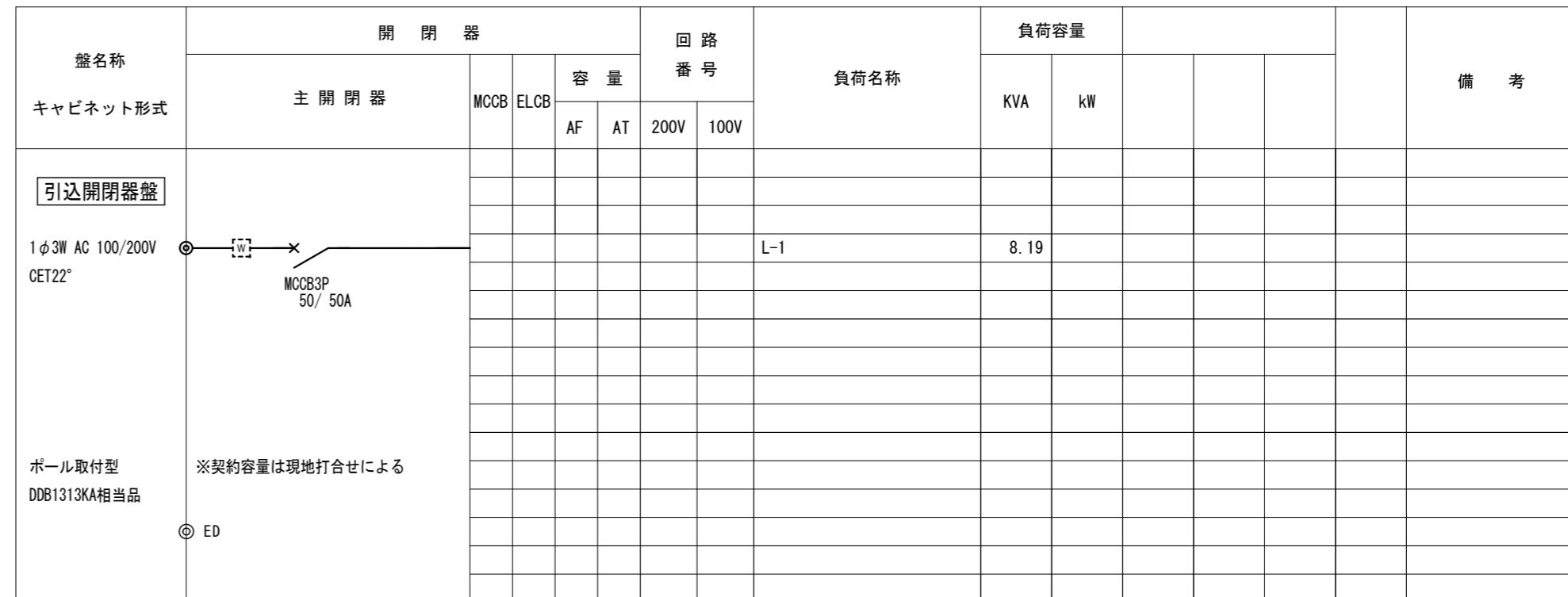
■弱電設備

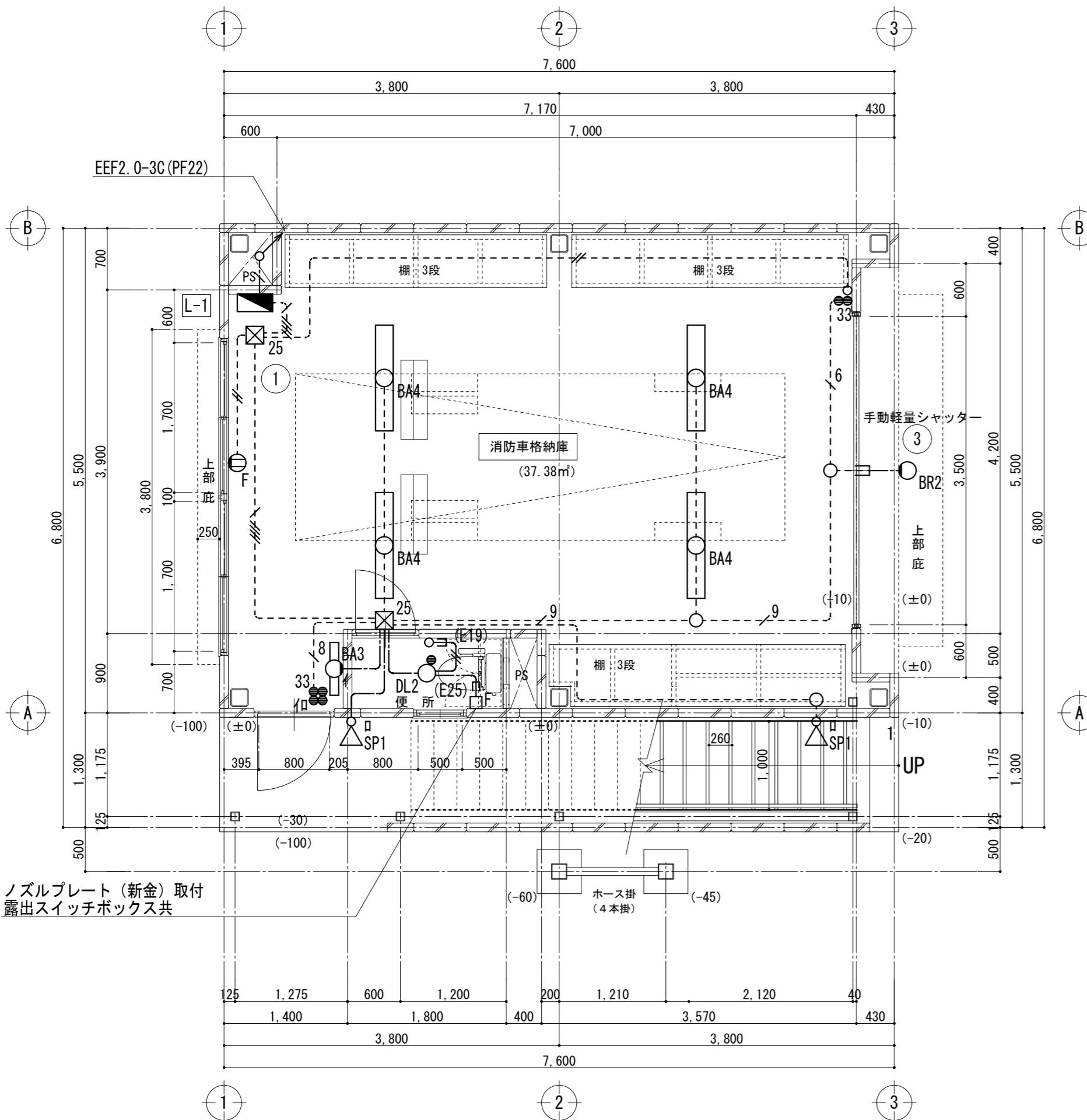
5C	EM-S-5C-FB	(露出E19/GZ16) (壁内PF16)
c	空配管	(PF22)

※特記なき場合、屋内露出部はねじなし電線管、屋外露出部は厚鋼電線管(GZ仕様)とする。

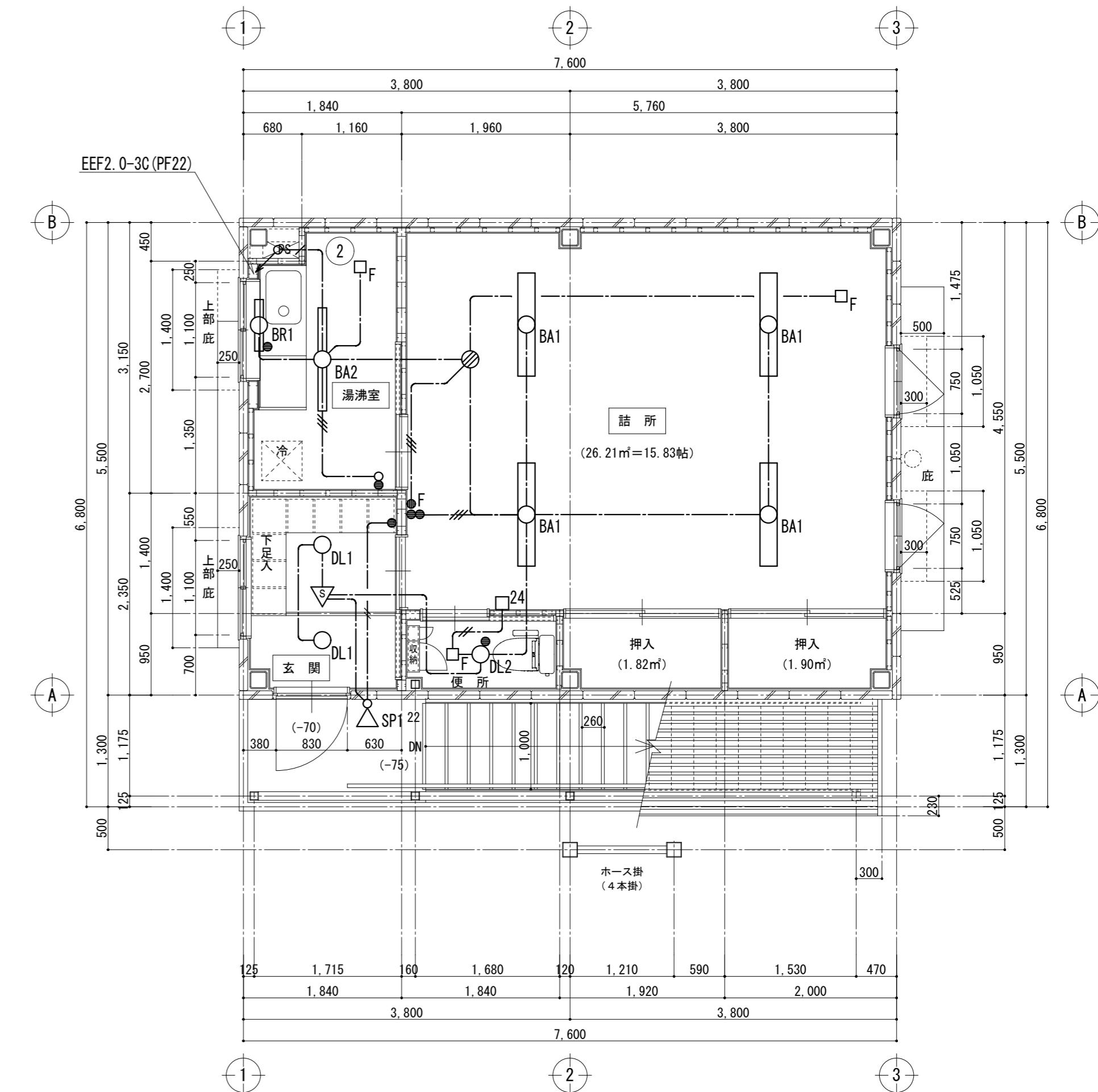
BA 1	LED直付型40形 6900lm W150	BA 2	LED直付型40形 4000lm W150	BA 3	LED直付型20形 1600lm W150
LSS9-4-65LN	LSS9-4-37LN	LSS1-2-15LN			
一般タイプ、6900lmタイプ 消費電力43.1W、定格出力型、電圧100~242V 本体：銅板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー：ポリカーボネート（乳白） 光束維持時間40000時間（光束維持率85%） 電球色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵	一般タイプ、4000lmタイプ 消費電力25W、定格出力型、電圧100~242V 本体：銅板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー：ポリカーボネート（乳白） 光束維持時間40000時間（光束維持率85%） 電球色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵	一般タイプ、1600lmタイプ 消費電力11.6W、定格出力型、電圧100~242V 本体：銅板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー：ポリカーボネート（乳白） 光束維持時間40000時間（光束維持率85%） 電球色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵			
BA 4	LED直付型40形 5200lm 防湿型・防雨型	DL 1	LEDダウンライト 60形	DL 2	LEDダウンライト 150形電球1灯器具相当 センサ付
LSS1MP/RP-4-46LN	LRS1-05LN	LDS2-LRS1-13LN			
一般タイプ、5200lmタイプ 消費電力32.5W、定格出力型、電圧100~242V 本体：ステンレス（高反射白色粉体塗装） 防湿型・防雨型ライトバー：ポリカーボネート（乳白）+アクリルコーティング 光束維持時間40000時間（光束維持率85%） IP23防湿型、昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵	電源ユニット内蔵、一般光色タイプ 5000K、Ra85、拡散タイプ 光源遮光角15度、光束維持時間40000時間（光束維持率85%） 器具光束：610lm、消費電力：4.2W、電圧：100~242V 反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：銅板（ホワイトつや消し仕上） 枠：銅板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ100	電源ユニット内蔵、一般光色タイプ センサ付、5000K、Ra85、拡散タイプ 光源遮光角15度、光束維持時間40000時間（光束維持率85%） 器具光束：1660lm、消費電力：11.8W、電圧：100~242V 反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：アルミダイカスト（ホワイトつや消し仕上） 枠：銅板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ150			
BR 1	LEDキッチンライト 20形直管蛍光灯1灯器具相当	BR 2	LED赤色表示灯	SP 1	LEDスポットライト 80形電球1灯器具相当
LGB52094LE1相当品	NNF20298Z相当品	LGW40190LE1相当品			
昼白色（5000K）、Ra83 器具光束980lm、消費電力1.2W、電圧100V 拡散タイプ、壁直付型・棚下直付型、コンセント付 カバー：プラスチック（乳白） スイッチ付	予備電源別置型：非常用LED併用型 光寿命40000時間 壁直付型 防雨型	電球色（2700K）、Ra83 器具光束570lm、消費電力2W、電圧100V 拡散タイプ アラミダイカスト（オフブラック） ハーフ：ガラス（透明） 照射方向可動型、可動範囲上下90度 回転方向330度			

※照明器具消費電力はJIS C 8105-3 の試験方法による。

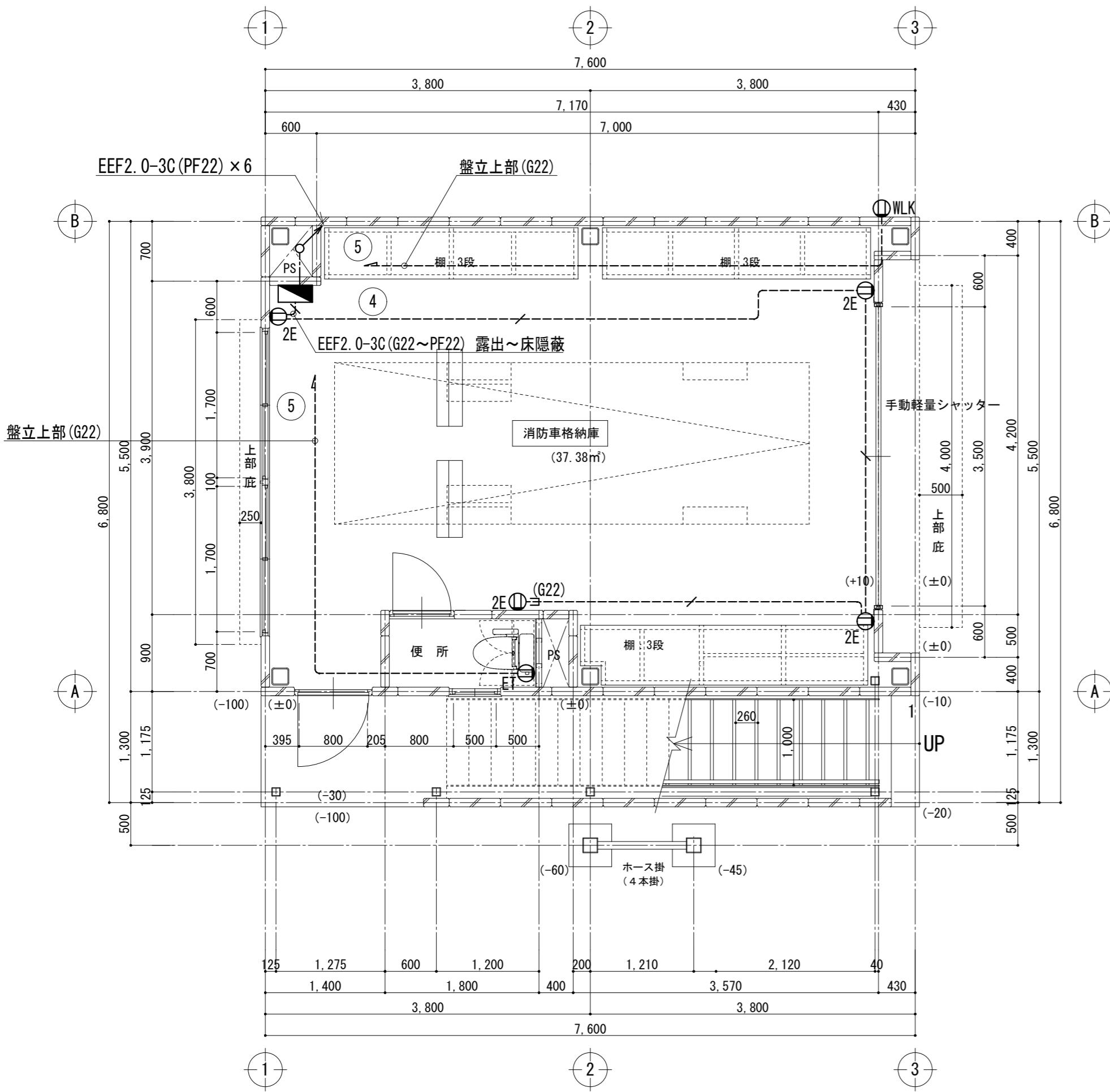


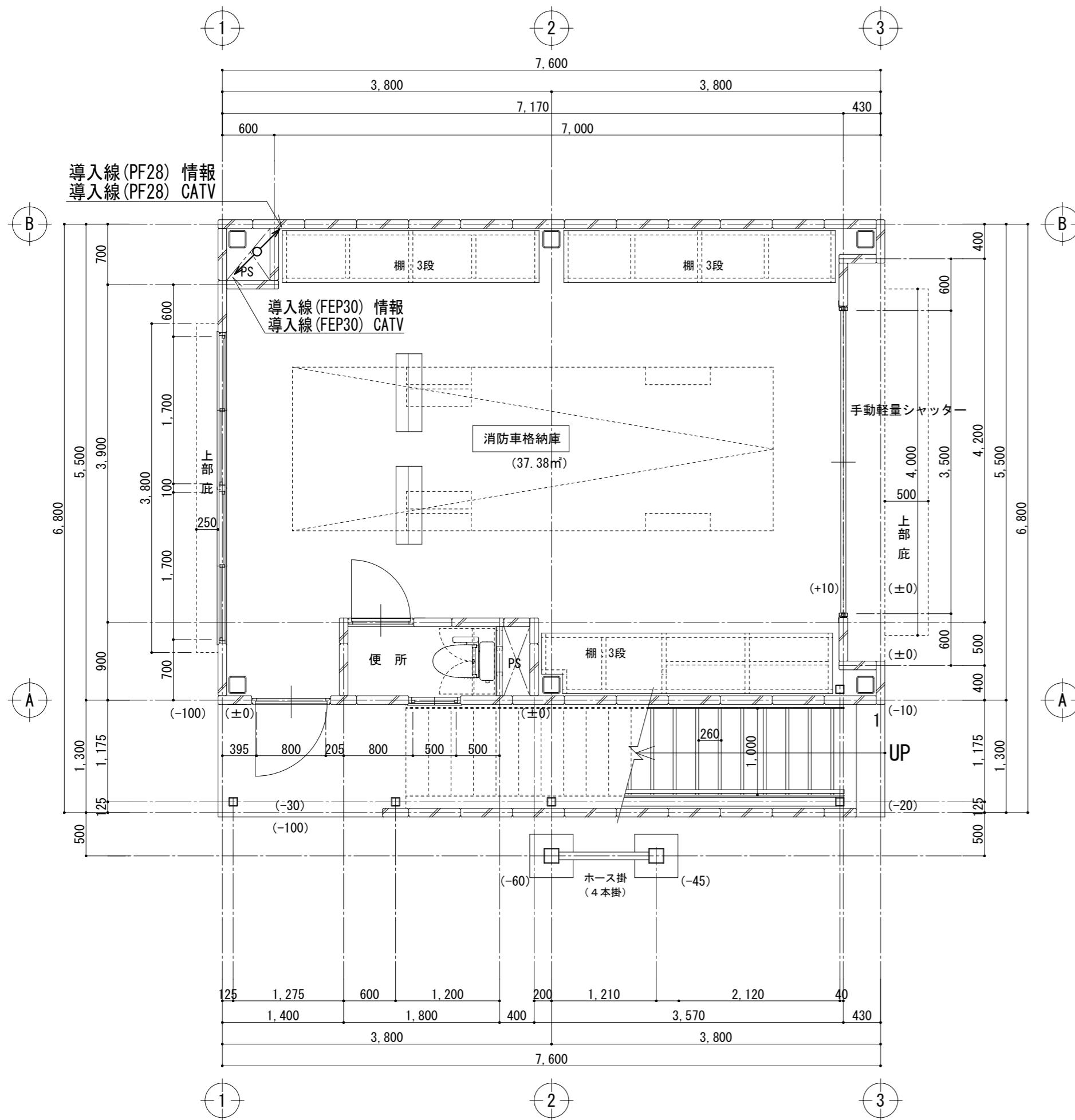


1 階 平面詳細図 1/50



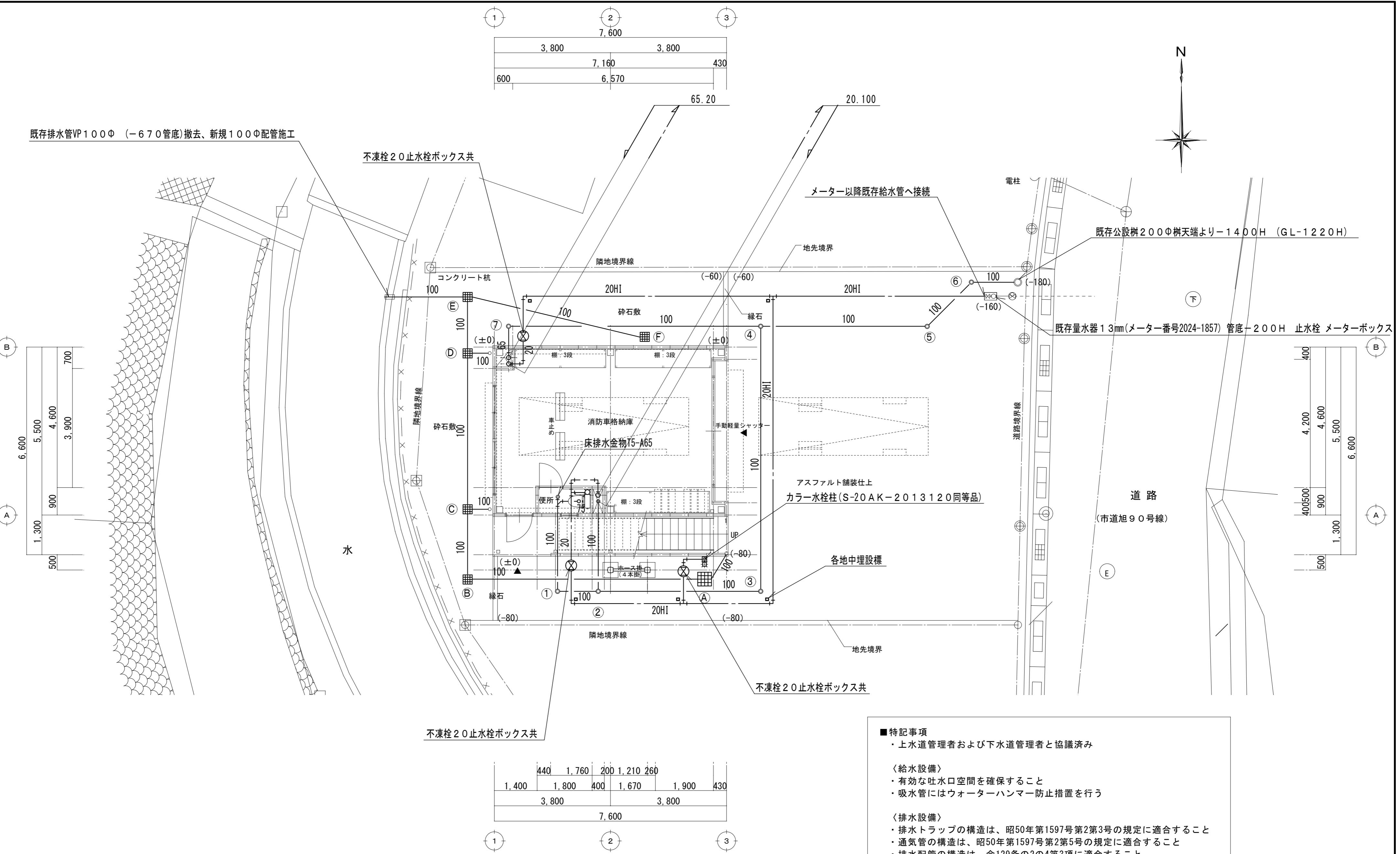
2 階 平面詳細図 1/50





## 特記仕様書

建築工事	～ 雨水縦樋	壁掛換気扇用木枠	流し台セット（排水金物共）	便所収納棚
電気工事	～ 換気扇用スイッチ及び配線.	24時間換気表示スイッチ取付（配線共）	換気扇用コントロールスイッチ取付	
本工事	～ 換気扇用コントロールスイッチ	電気工事へ支給		
別途工事	～ 既存不明給水管撤去			
エアコン	-----三菱	日立	ダイキン	
換気扇	-----三菱	ナショナル	東芝	
衛生器具	-----TOTO	LIXIL		
水栓柱	-----竹村	マエザワ	セキスイ	
バルブ・パイプ類	-----JIS規格品	JWWA規格品	WSP規格品	



■ 特記事項

- ## ■特記事項 ・上水道管理者および下水道管理者と協議済み

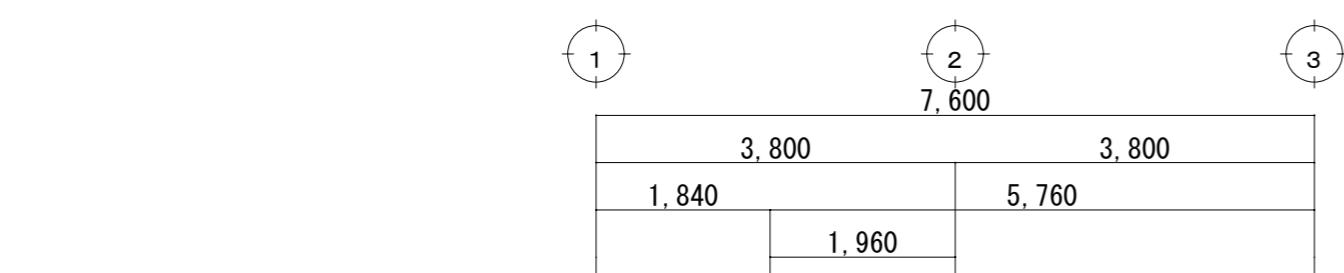
〈給水設備

- ・有効な吐水口空間を確保すること
  - ・吸水管にはウォーターハンマー防止措置を行う

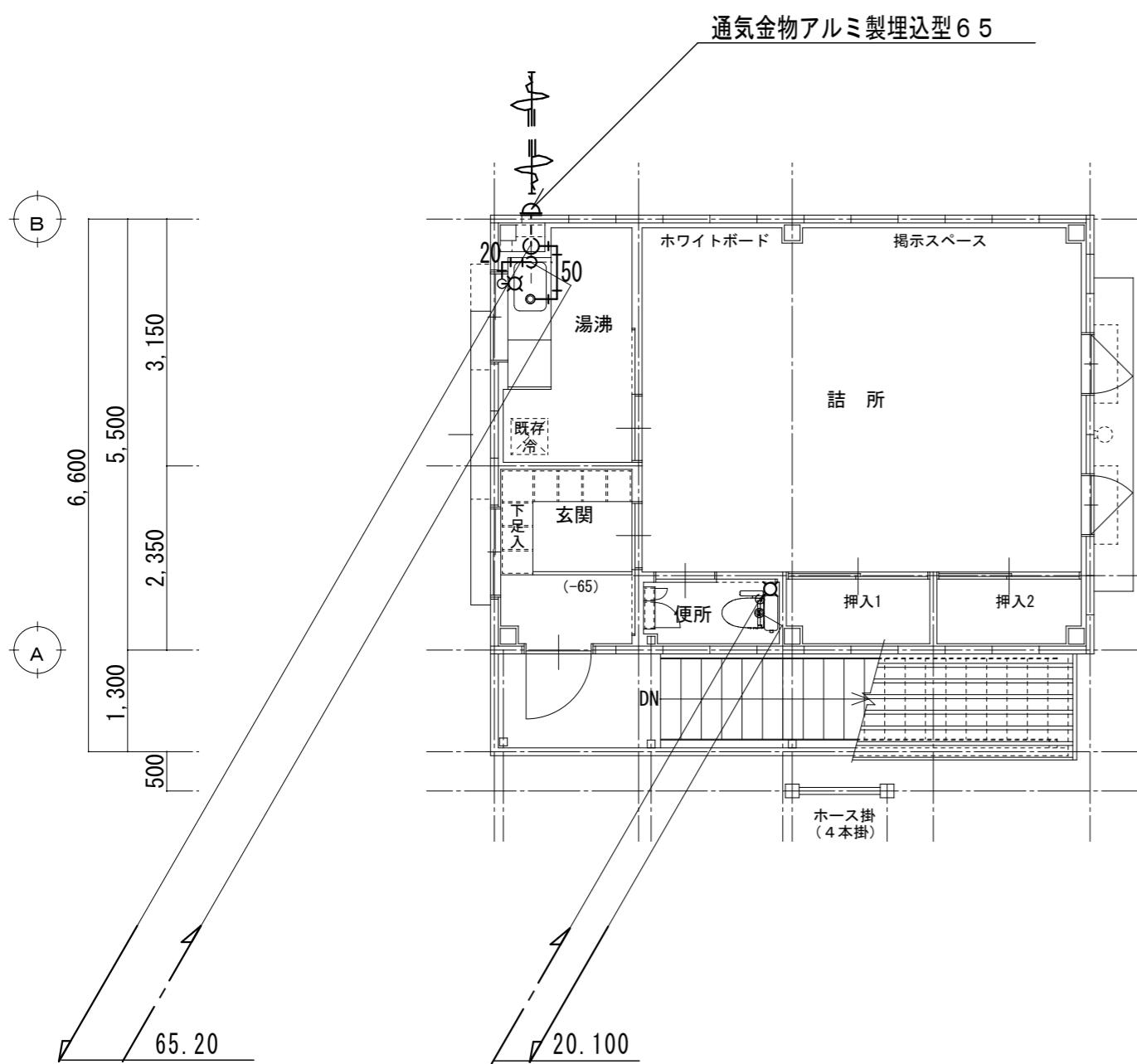
〈排水設備

- ・排水トラップの構造は、昭50年第1597号第2第3号の規定に適合すること
  - ・通気管の構造は、昭50年第1597号第2第5号の規定に適合すること
  - ・排水配管の構造は、令129条の2の4第3項に適合すること

1 階 平 面 図



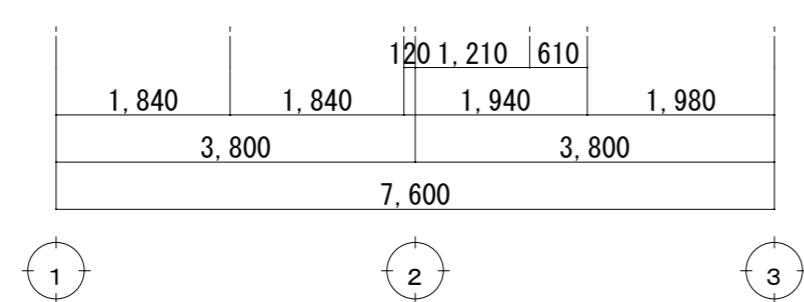
## 衛 生 器 具 表



## 2 階 平 面 図

\* 水栓類は節水固定コマとする

\* カラーは標準とし他は係員と協議の上決定とする。

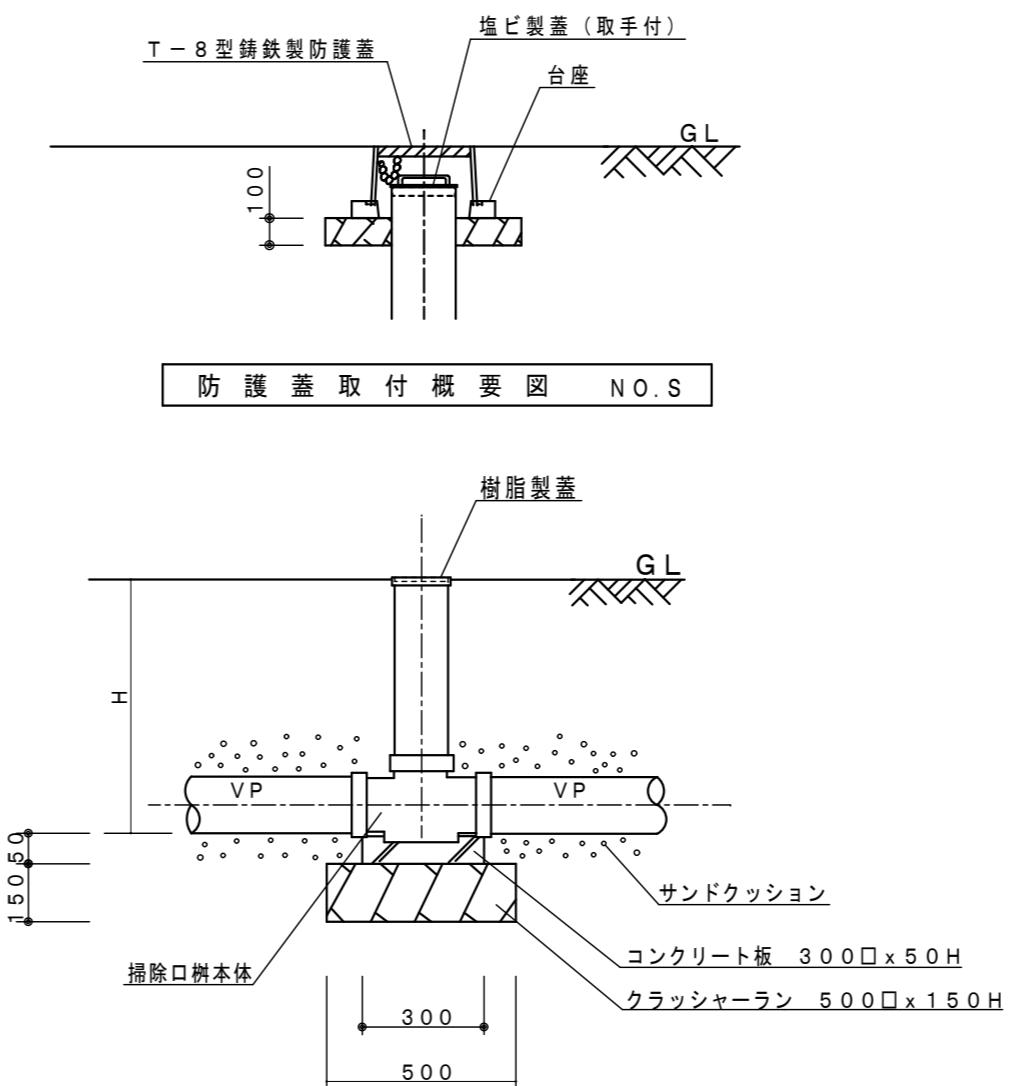


一級建築士事務所登録 梨1-041041号  
一級建築士 第190666号  
秋山 昭

樹 リ ス ト

\* 勾配は 1 / 50 以

\* 基準レベルは建物際のGLを±



掃除口枠と排水管の接続には、V P 変換ソケットを用いる。  
ピット内設置はスラブより吊り金具にて固定とする。

## プラスチックインパート樹概要図 N.O.S

## 掃除口柵（塩ビ柵）施工

\* 勾配は1／100以上

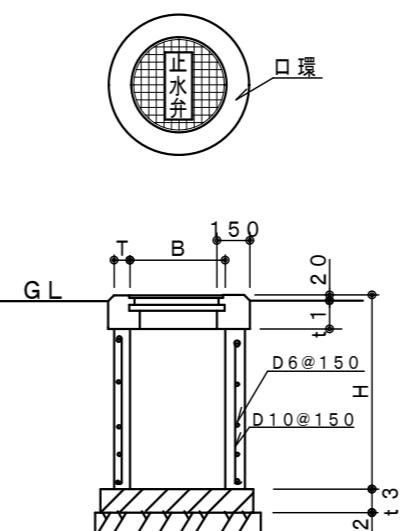
\* 基準レベルは建物際のGJを±0

This technical drawing shows a cross-section of a concrete structure, likely a foundation or wall, with various components labeled in Japanese:

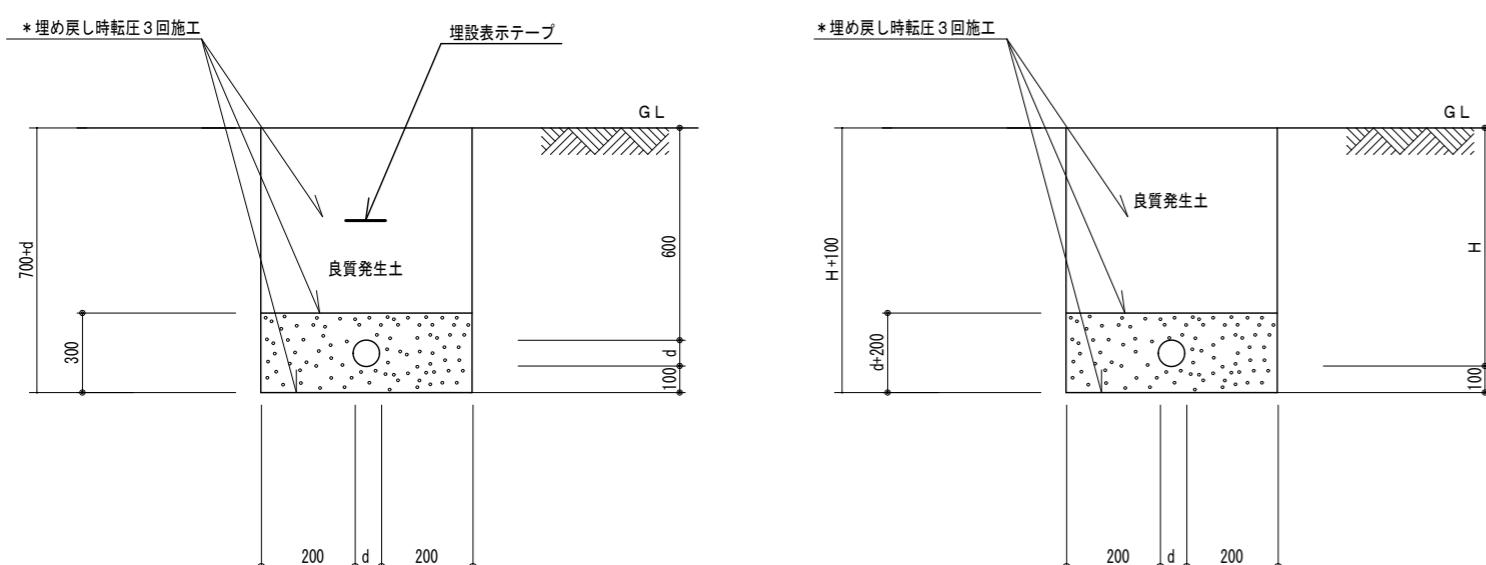
- Top Labels:** 格子・MH蓋 (Grate/MH Cover), PC口環 (PC Joint Ring), GL (Ground Line).
- Vertical Dimensions:**
  - 15.0
  - 10.0 T
  - 5.0
  - WL (Water Level)
  - モルタル (Mortar)
  - モルタル巻き (Mortar Coating)
  - 切込碎石 (Notched Crushed Stone)
  - 10.0
  - 5.0 15.0以上 (5.0 to 15.0 above) (Soil Layer)
  - 5.0
- Horizontal Dimensions:**
  - A: 300, 350, 450, 600
  - T: 50
- Other Labels:** 既製枠 (Prefabricated Frame), 目地モルタル (Joint Mortar).

樹類詳細図 NO. S

- ① プラスチック枠は、JSWAS K-7（下水道用硬質塩化ビニル製ます）とする。
  - ② ふたの耐荷重を必要とする場合は、JSWAS G-3（下水道用鉄製防護ふた）による。
  - ③ 立上がり部は、JIS K 6741（硬質ポリ塩化ビニル管）のVU又はJIS K 9797（リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管）のRS-VUとする。
  - ④ 枠のふたは、特記がない場合には密閉ふた（ワンタッチ式ドライバータイプ）とする。
  - ⑤ クラッシャランは、再生材とする。
  - ⑥ プラスチック枠と排水管の放流側接続には、VP変換ソケットを用いる。（市販品使用）
  - ⑦ 排水主管が75mmとなるインパート枠は、使用しない。レジューサ等を用いて100mmのサイズアップする。



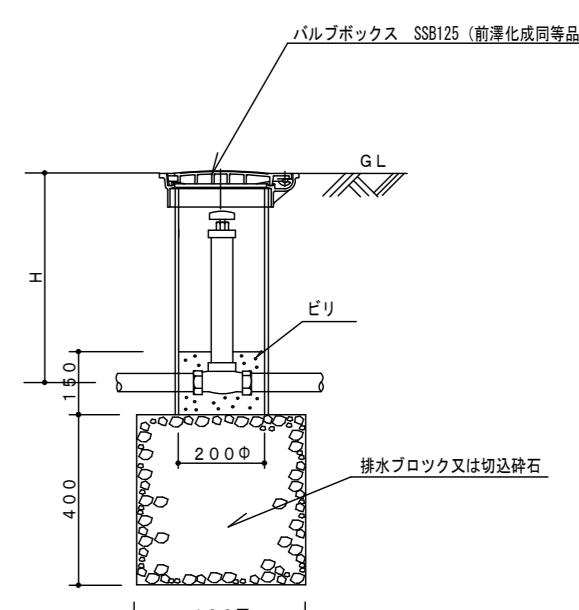
弁査参考図 NO. S



屋外給水管埋設断面図

屋外排水管埋設断面図

屋外埋設給水の主要な曲がり部分に地中埋設標を設置のこと(ピン製、コンクリート製)  
堀削幅は参考とする



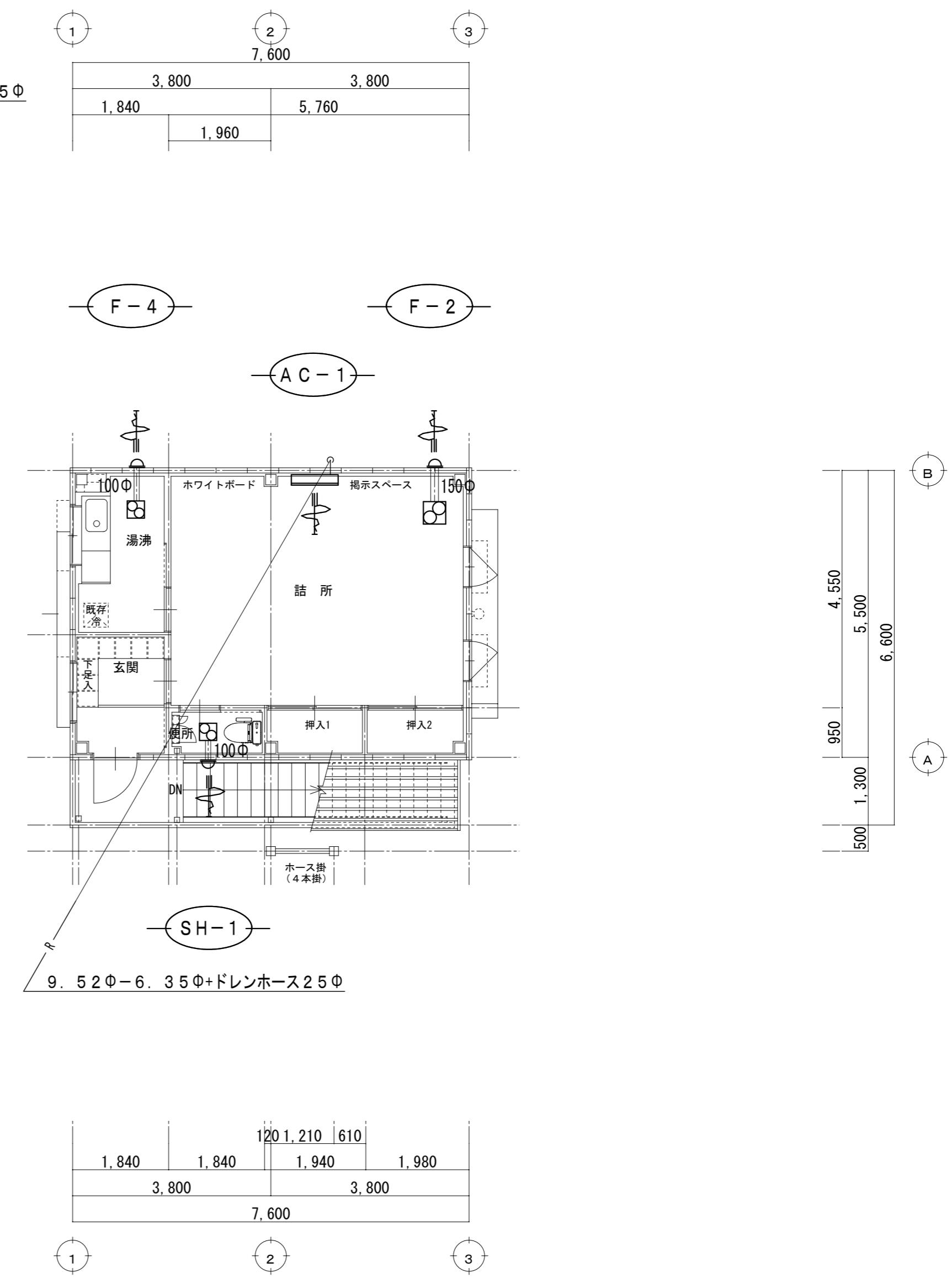
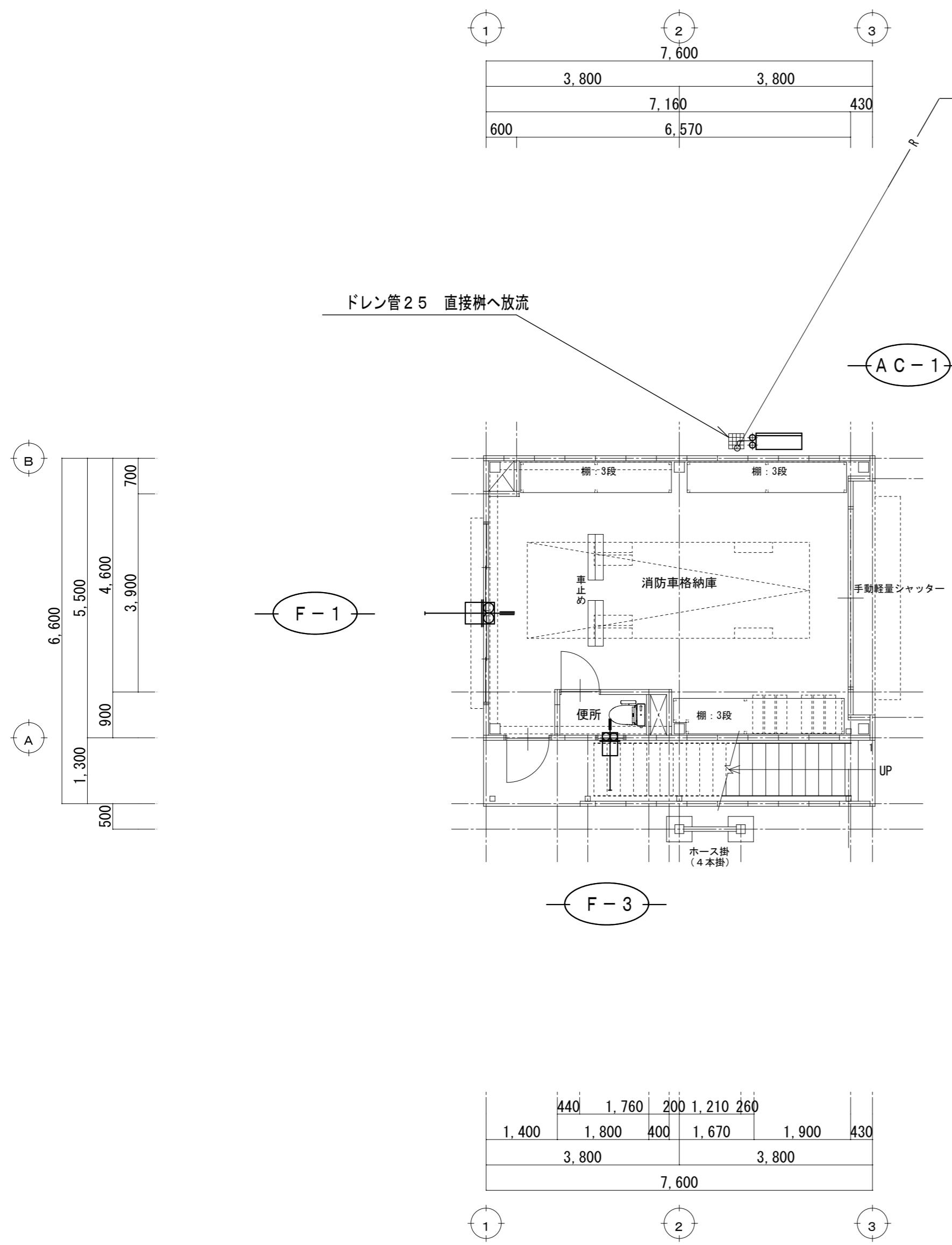
## 止水栓ボックス詳細図 NO. S

弁記 樹号	弁の 呼び径	B	H	T	t 1	t 3	t 2	ふた	備考
YAVC - 1	40以下	200	550	100	130	100	120	B1	(1) 側塊の接合は防水モルタル塗りとしズレ止めをつけるものとする.
YAVC - 2	40以下	200	850	100	130	100	120	B1	(2) 口環は鉄筋入りとする.
YAVC - 3	50~80	400	700	100	130	100	120	B2-A	(3) B1では、鉄筋は4本とする.
YAVC - 4	50~80	400	900	100	130	100	120	B2-A	
YAVC - 5	100~200	500	1200	120	130	100	120	B2-A	

## 機器表

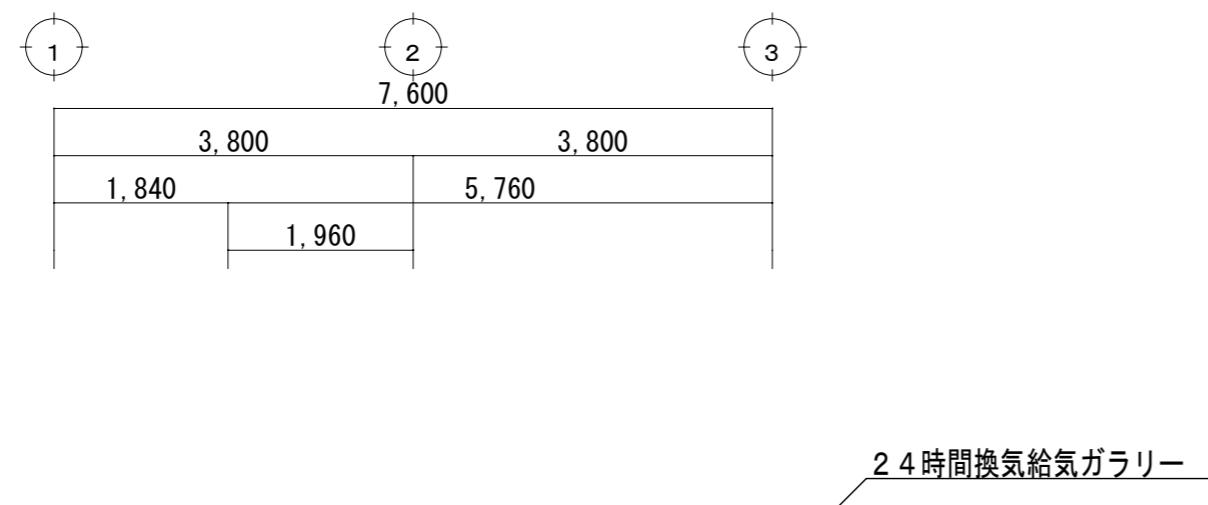
冷媒管保温施工仕様			
	施工箇所	保温の種別	施工例
冷媒管	屋内露出部	1. 架橋ポリエチレンフォーム保温筒 2. 塩ビ樹脂製保温化粧ケース (必要箇所をビス止メ)	
	屋外露出部	1. 架橋ポリエチレンフォーム保温筒 2. ステンレス鋼板 (SUS304) 3. シーリング	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冷媒管保温厚はガス管 20mm、液管 10mmとする</li> <li>○ 制御ケーブルは保温筒へ鉄線等で固定する事 (ピッチ 2M)</li> <li>○ 電源線及び制御線の仕様は採用メーカーに準じる</li> </ul>	

\*専用樹脂製据付台はHBM600S（竹原電設同等品）とする



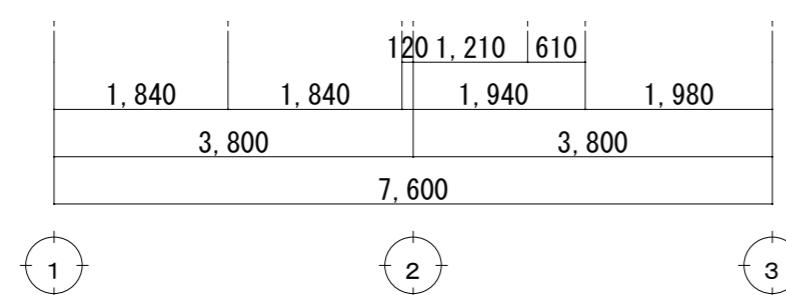
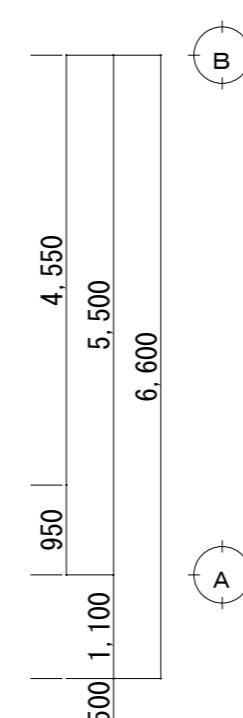
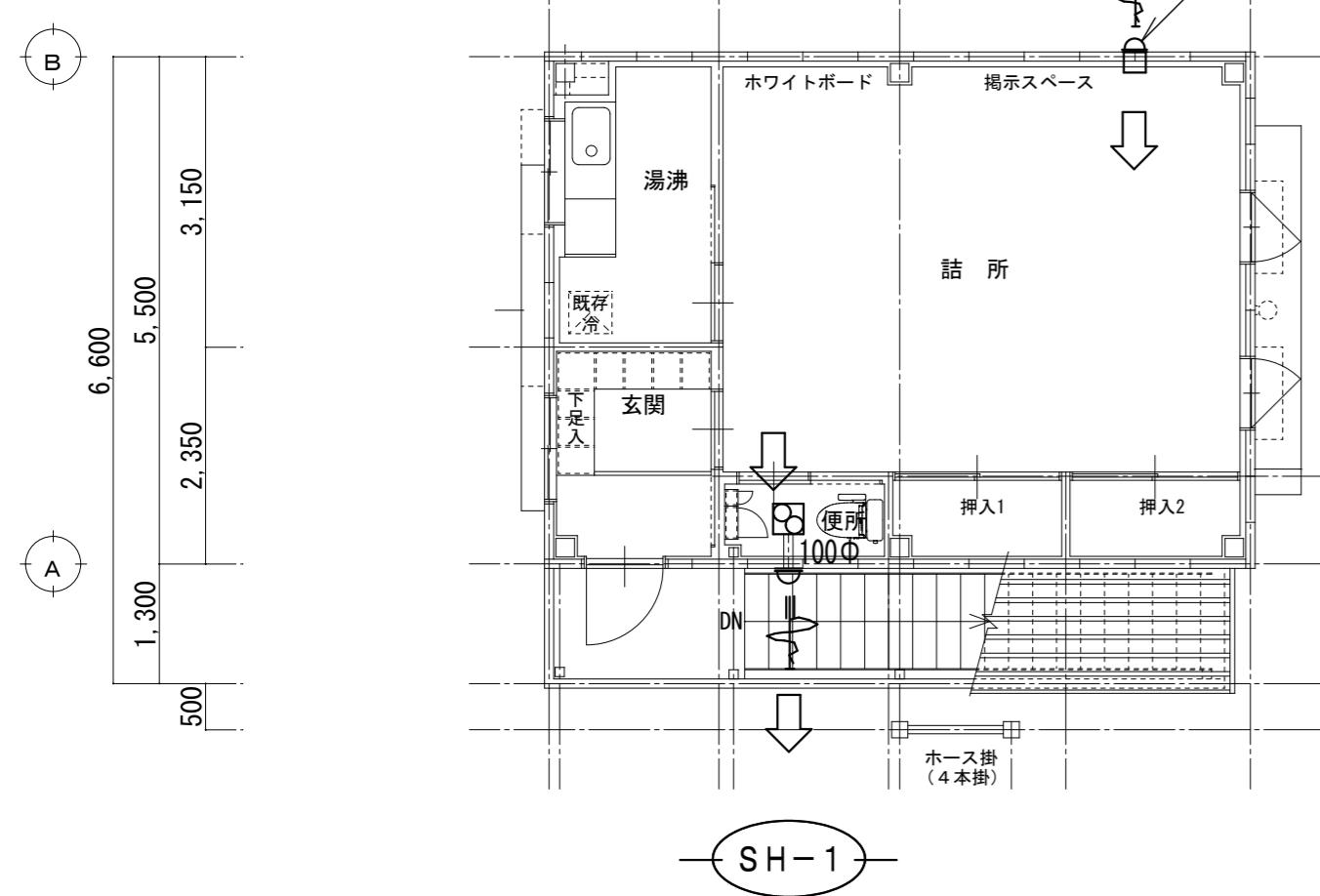
一級建築士事務所登録 梨1-041041号  
一級建築士 第190666号  
秋山 昭

	株式会社 進藤設計事務所	承認	設計	担当	縮尺 A2-1:80	工事名称	旭分団詰所建設工事	No.
						設計年月日	図面名称	冷暖房・換気 1. 2階平面図



24時間換気量計算書

室名	床面積 [m <sup>2</sup> ]	平均天井高 [m]	気積 [m <sup>3</sup> ]	換気種別	給気機による給気量 [m <sup>3</sup> /h]	排気機による排気量 [m <sup>3</sup> /h]	換気回数 [回/h]	必要換気量 [m <sup>3</sup> /h]	備考 使用機器名・記号
2階 話所	26.21	2.500	65.5	自然給気					
2階 便所	1.75	2.400	4.2						排気機設置室
計			69.7	第3種		80.0	1.14	69.7 m <sup>3</sup> /h × 0.3回 = 20.91 > 80.0	VD-10ZC14
								80.0 OK	SH-1



凡例	
←	換気経路を示す。
↑→□	外気給気ガラリーを示す。

24時間換気2階平面図 S=1:80

一級建築士事務所登録 梨1-041041号  
一級建築士 第190666号  
秋山 昭